

1 目的

板橋区かわまちづくり基本構想の具体化及び板橋区かわまちづくり計画を推進するため、区のかわまちづくりの基本的な考え方や整備・取組の方向性を示す「板橋区かわまちづくり基本計画」を策定する。

2 対象エリアとゾーニング計画



3 主な課題と方向性

【主な課題】

課題①
新たな利用者層を獲得するとともに、広大なオープンスペースを活用し、河川空間を訪れる人々を増やしていく必要がある。

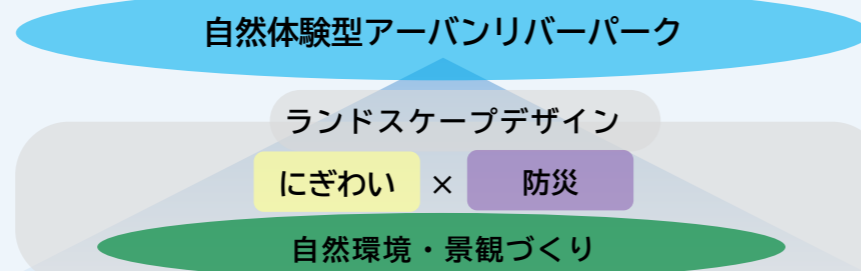
課題②
既存機能の充実や、特徴であるみどりに恵まれた荒川河川敷の自然環境の維持・充実を図っていく必要がある。

課題③
行政の取組促進や工夫とともに民間事業者のノウハウや資金等を活用し、インパクトのある事業展開や安定した運営が必要である。

課題④
震災時の活用や、水害対策の取組などが進んでいる一方で、激甚災害が増加していることなどから、より一層の防災機能の充実を図る必要がある。

課題⑤
周辺エリアと連携し、課題解決とともに特徴を活かした将来的なまちづくりに貢献する取組を進めていく必要がある。

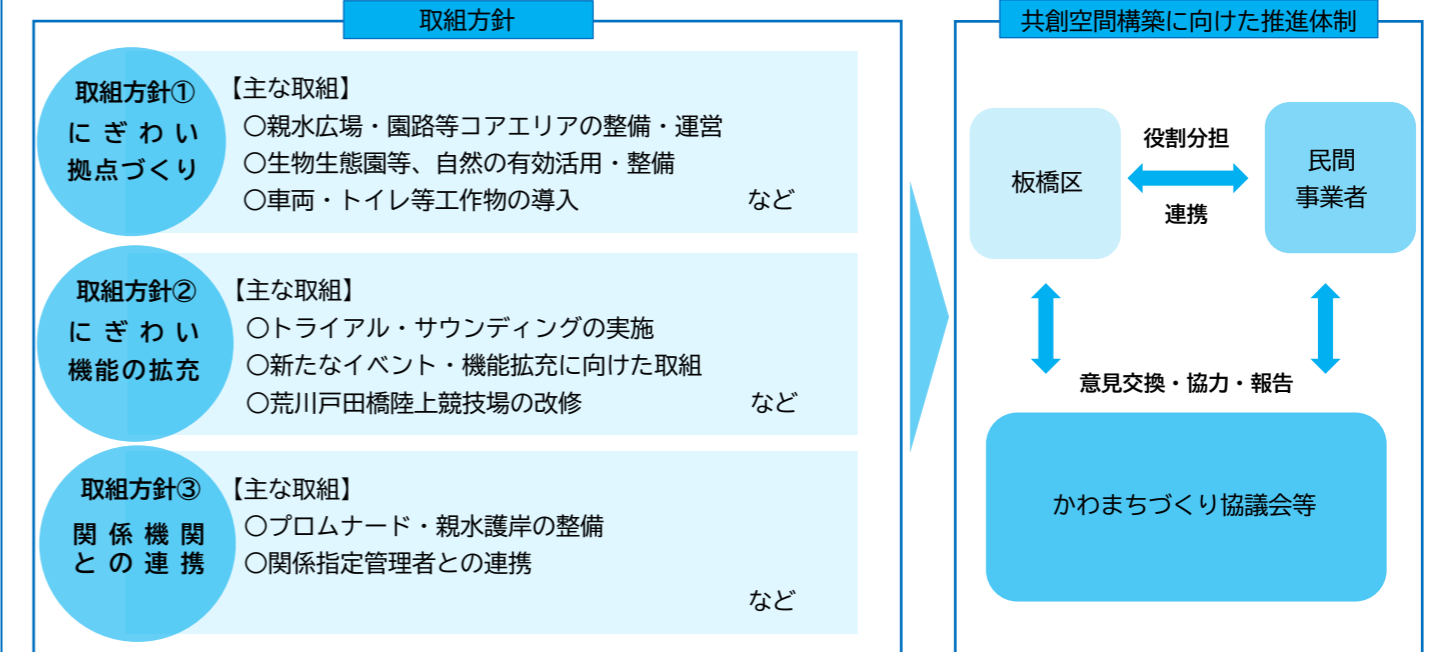
【かわまちづくりの方向性】



かわまちづくり推進の5つの視点と方向性

①区のブランドとなる充実したコンテンツの創出	○にぎわいの核となる拠点等整備 ○河川敷への新たな利用者誘致
②既存機能の充実	○既存施設等利用者の利便性向上 ○みどり・水辺の利活用促進
③公民連携の推進	○新たな民間活力の導入 ○関係指定管理者との連携促進及び機能向上
④防災機能の充実	○まちをつなぐ交通アクセスの機能充実 ○高島平まちづくりとの連携・新たな価値創出
○国との連携による防災活用の推進 ○高台まちづくりによる水防災の取組促進	

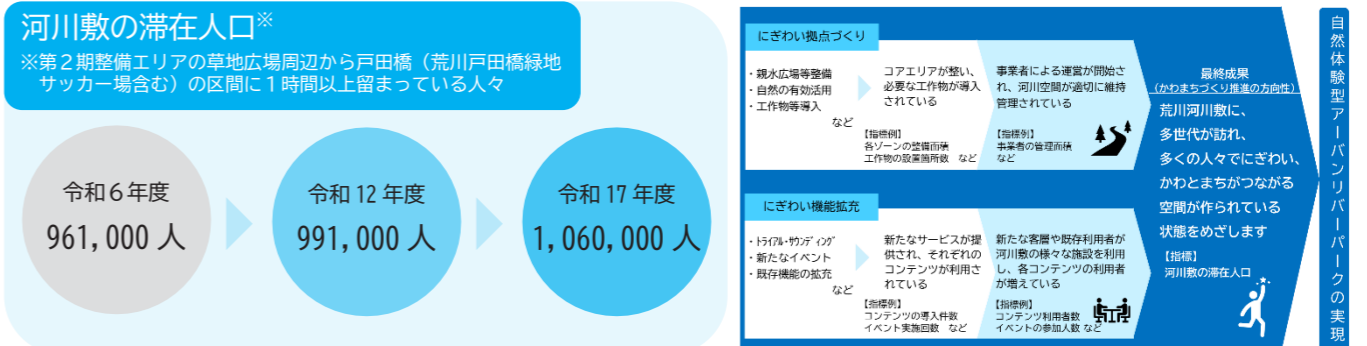
4 公民連携のあり方



5 整備・取組のスケジュール・事業量

取組方針	整備・取組内容	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度以降
①にぎわい拠点づくり	コアエリアの整備・運営	調査・基本設計	事業者公募	詳細設計・整備	管理・運営		
	車両・トイレ等工作物の導入	準備	製作	活用			
②にぎわい機能拡充	ソフト事業充実	トライアル・サウンディング	新イベント機能拡充				
	荒川戸田橋陸上競技場の改修	整備実施					
③関係機関との連携	プロムナード等の整備	ゾーンごとに整備実施(国)					
	関係指定管理者の指定期間	2年目	3年目	4年目	5年目再選定	再1年目	再2年目

6 目標値 ★令和8年度のにぎわい拠点づくりの準備やにぎわい機能拡充の取組結果の分析等を踏まえ、直接成果及び中間成果の指標や目標値を設定。



【各ゾーンの整備・取組の方向性】

全体エリア

- めざすべきゾーニング像：自然豊かな空間を整え、各ゾーンの特徴を活かした取組を展開し、河川空間とまち空間の融合をめざします。
- 整備・取組の方向性：プロムナード等の整備やみどりの利活用を進めるとともに、イベント等導入により、連鎖的な水辺空間を創出します。

【主な取組】

- プロムナード・親水護岸の整備
- 環境、植生等と調和した景観づくり
- 災害時を想定した工作物等の導入・活用
- エリア内外アクセス改善に向けた機能導入



かわまちづくりロゴマーク

I スポーツ・カルチャー発信ゾーン

○めざすべきゾーニング像

スポーツ機能の拡充や様々なイベントを開催することで、多くの人々が訪れ、活気あふれる場をめざします。

●整備・取組の方向性

荒川戸田橋陸上競技場の改修や自然を活かした広大なオープンスペースを設け、大規模イベント等の拠点として活用を図ります。



【主な取組】

- 広大な草地広場や戸田橋陸上競技場を活用し、大小様々なイベントを実施します。
- イベントや通常時でも子どもが楽しめる空間づくりを進めます。
- 荒川戸田橋陸上競技場を改修し、陸上やサッカー利用の充実を図るとともに、新たにラグビー機能を設けます。

III 自然・環境ゾーン

○めざすべきゾーニング像

豊富な緑や河川環境、多様な生物の生息地である自然環境を整え、みどりあふれる場をめざします。

●整備・取組の方向性

生物生態園のワンド等の地形を活かすとともに、自然環境の機能向上を図ることで、みどりの拠点となる空間づくりを進めます。



【主な取組】

- 生物生態園を活用し、自然に触れ合え学べる機会の充実を図ります。
- 多様な生物の保全やみどりの充実に向けて、適切な整備や維持管理を実施します。
- 河川敷の資源である水辺空間及び豊富なみどりの利活用に向けて、生物生態園のあり方を検討します。

II 水辺のにぎわい・アウトドアゾーン

○めざすべきゾーニング像

水辺空間の利活用や屋外体験等のレクリエーションにより、誰もが楽しめ、憩える場をめざします。

●整備・取組の方向性

親水広場の整備やカフェ・レストラン機能を設けるとともに、サイクルパークや自然地の利活用を見据え、「コアエリア」としてにぎわいの拠点づくりを進めます。



【主な取組】

- 中規模自然地を活用し、みどりあふれる空間でのバーベキュー機能拡充やキャンプ等の屋外レクリエーションを導入します。
- 親水広場や親水護岸を整備し、水際・水面活用を推進します。
- カフェ・レストラン等の飲食機能の他、ゾーン全体の充実に向け、電気・水道の設置や、サイクルパークの利活用を検討します。

IV スポーツ・アクティビティゾーン

○めざすべきゾーニング像

新たなアクティビティの提供やスポーツ利用者等の利便性向上を図り、たくさんの人々でにぎわう場をめざします。

●整備・取組の方向性

マウンテンバイクコース等の整備やキッカーの配置・トイレの充実など、かわまちづくりの玄関口となる駐車場の充実を図ります。



【主な取組】

- 来場者数確保に向けて、駐車場拡充やたくさんの人々が集える場を提供します。
- 多様なスポーツが実施できるフィールドを整備します。
- 駐車場からのアクセスを活かし、多世代が訪れることができるアクティビティ機能を設けます。

都市建設委員会参考資料1
令和8年2月17日
かわまちづくり担当部
かわまちづくり計画担当課

板橋区かわまちづくり基本計画 (原案)



令和3年8月、国土交通省が実施するかわまちづくり支援制度に、「板橋区かわまちづくり計画」が登録されました。防災の要素をプラスしている点が特徴であり、「災害に強い首都『東京』形成ビジョン」のモデル地区に指定された、舟渡・新河岸地区の水害対策を目的とした新河岸陸上競技場と荒川の堤防天端をつなぐ連絡通路の整備をきっかけに、かわまちづくりをスタートしました。

令和6年1月には、にぎわい創出に向けた取組の充実を図るため、「板橋区かわまちづくり基本構想『^{イッタ} ^{カワ} ^{マチ} PROJECT』」を発表し、コンセプトである「自然体験型アーバンリバーパーク」実現に向けて、新たな一歩を踏み出したところであります。

板橋区を流れる荒川の下流部は人工の放水路ですが、完成して100年を経過した現在では人工のものと思えないほど、武蔵野台地が織りなす原風景の一部として地域に定着し親しまれています。自然豊かで貴重な空間である荒川河川敷が愛され、そして誇りになるよう、板橋区のブランドとして区民の皆様と共に創りあげてまいります。

かわまちづくりは河川空間の取組だけではなく、まち空間とのつながりも重要な視点となります。荒川河川敷が隣接する舟渡や新河岸、高島平地域においては、官民連携による高台まちづくり推進をする「MFLP・LOGIFRONT 東京板橋」や旧高島平第七小学校、高島平駅周辺エリア等を交流核とした「高島平地域のまちづくり」などといった特徴的なまちづくりが進んでいます。かわまちづくりと周辺のまちづくりとの連携により新たな価値を創造することで、「東京で一番住みたくなるまち」と評価されるまちが実現できると考えております。

かわまちづくりの推進に向けては、板橋区だけではなく、河川管理者である荒川下流河川事務所、区民の皆様をはじめとした多様な主体との連携・協力が不可欠です。荒川河川敷に多世代が訪れ、多くの人々でにぎわう唯一無二の空間となるよう、全力で取り組んでまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

目次

第1章 計画の基本的事項

1 計画策定の背景と目的	3
2 計画の対象エリア	4
3 計画の位置づけ	5
4 かわまちづくりのこれまでの取組	6

第2章 地域概況

1 まちの概況	11
2 かわの概況	13
3 対象エリア及び周辺の現況	15

第3章 現状分析・特徴・課題

1 現状分析	27
2 対象エリアの特徴	36
3 かわまちづくりにおける課題	43

第4章 かわまちづくりの方向性

1 かわまちづくりの基本的な考え方	47
2 かわまちづくりの5つの視点	47

第5章 かわまちづくりの展開

1 ゾーニング計画	54
2 各ゾーンにおける展開	55

第6章 かわまちづくりの推進

1 かわまちづくりにおける公民連携	67
2 かわまちづくりにおける整備・取組の目標	72
3 目標値の設定	73

資料編

1 区民アンケート調査	資-2
2 事業者及び関係団体アンケート調査	資-29
3 サウンディング型市場調査	資-35
4 かわまちづくり事例	資-37
5 用語・法令集	資-39

第1章



計画の基本的事項

- 1 計画策定の背景と目的
- 2 計画の対象エリア
- 3 計画の位置づけ
- 4 かわまちづくりのこれまでの取組

1

計画の基本的事項

区民に愛され誇りとなる、にぎわいあふれる 水辺空間の形成に向けて

令和3（2021）年8月にかわまちづくり支援制度に登録された「板橋区かわまちづくり」について、にぎわい創出に向けたさらなる充実をめざし、「板橋区かわまちづくり基本構想」を令和6（2024）年1月に発表しました。板橋区かわまちづくり基本構想の具体化等に向けて、区のかわまちづくりの基本的な考え方や整備・取組の方向性を示します。

計画策定の背景と目的

区は、舟渡・新河岸地区の水害対策を目的とした連絡通路の整備をきっかけに、かわまちづくりをスタートしました。「板橋区かわまちづくり基本構想」の具体的な整理・取組の方向性を本計画で示し、にぎわい創出につながる水辺空間の形成をめざします。

計画の対象エリア

一級河川荒川の右岸側、板橋区区間及びりサイクルプラザと新河岸陸上競技場のまち側の施設も加えたエリアを本計画の対象とします。

計画の位置づけ

板橋区かわまちづくり基本計画は、板橋区かわまちづくり基本構想の具体化及び板橋区かわまちづくり計画を推進するため、区のかわまちづくりにおけるハード施策やソフト施策に取り組んでいくにあたって、基本的な考え方や整備・取組の方向性を示す計画として位置づけます。

かわまちづくりの これまでの取組

区はかわまちづくり登録以前から、防災に関する取組や荒川河川敷を活用したスポーツ環境の整備等に取り組んできました。

こうした経緯なども踏まえ、「防災」と「にぎわい」2つを軸にした計画としていきます。

1 計画策定の背景と目的

国土交通省が実施するかわまちづくり支援制度に、令和3（2021）年8月20日、板橋区かわまちづくり計画が登録されました。「かわまちづくり」とは、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成をめざす取組のことを言います。かわまちづくりの取組に対する支援を受けするため、荒川の河川管理者である国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所（以下「荒川下流河川事務所」）と共同で板橋区かわまちづくり計画を作成しました。

区のかわまちづくりは、防災の要素をプラスしている点が特徴で、「災害に強い首都『東京』形成ビジョン」のモデル地区に指定された、舟渡・新河岸地区の水害対策を目的とした新河岸陸上競技場と荒川堤防天端をつなぐ連絡通路の整備を契機にスタートしました。

令和6（2024）年1月29日には、にぎわい創出に向けた取組のさらなる充実をめざし、かわまちづくりの取組の基本方針を示す「板橋区かわまちづくり基本構想『イッタ カワマチITTA KAWAMACHI PROJECT』」（以下「基本構想」）を発表しました。

この度、基本構想の具体化及び板橋区かわまちづくり計画を推進するため、区のかわまちづくりの基本的な考え方や整備・取組の方向性を示す「板橋区かわまちづくり基本計画」（以下「基本計画」）を策定します。

荒川河川敷が区民に愛され、そして誇りとなるとともに、多くの区民が集い、にぎわい創出につながる魅力的な水辺空間の形成をめざします。



板橋区内を流れる荒川

2 計画の対象エリア

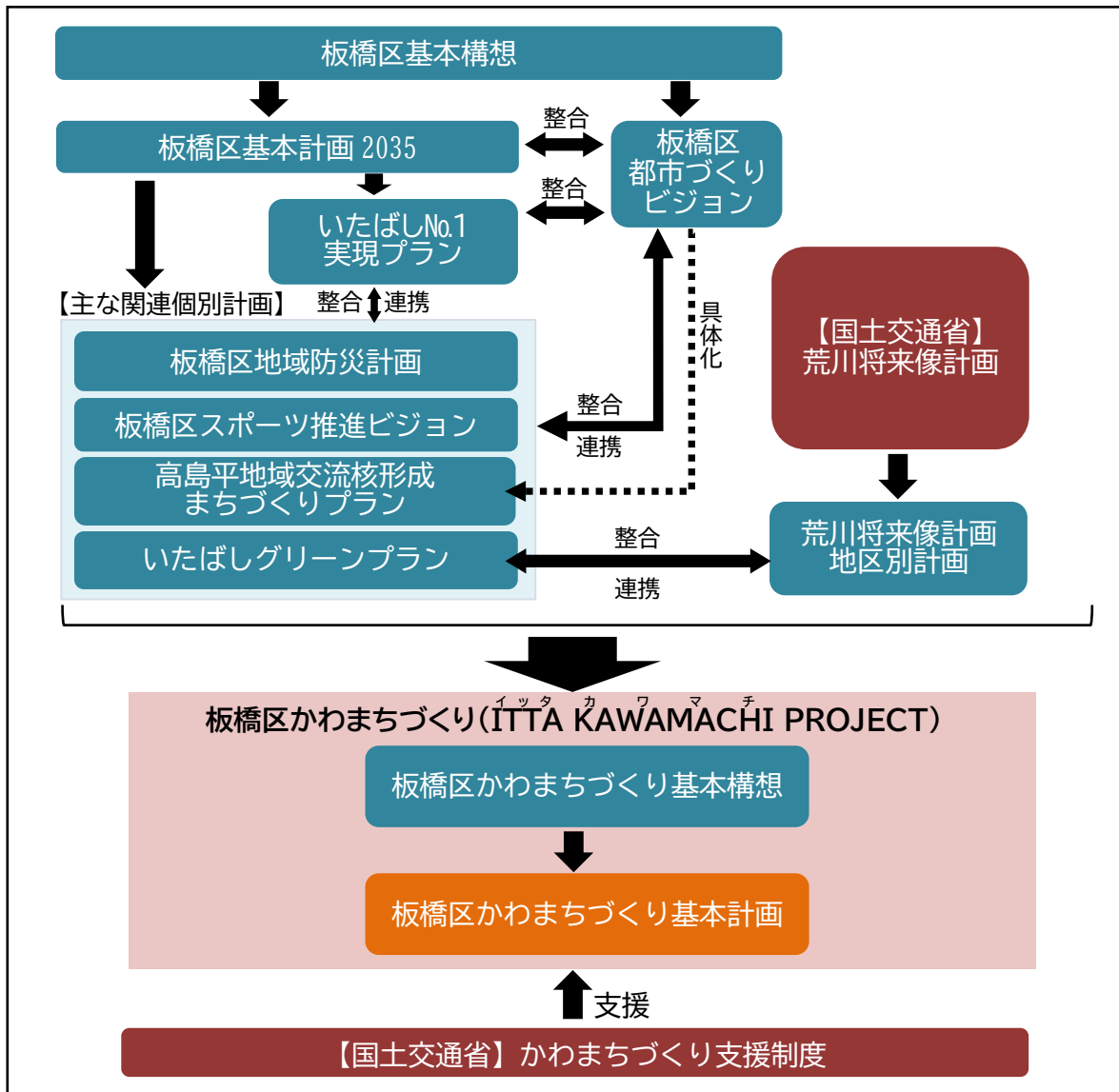
本計画は、一級河川荒川の板橋区区間（右岸 24.8km～28.6km 付近）の下図に示す範囲を対象エリアとします。なお、かわとまちが一体となるにぎわいづくりに向けて、まち側に立地する区立施設「リサイクルプラザ」及び「新河岸陸上競技場」を含むものとします。



かわまちづくり対象エリア

3 計画の位置づけ

基本計画は、「板橋区基本構想[※]」及び「板橋区基本計画」を上位計画とした関連個別計画等を踏まえ、基本構想の具体化及び板橋区かわまちづくり計画を推進するため、区のかわまちづくりにおけるハード施策やソフト施策に取り組んでいくにあたって、基本的な考え方や整備・取組の方向性を示す計画として位置づけます。



計画の体系図

※令和7（2025）年10月に策定した「板橋区基本構想」は、「ひと・まち・みらい」の視点から、次の3つを基本理念としています。

ひと（個人）：あたたかいところで ともに歩む

まち（地域）：笑顔あふれるまちを みんなでつくる

みらい（環境）：ゆたかな環境を 未来へつなぐ

また、令和8（2026）年度から概ね10年後を想定し、将来像（めざす姿）を定めています。

将来像：「未来をひらく緑と文化のかがやくまち”板橋”」

かわまちづくりの方向性も、板橋区基本構想の基本理念及び将来像に基づいたものとしていきます。

4 かわまちづくりのこれまでの取組

(1)かわまちづくり以前の荒川に関する施策

区はかわまちづくりに取り組む以前から、荒川に関する施策として「災害に強い首都『東京』形成ビジョン」のモデル地区に指定された舟渡・新河岸地区の避難場所確保等に関する検討に取り組むほか、荒川河川敷を活用し、誰もが親しめるスポーツ環境の整備等に取り組んできました。

(2)かわまちづくり支援制度への登録

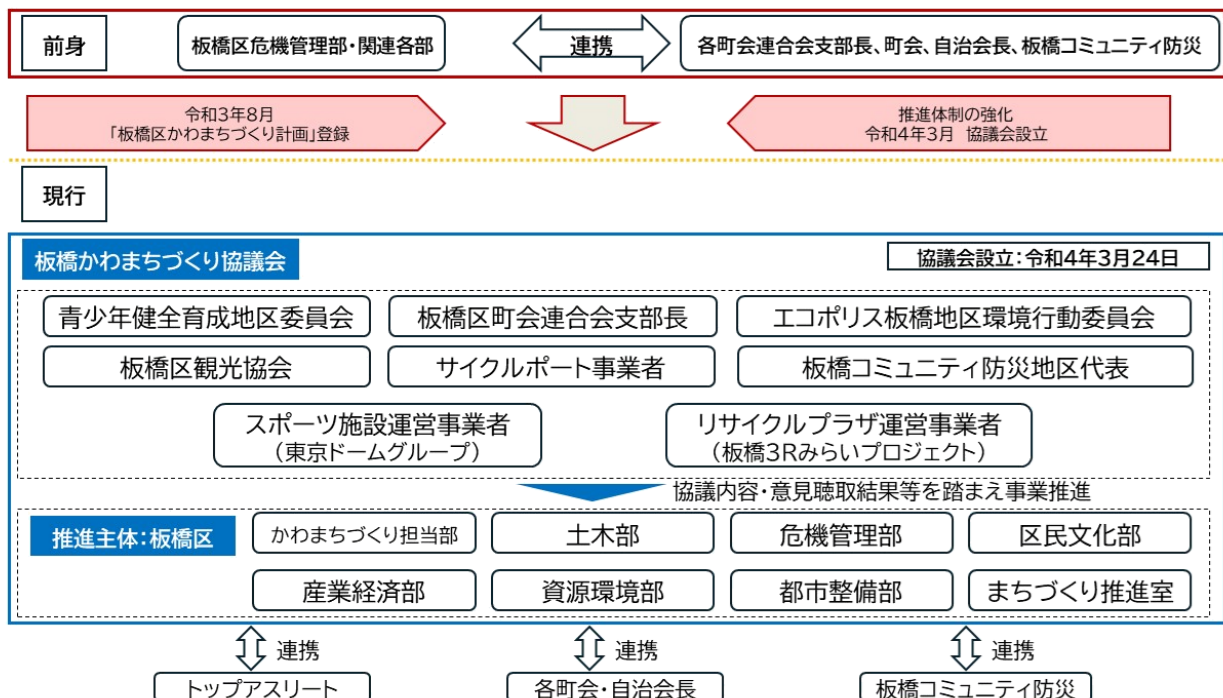
それまでの取組に加え、荒川の堤防天端と隣接する新河岸陸上競技場を連絡通路で結び、水災害時の避難ルートを確認する取組及び親水護岸やプロムナードを整備してにぎわいを創出する内容を盛り込んだ「板橋区かわまちづくり計画」が令和3（2021）年8月20日、登録されました。また、令和7（2025）年8月には、基本構想の内容を踏まえ、「板橋区かわまちづくり計画」が変更登録されました。



板橋区かわまちづくり
計画登録証

(3)板橋区かわまちづくり協議会の設立

荒川の河川空間とまち空間の一体的な活用を図り、区、地元住民、事業者、河川管理者が連携し、河川利用者や来街者の健康増進、交流人口の拡大、地域の防災力の向上を図る取組を推進するため、「板橋区かわまちづくり協議会」を令和4（2022）年3月に設立しました。



板橋区かわまちづくり協議会の体制図

(4)第1期整備 連絡通路の整備

区のかわまちづくりの第1期整備として、連絡通路の整備を荒川下流河川事務所との共同事業により令和8（2026）年3月完成予定で進めています。区内でも特に浸水の危険性が高い地域である新河岸地区において、高台に位置する施設である新河岸陸上競技場は、高台への避難（水平避難）や早期の分散避難（縁故避難）ができなかった場合、命をつなぐために垂直避難をする緊急一時退避場所となるとともに、連絡通路の整備により、堤防天端を通り浸水区域外へ避難することが可能となります。

また、平時には河川敷からのアクセス向上により、新河岸陸上競技場のトイレやシャワー室の利用が容易になることで、荒川河川敷と新河岸陸上競技場への連続性が生まれ、河川敷利用者等の利便性向上につながります。



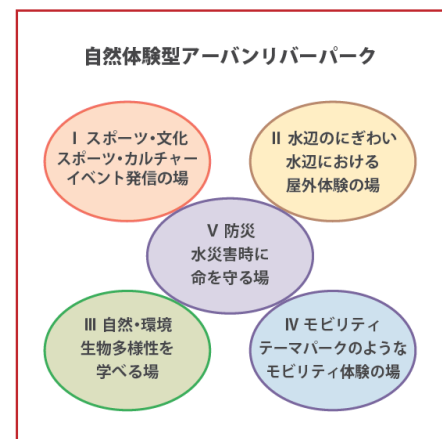
連絡通路完成イメージ

(5)基本構想の発表

令和6（2024）年1月29日、かわまちづくりの取組の基本方針を示す「板橋区かわまちづくり基本構想『イッタ カワマチ KAWAMACHI PROJECT』」を発表しました。

この基本構想では、「自然体験型アーバンリバーパーク」実現に向けて、5つのコンセプト「Ⅰ スポーツ・カルチャーイベント発信の場」「Ⅱ 水辺にぎわい水辺における屋外体験の場」「Ⅲ 自然・環境生物多様性を学べる場」「Ⅳ テーマパークのようなモビリティ体験の場」「Ⅴ 防災水災害時に命を守る場」を示しています。

今後は、このコンセプトに基づき、魅力的な荒川河川敷の価値を最大限に引き出し、区のブランドとして創造・発信することで、交流人口の増加やにぎわい創出につながる水辺空間を形成していきます。



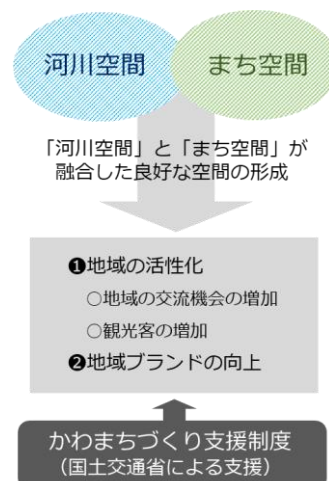
板橋区かわまちづくり
コンセプト

【コラム】かわまちづくり支援制度と河川空間のオープン化

■かわまちづくり支援制度

「かわまちづくり」は、河川とまちが一体となった魅力的な空間を創出し、地域の活性化とブランド向上をめざす取組です。地域の資源や住民の創意を活かし、自治体・民間・住民と河川管理者が連携して進めます。

国土交通省は、計画策定や整備・運営を支援する制度を設け、治水と調和した施設整備やにぎわい創出を後押ししています。その一環として、「都市・地域再生等利用区域の指定」も活用されます。



静岡県伊豆の国市「川の駅伊豆城山」



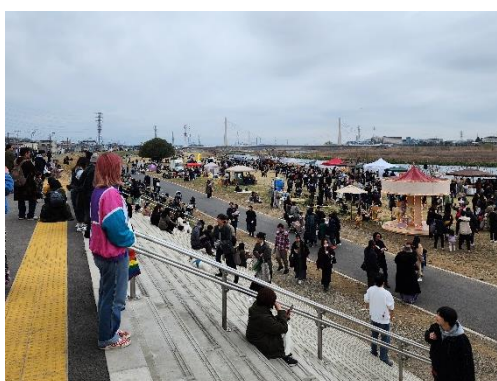
広島県福山市「芦田川かわまち広場」

■河川空間のオープン化

平成 23 (2011) 年の「河川空間のオープン化」により、河川敷地の利活用が柔軟になりました。地域の合意を得て、河川管理者が「都市・地域再生等利用区域」を指定することで、民間事業者によるオープンカフェや売店などの営業活動が可能となり、河川空間を活かした地域のにぎわい創出に貢献しています。



新潟県新潟市「信濃川やすらぎ堤」



東京都多摩市「せいせきカワマチ」

第2章



地域概況

- 1 まちの概況
- 2 かわの概況
- 3 対象エリア及び周辺の現況

2 地域概況

河川空間とまち空間との連携に向けた 河川敷とその周辺エリアの概況

荒川は極度に都市化された板橋区内に残された貴重な空間であり、様々な役割を担っています。地域に根付いた荒川にて、河川空間とまち空間とが一体となった魅力的な空間を創出する「かわまちづくり」に取り組むにあたっては、区の地域資源を活かした展開としていきます。

まちの概況

人口や自然・環境等、区の概況を示します。

かわの概況

荒川流域の洪水・治水、河川環境等の概況を示します。

対象エリア及び 周辺の現況

かわまちづくり対象エリアである、区内荒川河川敷の利活用状況や交通アクセスのほか、防災活用等の現況について示します。

1 まちの概況

(1)位置・地勢

板橋区は東京都区部の北西部に位置し、武蔵野台地の北端と荒川低地の境目にあたり、概ね北部は低地、南部は高台となっています。崖線の下部では、川から運ばれてきた堆積物が今日の荒川・新河岸川沿いの低地（約2m）を形成しています。

また、荒川をはじめ、新河岸川や石神井川、白子川が周辺区市へと続く水辺の軸を形成しています。対象エリアは区の北西部、埼玉県との都県境に位置し、一級河川荒川の右岸24.8km～28.6km付近に該当します。



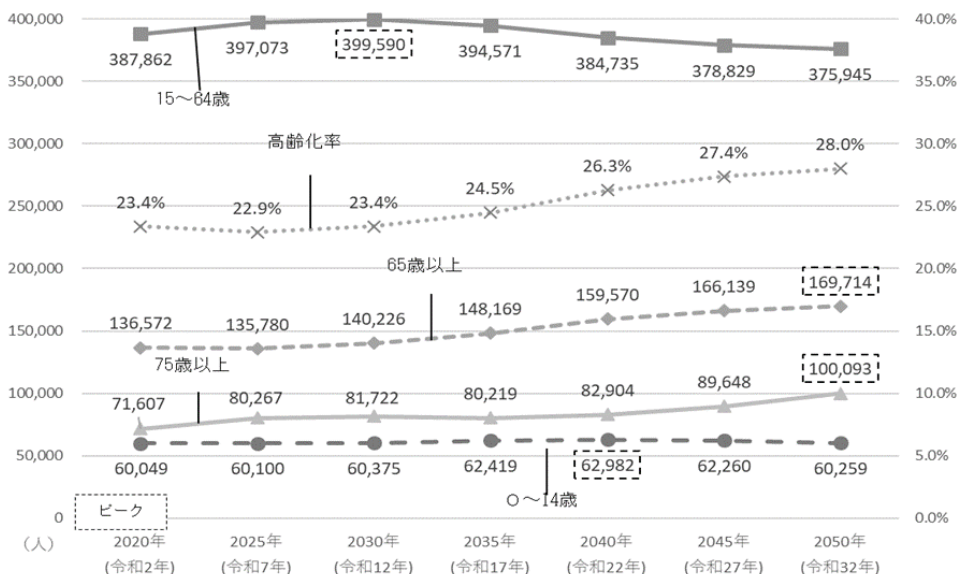
板橋区の位置

(2)人口

区の総人口は、580,912人（令和7（2025）年4月1日時点）で、令和元（2019）年を境に一度減少に転じたものの、令和4（2022）年から再び増加傾向となっています。

令和6（2024）年に改定された板橋区人口ビジョン（2025年～2050年）では、令和22（2040）年に約60.7万人でピークを迎え、その後、減少に転じるものと予測されています。

なお、対象エリアとその周辺を含む高島平・舟渡地域の総人口は65,646人、うち新河岸地域は4,943人、舟渡地域は9,802人となっています。（令和7（2025）年4月1日時点）



年齢3区分別人口の長期的見通し

出典：板橋区人口ビジョン（2025年～2050年）

(3) 自然・環境

区内には良好な樹林が見られる崖線沿い（都立赤塚公園、赤塚溜池公園付近）や農地等、恵まれた緑が多くあります。対象エリアである荒川河川敷は、区内の都市公園面積の約3割を占め、広大な草地や、多くの生き物が住むワンド等からなる生物生態園を含んでおり、重要な水と緑の軸となっています。

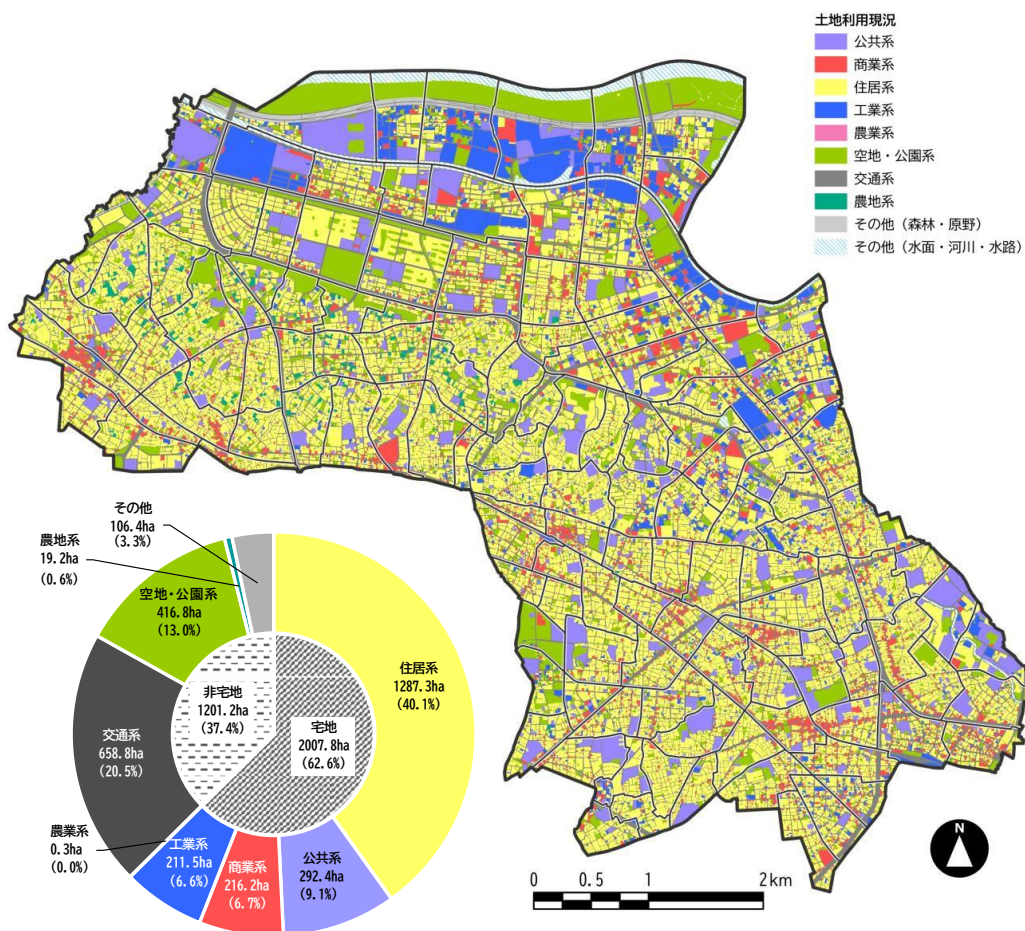


赤塚公園の崖線

(4) 土地利用

板橋区の土地利用を用途別にみると、区の全土地面積のうち 62.6% (2007.8ha) が宅地、37.4% (1201.2ha) が非宅地となっており、宅地の内訳をみると、住宅用地が 64.1% (1287.3ha) と半数以上を占め、次いで公共用地が 14.6% (292.4ha)、商業用地が 10.8% (216.2ha)、工業用地が10.5% (211.5ha) の順となっています。

なお、対象エリアは工業系用地が多くなっています。



土地利用の内訳 (令和3 (2021) 年)

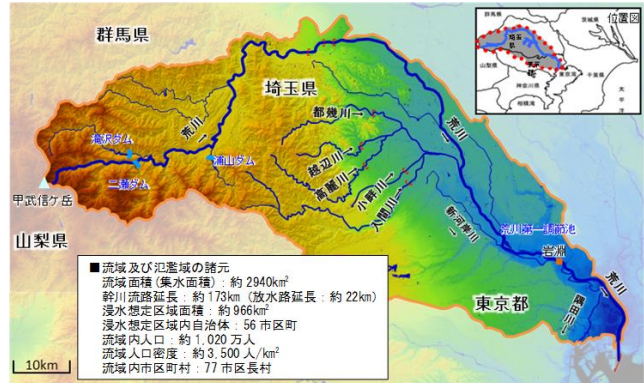
出典：板橋区の土地利用 (R6.3)

2 かわの概況

(1) 荒川流域

荒川は延長 173km、流域面積 2,940km²、流域内人口約 1,020 万人の一級河川です。荒川総合水系環境整備事業として、湿地環境の保全・再生等の自然再生分野、かわまちづくり等の水辺整備分野など、河川空間における自然環境の保全と秩序ある利用の促進に取り組んでいます。

荒川下流域では、荒川下流地区水辺整備事業や、足立区・江戸川区・北区岩淵周辺地区かわまちづくり事業など、水辺利用の促進やにぎわい創出に取り組んでいます。



荒川流域図

出典：社会資本整備審議会河川分科会河川整備基本方針検討小委員会 参考資料 2-1_荒川水系河川整備基本方針流域および河川の概要(案) (R6.9 国土交通省)

(2) 洪水・治水

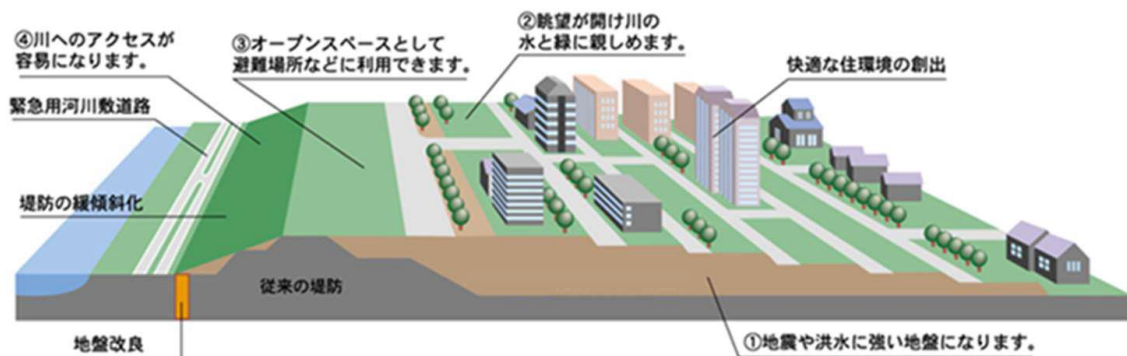
荒川は「荒ぶる川」として、台風等で過去幾度となく洪水による氾濫を繰り返し、甚大な被害をもたらしてきました。

荒川では、中流域の広い川幅を有効に活用し、荒川調節池群の整備を進めています。調節池は、洪水時に水の一部をためこみ、調節池より下流の水位上昇を抑制し、流域を洪水から守ります。



埼玉県にある荒川第一調節池※

他にも、荒川の堤防の決壊を防ぐための根幹的な対策として、高規格堤防の整備も進めています。高規格堤防は通常の堤防のおよそ 30 倍の幅を持ち、なだらかな勾配（緩傾斜）であるため、予想を超える大きな洪水から堤防が壊れるのを防止します。



高規格堤防の図※

※出典：社会資本整備審議会河川分科会河川整備基本方針検討小委員会、参考資料 2-1_荒川水系河川整備基本方針_流域および河川の概要(案) (R6.9 国土交通省)

(3)河川環境

荒川の上流部は秩父山地の自然が美しく、中流部は扇状地が広がり、瀬と淵、砂礫河原されきがわらが特徴的な河川景観が見られ、下流部の水際はヨシ原や干潟をはじめとした良好な河川景観が形成されています。

広域的に良好な自然環境を保全・創出していくため、自然再生事業等により河道内湿地の保全・再生等に取り組み、生物多様性の保全に寄与するとともに、荒川を軸としたエコロジカル・ネットワークの構築を進めています。



上流部の溪谷



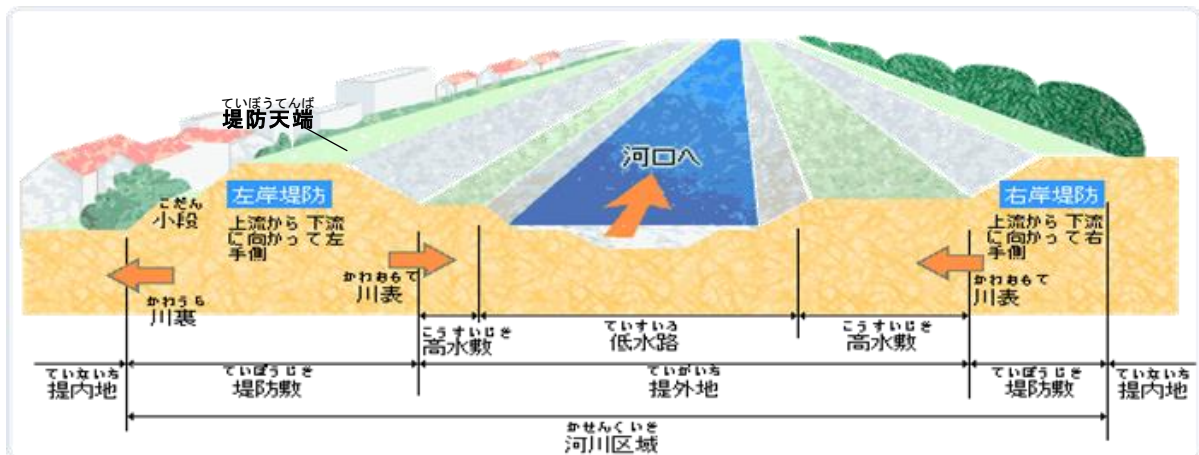
北区・子どもの水辺

出典：R7 年度第 1 回荒川水系河川整備計画フォローアップ委員会（R7.11.5）
資料 2-(1)(事業再評価)荒川総合水系環境整備事業

【コラム】河川の部分の呼称とはたらき

■河川の構造と役割

河川の両側には洪水を防ぐための堤防が設けられており、堤防を境として川側を川表、住宅や田畑がある側を川裏と呼びます。また、川には普段水が流れる低水路と、その両側にある一段高い高水敷があります。高水敷は平常時には公園やグラウンドとして利用されています。平成9（1997）年の河川法改正により、従来の治水・利水に加えて環境の保全・創出も河川管理の目的となり、河川は農業用水や上水道の水源としても利用されながら、多様な生物の生息環境を形成し、治水・利水・環境が一体となった機能を果たしています。



出典：国土交通省ウェブサイト

3 対象エリア及び周辺の現況

(1)対象エリアとその周辺の利活用状況

かわまちづくりの対象エリアである荒川河川敷及びその周辺は、スポーツやレクリエーションの拠点として、あるいは春のマラソン大会、夏の花火大会とイベント等にも活用されています。また、来るべき大震災の時には、避難場所に指定されていると同時に、水上輸送やヘリコプター等の発着地点となることから、援助物資を大量輸送できる物流拠点としても、大きな役割を担うこととなります。

これまで荒川河川敷は自然地と河川利用、治水のバランスのとれた魅力ある空間となるような整備が進められてきました。

①河川敷・周辺の施設

対象エリア周辺には、以下のとおり関連施設があります。野球場・サッカー場・陸上競技場・河川管理通路（民間マラソン大会等）は、主にスポーツ、レクリエーション、憩いの場として利用されています。また、生物生態園や草地広場は自然とのふれあい、散策、憩いの場、リサイクルプラザは環境に関する講座等の実施による学習の場として利用されています。

対象エリア周辺の関連施設（1/2）

関連施設名	概要	現状
荒川戸田橋 野球場	区内の荒川河川敷に整備された野球場で、一般・少年用、硬式・軟式兼用の計19面を有し、地域のスポーツ振興と交流の場として活用されています。	
草地広場	荒川戸田橋緑地内に広がる草地広場は、自然環境を活かした原っぱや湿地、水辺空間からなり、散策や自然観察、交流の場として親しまれています。	
荒川戸田橋 陸上競技場	400m×8コースのトラックを備えた陸上競技場で、走り幅跳び等のフィールド競技にも対応し、地域の競技力向上と健康づくりを支えています。また、フィールド内は、多目的運動場としてサッカー等に利用できます。	
リサイクル プラザ	区内で回収されたびん・缶の資源化と、ごみ減量・リサイクルに関する活動を行う施設です。「処理ゾーン」と、「プラザゾーン」の2つのゾーンで構成されています。	

対象エリア周辺の関連施設（2/2）

関連施設名	概 要	現 状
荒川生物生態園	荒川河川敷の自然環境を活かし、魚類や昆虫、野鳥などの生態を観察できる施設で、自然とのふれあいを通じた環境学習の場として利用されています。	
荒川戸田橋サッカー場	荒川河川敷に整備された3面のサッカー場で、少年から一般まで幅広い世代の利用に対応し、地域のスポーツ活動の拠点として機能しています。	
新河岸陸上競技場	250m×7コースのトラックとフィールド競技設備を備えた第4種L（ライト）公認の陸上競技場として、地域の陸上競技大会や練習の場として活用されています。	
新河岸庭球場	砂入り人工芝コート10面を有する庭球場で、区民のテニス活動を支えるとともに、地域の交流と健康づくりの場として親しまれています。	
熱帯環境植物館	東南アジアの熱帯雨林を再現した展示ゾーンとミニ水族館を備え、自然環境の学習と体験を通じて環境意識の醸成を図る施設です。	
舟渡水辺公園	旧荒川の河道跡を活かした親水公園で、自然とのふれあいや健康器具の設置により、区民の憩いと健康づくりを支える空間です。また、隣接する民間広場とともに、にぎわいが生まれています。	
都立浮間公園	浮間ヶ池を中心に広がる水と緑の公園で、風車や四季の花々、運動施設が整備され、自然と調和した都市型レクリエーション空間です。	



対象エリア周辺の関連施設の所在地

②施設やイベントの利用状況

②-1 主な施設の利用者数

主な施設の利用者は、コロナ禍による減少はありながらも、近年は回復傾向にありましたが、10年前と比較して減少しています。

施設	年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
野球場		164,777	135,871	120,846	132,525	94,805	108,521	156,752	168,474	184,763	165,375
陸上競技場		74,468	37,277	38,998	53,558	21,735	15,336	22,286	23,684	29,043	30,220
サッカー場		39,187	41,582	36,415	29,380	21,318	18,440	31,315	35,765	33,200	38,318
体育施設 合計		278,432	214,730	196,259	215,463	137,858	142,297	210,353	227,923	247,006	233,913
バーベキュー		3,247	3,945	3,283	3,226	1,641	2,538	293	2,329	1,956	1,865
リサイクルプラザ		21,347	20,617	25,345	25,458	26,620	19,212	22,698	24,784	26,342	28,768

出典：区利用実績より

②-2 河川空間利用者

区の荒川河川敷の利用者数の推移をみると、高水敷（河川敷）におけるスポーツ利用が大半です。荒川水系全体で利用者数全国1位となった平成26（2014）年度においても、利用場所別の水際と水面、利用形態別の釣りとは水遊びの利用者は少数です。

なお、近年の気候変動の影響で、夏季や秋季におけるまとまった大雨の影響で高水敷（河川敷）が利用できなくなっている状況や、猛暑の影響で屋外での活動を控えていることなどにより、利用者数は従前に比べて少ない状況です。

年度	合計	利用場所				利用形態			
		高水敷	水際	水面	堤防	スポーツ	釣り	水遊び	散策等
H21	72,653	53,357	491	145	18,660	38,002	144	374	34,133
H26	100,703	73,445	79	0	27,179	61,599	31	48	39,025
R1	32,252	26,998	84	427	4,743	17,718	34	128	14,372
R6	35,901	30,063	180	102	5,556	27,224	0	180	8,497

出典：河川水辺の国勢調査 河川空間利用実態調査（荒川下流河川事務所）をもとに集計

②-3 イベント利用状況

荒川の豊かな水辺空間を活かし、スポーツ、レクリエーション、憩いの場として、主に板橋 City マラソン、親子たこあげ大会、いたばし花火大会等のイベントを継続的に開催することで、多くの方が来場しています。

荒川河川敷でのイベント概要

主なイベント名	主催者	【年度】来場者数
板橋 City マラソン（3月）	板橋 City マラソン実行委員会	【R6】約 7,000 人（出走者数）
	戸田橋上流をスタート・ゴール地点として、荒川大橋で折り返して荒川河川敷を走るコースで、日本陸連公認／世界陸連（WA）認証コースとなっています。河川敷を走るため、高低差が少なく、初心者も走りやすく記録が狙いやすいコースとなっています。	
親子たこあげ大会（4月）	板橋区	【R7】約 4,000 人
	親と子が一緒に考え工夫して楽しむ機会を設け、荒川の河川敷で自然とふれあいながら昔からの遊びを体験・継承していくことで、余暇の活用を図り広く青少年の健全育成を推進しています。	
ITaFES（4月※）	板橋健康づくり音楽フェス 実行委員会	【R7】約 2,500 人
	音楽を楽しみながら健康づくりに取り組めるライブイベントです。音楽ライブ以外にも B 級グルメ、地方特産品販売、ハンドメイドワークショップなどを通して、地域住民の交流や地域活性化を目的としています。 ※過去 R5、7 年度 2 回実施。（不定期開催）	
いたばし花火大会（8月）	板橋区・板橋区観光協会	【R7】約 55 万人
	花火大会の名称は、昭和 63（1988）年の第 30 回から「いたばし花火大会」となり、平成 5（1993）年には荒川河川敷の土手が座りやすい階段状に整備されています。打ち上げ花火約 7,500 発や、いたばし花火名物のナイアガラの滝など、見どころあるメニューで構成され、夏の夜空を彩っています。	

(2) 交通手段やアクセス

①電車

対象エリア周辺の主な鉄道路線は都営三田線と JR 埼京線であり、区内にある近隣の主要な駅として、西台駅、高島平駅が立地しています。主要な駅から徒歩で荒川河川敷周辺までは 20～30 分程度かかります。



対象エリア周辺の路線及び主要駅

対象エリア周辺の主要駅から河川敷周辺の立地施設までの所要時間

終点/起点		車 両	自 転 車	徒 歩
新河岸陸上競技場	①新高島平駅から	4分	5分	17分
	②高島平駅から	6分	6分	18分
戸田橋陸上競技場	②高島平駅から	6分	10分	25分
	③西台駅から	4分	6分	19分
リサイクルプラザ	②高島平駅から	7分	8分	30分
	③西台駅から	6分	6分	24分
	④蓮根駅から	6分	7分	24分
	⑤浮間舟渡駅から	6分	6分	24分

②バス

対象エリア周辺にはバス停として、新河岸都営住宅入口、舟渡水辺公園、舟渡四丁目、舟渡小学校、舟渡町、舟渡一丁目の6つがあります。鉄道駅も路線に含まれており、高島平駅又は西台駅から荒川河川敷まで徒歩5分程度のバス停まで乗車できます。高島平駅までは池袋駅西口からのバス路線もあります。



出典：観光いたばしガイドマップをもとに一部加工

③自家用車（駐車場）

対象エリアの河川敷周辺には、かわ側に位置している荒川河川敷駐車場、まち側に位置している新河岸庭球場・新河岸陸上競技場利用者専用駐車スペース、リサイクルプラザ駐車場が立地しています。かわ側にある「荒川河川敷駐車場」は令和6（2024）年度において、年間約42,000台が利用しています。

対象エリアの河川敷周辺の駐車場概要

駐車場場所	台数	料金	備考
■荒川河川敷駐車場			
①荒川戸田橋下	340台（障がい者用6台）	1回/500円※	
②新河岸水再生センター前	396台（障がい者用2台）	1回/500円※	
③新河岸水再生センター前 臨時駐車場	150台	1回/500円※	水再生センター 下流300m
■新河岸庭球場・新河岸陸上競技場 利用者専用駐車スペース			
④新河岸庭球場・ 新河岸陸上競技場		無料	利用者専用
■リサイクルプラザ駐車場			
⑤リサイクルプラザ	18台	1時間/100円※	

※減免制度有



対象エリアの河川敷周辺の駐車場位置



荒川河川敷駐車場（荒川戸田橋下）



リサイクルプラザ駐車場

④シェアサイクル

区内には、サイクルポートが589か所（令和7（2025）年12月末時点）設置されています。そのうち舟渡・新河岸地区のサイクルポート数は19か所となっており、まちなかに比べて設置が少ない状況です。河川区域内に限っては、高水敷（河川敷）の設置はなく、堤防上部の天端にあるリサイクルプラザにシェアサイクルのポートが1か所設置されています。



荒川河川敷周辺のシェアサイクルスポット位置

荒川河川敷周辺のシェアサイクルスポット一覧（令和7（2025）年12月末時点）

事業者名	名称	所在地の町丁目
HELLO CYCLING	新河岸公園	新河岸三丁目
	セブンイレブン板橋新河岸1丁目店	新河岸一丁目
	板橋区北部土木サービスセンター西	新河岸一丁目
	舟渡3丁目公園	舟渡三丁目
LUUP	TOKYOβ西高島平2	新河岸三丁目
	TOKYOβ新高島平3	新河岸三丁目
	ファミリーマート板橋新河岸二丁目店	新河岸二丁目
	TOKYOβ高島平1	新河岸一丁目
	リバーパーク新河岸1丁目	新河岸一丁目
	新河岸1丁目	新河岸一丁目
	舟渡水辺公園	舟渡四丁目
	リサイクルプラザ	舟渡四丁目
ソフィアガーデン	舟渡三丁目	

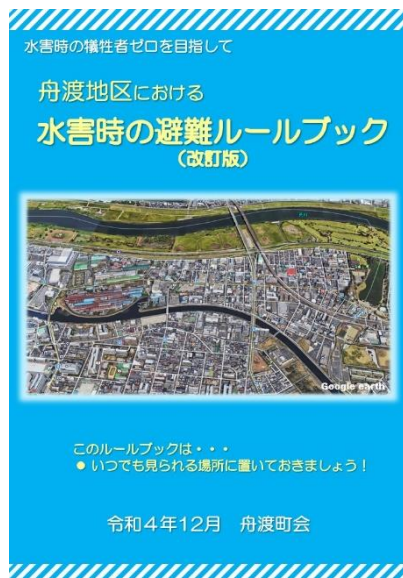
(3) 防災活用

①水害時の活用

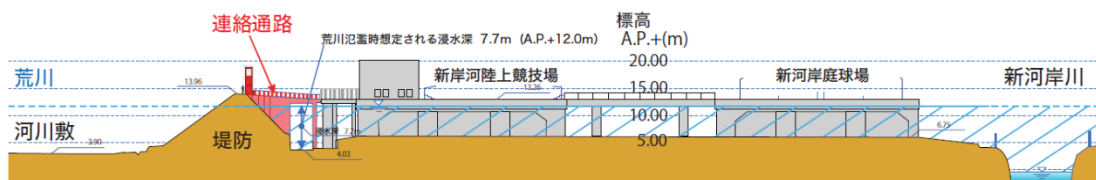
荒川の決壊による氾濫では、区内の約4割が浸水し、2週間以上浸水が継続する区域が広く分布しています。特に、舟渡・新河岸地区は、浸水深5m以上が想定されていることから、「災害に強い首都『東京』形成ビジョン」※のモデル地区に選定されました。

舟渡・新河岸地区の重点的な水害対策として進めている「高台まちづくり」の取組として、地域の住民が主体的に避難のため行動することのできるコミュニティタイムラインを策定するとともに、コミュニティタイムラインと連動した避難方策の検討を行っています。また、ハード施策では、水害時に一時的に避難できる場所の確保に取り組んでいます。

※国と東京都は、首都「東京」において大規模水害等による壊滅的な被害の発生を回避できるよう、ハード・ソフト両面から連携し、防災まちづくりを強力に推進していくため、令和2(2020)年12月に「災害に強い首都『東京』形成ビジョン」を策定し、「高台まちづくり」の推進に向けた具体的な取組方策などについて公表するとともに、高台まちづくりの具体的な取組を進める過程で生じた課題等に対する推進方策や整備の基本的な考え方を検討しています。



舟渡・新河岸地区「水害時の避難ルールブック」



荒川氾濫想定時の浸水深と新河岸地区に整備する「連絡通路」の関係図

①-1 舟渡地区の取組

舟渡地区では、大規模土地取引行為の届出制度により民間開発の機会を捉え、舟渡四丁目南地区において「流域治水関連法改正に対応する水防災に着目した地区計画等」を決定しました。地区計画に、浸水地域に取り残された区民の命を守るための有効な避難施設である「緊急一時退避場所」※の整備などを位置づけ、高台広場、非浸水階の整備等が行われました。

※緊急一時退避場所とは、急激な増水などが予想され、高層ビル等への一時的な避難が必要となる地区（特に板橋区洪水ハザードマップ（荒川氾濫版）において、家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）に指定された地域）で、緊急的に命をつなぐ場所と位置づけています。

①-2 新河岸地区の取組

新河岸地区の取組は、かわまちづくりの第1期整備として進めている新河岸陸上競技場と荒川堤防天端をつなぐ連絡通路を整備しています。連絡通路の整備により、緊急一時退避場所となる新河岸陸上競技場から脱出ルートが確保され、浸水区域外に脱出できることが可能となります。



舟渡地区「MFLP・LOGIFRONT 東京板橋」

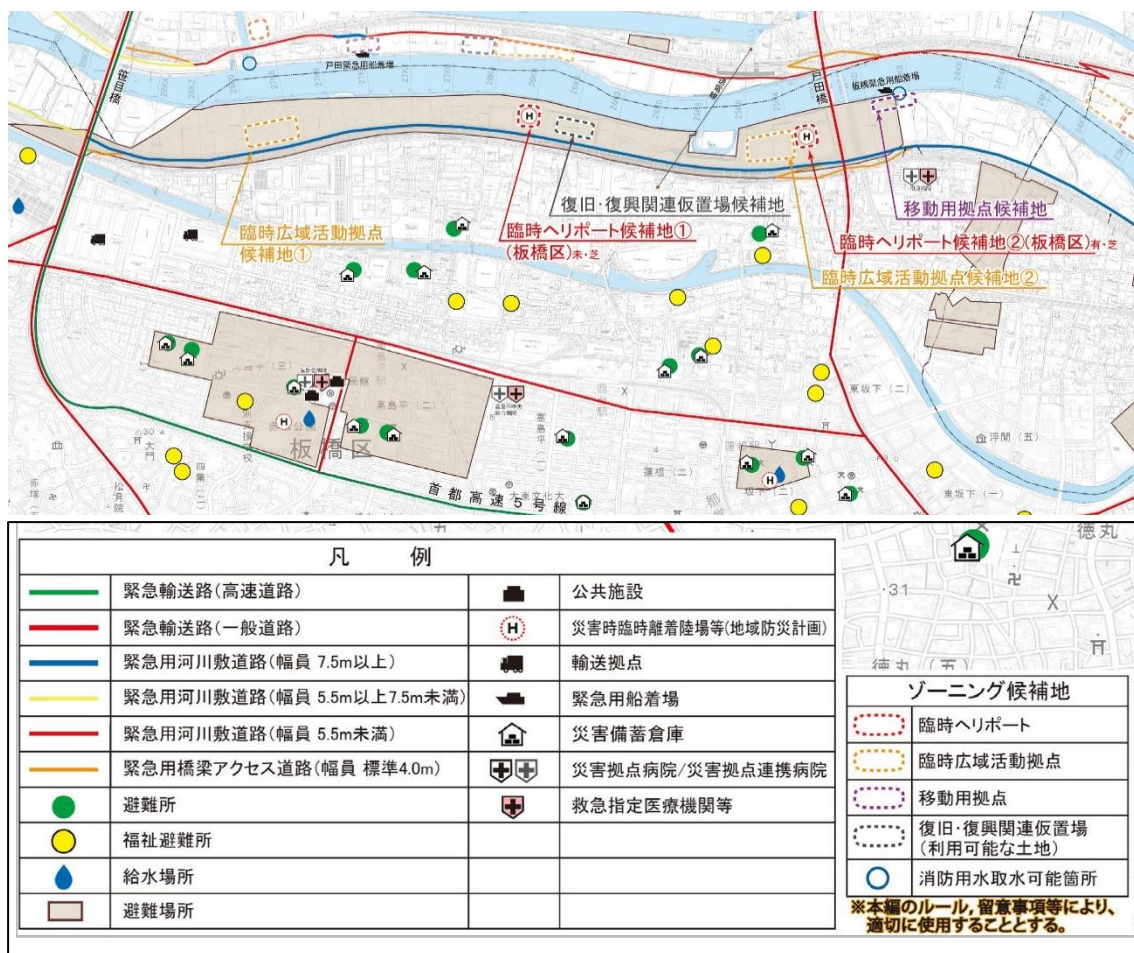


新河岸地区「連絡通路の整備」

②震災時

大規模な震災が発生した場合において、荒川にある防災施設を災害時に有効に活用するための計画として、荒川下流河川事務所や周辺自治体等から構成される荒川下流防災施設運用協議会では荒川下流防災施設活用計画を策定しています。河川区域内に国が整備した緊急用河川敷道路や緊急用船着場等の河川防災施設及び高水敷（河川敷）を、自治体や警察、消防、自衛隊等が有効かつ円滑に利活用し、迅速な災害対策活動に資することを目的としています。

対象エリアにおいても、避難場所として、また、水路での移動用拠点や臨時ヘリポート、臨時広域活動拠点としての活用が見込まれます。



荒川下流部の災害対策用地計画

出典：荒川下流防災施設活用計画〔公表版〕(R5.9 荒川下流防災施設運用協議会)を一部加工

第3章



現状分析・特徴・課題

- 1 現状分析
- 2 対象エリアの特徴
- 3 かわまちづくりにおける課題

3 現状分析・特徴・課題

現状を捉えた板橋らしい “かわまちづくり”に向けて

板橋らしいかわまちづくりを進めていくにあたって、区民や事業者ニーズの把握、計画エリアの特徴を分析することで主要課題を設定し、整備や取組の方向性につなげていきます。

現状分析

区民を対象としたアンケート調査や、事業者に向けたサウンディング型市場調査など、区民及び事業者それぞれの視点からニーズを把握し、現状について分析します。

対象エリアの特徴

対象エリアの特徴である河川管理施設としての役割や洪水時、河川敷利用時のルールのほか、周辺の特徴についてまとめます。

かわまちづくり における課題

現状分析や対象エリアの特徴を踏まえ、5つの主要課題を設定します。

1 現状分析

(1) 区民ニーズ

かわまちづくりでの整備や取組を検討するにあたり、利用者のニーズを把握するため、まち側及び対象エリア内で開催したイベント来場者へのアンケート調査や、インターネットで日常的に対象エリアを利用している周辺住民に対してのアンケート調査を実施しました。

各種アンケート調査※から見受けられた主な意見

■現在の利用傾向

- 滞在時間は「30分～2時間」の時間帯が多く、高い年代ほど滞在時間が短い傾向
- 利用頻度は「数年に1回」や「年に1回」程度が多数
- 荒川の印象（満足度）は「自然の豊かさ」や「運動・スポーツ利用」「落ち着きや景色の楽しさ」など、既にある荒川の特徴が反映されている
- 利用したい施設は「都立浮間公園」や「舟渡水辺公園」など、まち側の公園の人気が高い

■アクセスの傾向

- 荒川河川敷へのアクセスは「自転車」「徒歩」「車」が中心
- 荒川河川敷から距離が離れると「公共交通機関」の利用者も増える
- 「自転車」「徒歩」「公共交通機関」の場合、戸田橋周辺の入口の利用が多い

■にぎわいの観点

- 「バーベキュー」「カフェ・レストラン・キッチンカー」「散策・ウォーキング」「キャンプ」「水遊び」などが、どの調査でも人気の高いコンテンツ
- 年代によっては、「サイクリング」「新たなスポーツ機会」「音楽フェス等大規模イベント」「環境学習・自然体験」なども人気

■機能改善の観点

- 「トイレ機能」については不便さを感じており、改善の意見が多数
- 「休憩所や日よけ」「水道・照明ライフライン設置」等、施設の改善の意見もある
- 最寄り駅からのアクセス（周遊バス）や周辺の駐輪場・駐車場充実など、まち側からの改善のアプローチも見受けられる

※アンケート調査の詳細は資料編を参照

①イベント等でのアンケート調査

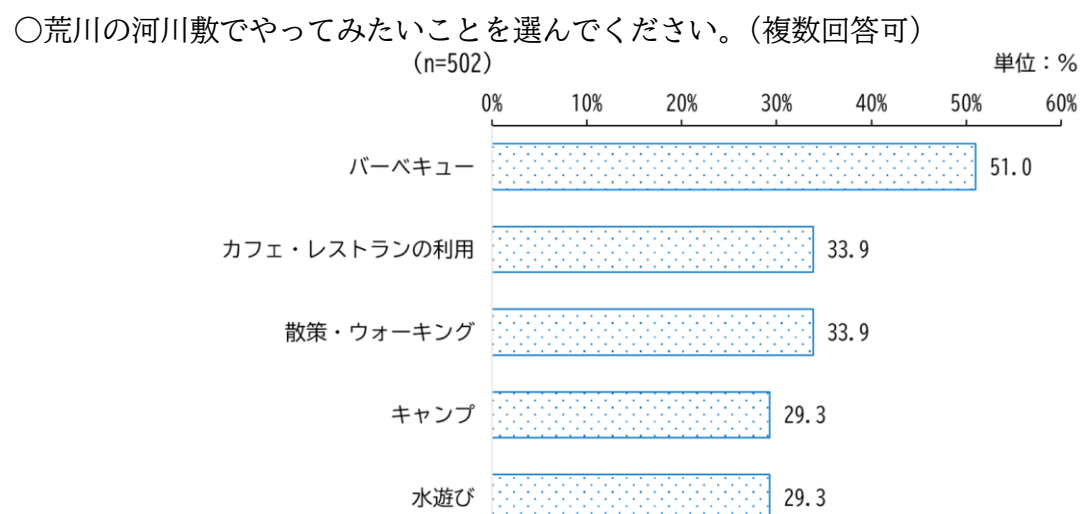
【調査概要】

- 対象者：「調査を実施したイベント一覧」の来場者
- 形式：イベント会場で直接回答（携帯電話端末等からのWEB回答及び紙面）
- 調査日数：計9日間
- 回収数：502票

調査を実施したイベント一覧

イベント名	実施日
荒川放水路通水100周年 アニバーサリーフェス	令和6（2024）年10月12日（土）
板橋区民まつり	令和6（2024）年10月19日（土）、20日（日）
高島平まつり	令和6（2024）年10月27日（日）
板橋農業まつり	令和6（2024）年11月9日（土）、10日（日）
りよくちであそぼう VOL.3	令和6（2024）年11月16日（土）
りよくちであそぼう VOL.4	令和6（2024）年11月17日（日）
りよくちであそぼう VOL.5	令和6（2024）年11月23日（土）

○荒川の河川敷でやってみたいこと



イベントの参加者の荒川の河川敷でやってみたいこと上位5つの回答

【選択肢一覧】

- 1 野球 2 サッカー 3 ラグビー 4 バasketボール 5 ランニング 6 サイクリング
 7 グラウンドゴルフ 8 マウンテンバイクコース 9 BMX、スケートボード等のアーバンスポーツ
 10 音楽フェス等のイベント 11 キャンプ 12 バーベキュー 13 ドッグラン 14 カフェ・レストランの利用
 15 散策・ウォーキング 16 水遊び 17 SUP・カヌー等の水面アクティビティ 18 その他

○イベント等でのアンケートにて「荒川の河川敷でやってみたいこと」を聞いたところ、「バーベキュー」（51.0%）が第1位となっています。

○次いで「カフェ・レストランの利用」（33.9%）、「散策・ウォーキング」（33.9%）で第2位、「キャンプ」（29.3%）、「水遊び」（29.3%）で第4位となっています。

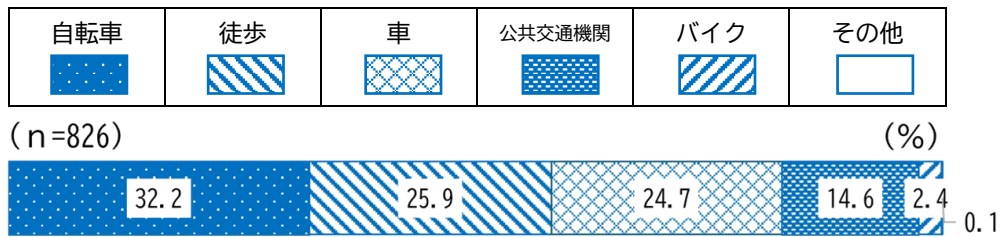
②WEB アンケート調査（主な設問と回答結果）

【調査概要】

- 調査対象：かわまちづくり対象エリアに来訪したことがある板橋区内外3 km 圏内の住民及び3 km 圏外の板橋区民
- 調査期間：令和7（2025）年3月14日（金）～19日（水）
- 形式：WEB アンケート
- 回収数：回収数：826 票

②-1 河川敷へのアクセス手段

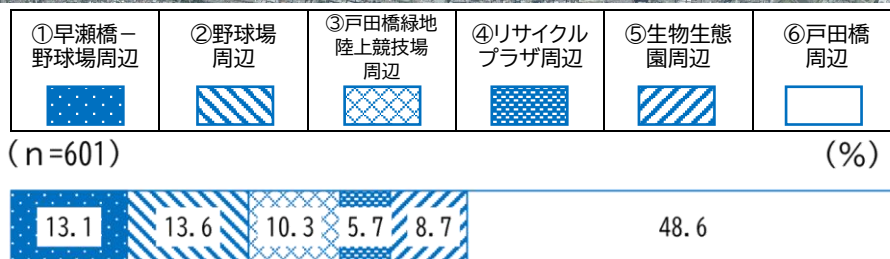
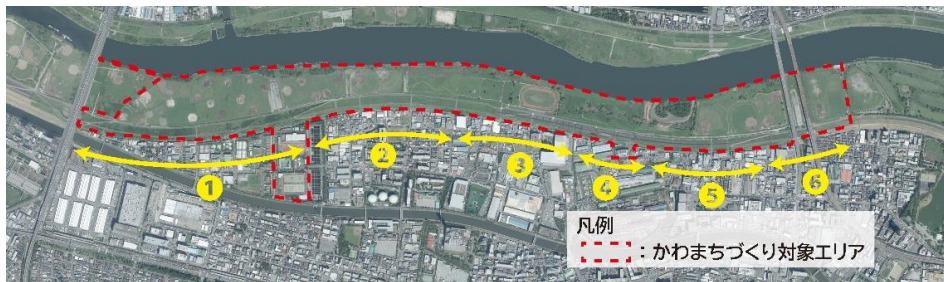
○荒川河川敷までのアクセスについてお答えください。



○WEB アンケートにて「河川敷へのアクセス手段」を聞いたところ、「自転車」（32.2％）が第1位、次いで「徒歩」（25.9％）、「車」（24.7％）となっています。

②-2 河川敷への進入経路

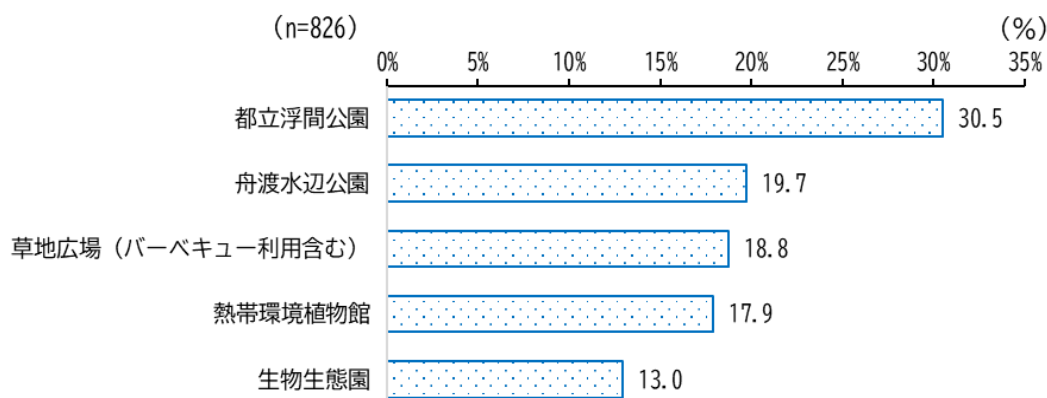
○（荒川河川敷へ自転車・徒歩・公共交通機関で来場した人に対して）主にどのあたりから荒川河川敷の中に入りますか。（図参照）



○「河川敷へのアクセス手段」で「徒歩・自転車・公共交通機関」と答えた（601人）に「主にどのあたりから河川敷の中に入るか」を聞いたところ、半数近くの方が「戸田橋周辺」（48.6％）と答えています。

②-3 利用したい河川敷・周辺の施設

○荒川河川敷周辺の施設で利用したい施設はありますか。(複数回答可)



荒川河川敷周辺の施設で利用したい施設上位5つの回答

【選択肢一覧】

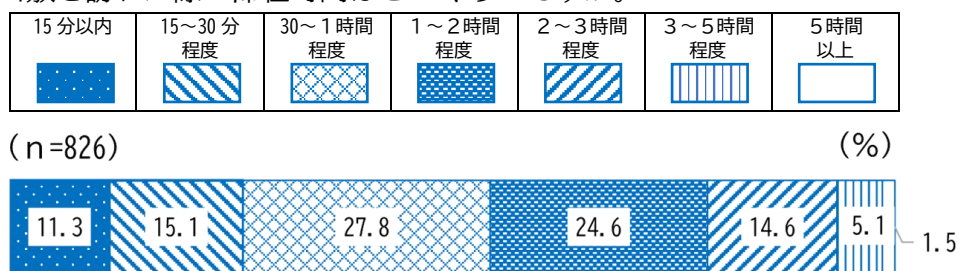
- 1 荒川戸田橋野球場 2 草地広場 (バーベキュー利用含む) 3 荒川戸田橋陸上競技場
 4 リサイクルプラザ 5 生物生態園 6 荒川戸田橋サッカー場 7 新河岸陸上競技場 8 新河岸庭球場
 9 熱帯環境植物館 10 舟渡水辺公園 11 都立浮間公園 12 その他 13 利用したい施設がない

○「利用したい河川敷・周辺の施設」を聞いたところ、「都立浮間公園」(30.5%)が第1位となっています。

○次いで「舟渡水辺公園」(19.7%)が第2位、「草地広場 (バーベキュー利用含む)」(18.8%)が第3位、「熱帯環境植物館」(17.9%)、「生物生態園」(13.0%)の順となっています。

②-4 河川敷を訪れた際の滞在時間

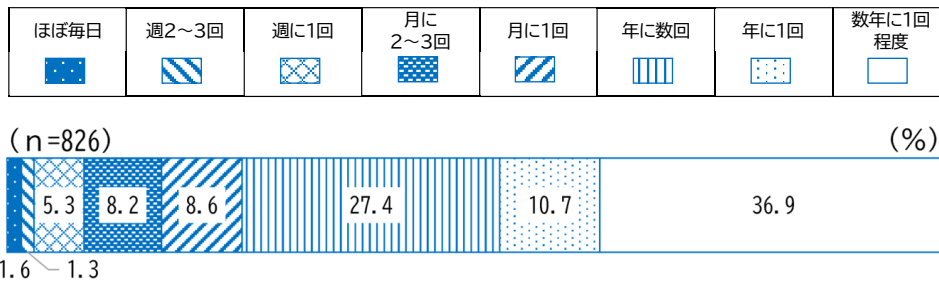
○荒川河川敷を訪れた際の滞在時間はどのくらいですか。



○「河川敷を訪れた際の滞在時間」を聞いたところ、「30分~1時間程度」(27.8%)が最も多く、次いで「1~2時間程度」(24.6%)、「15~30分程度」(15.1%)の順となっており、2時間未満の滞在が多い傾向にあります。

②-5 河川敷の利用頻度

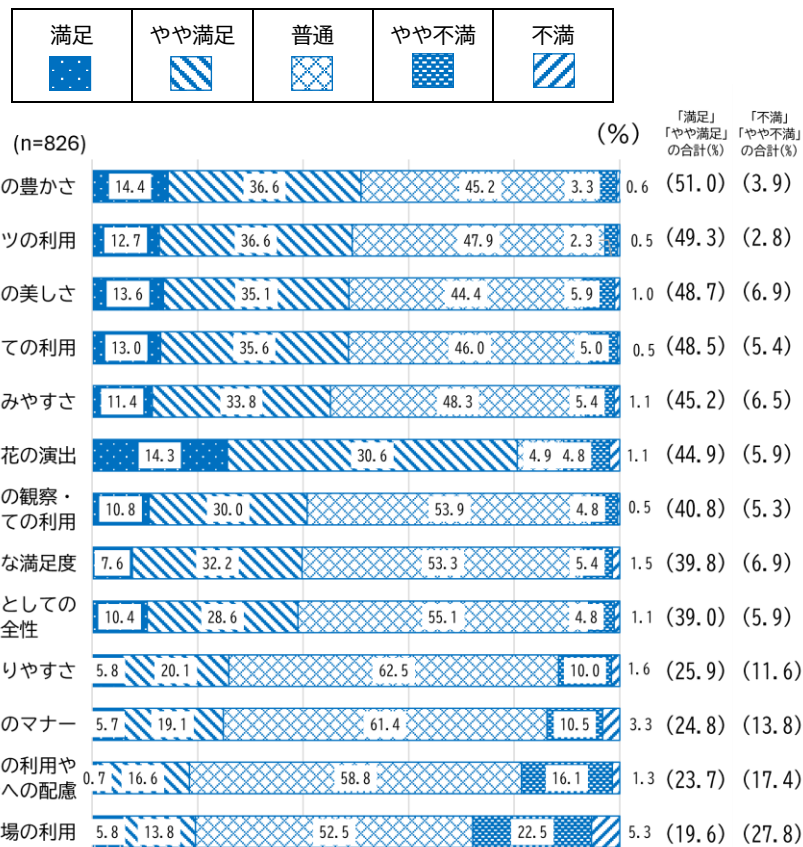
○荒川河川敷はどの程度利用されますか。



○「河川敷の利用頻度」を聞いたところ、「数年に1回程度」(36.9%)が最も多く、次いで「年に数回」(27.4%)、「年に1回」(10.7%)となっています。

②-6 荒川に対する印象

○あなたの荒川(荒川戸田橋緑地周辺)に対する印象について、最も当てはまるものを選んでください。

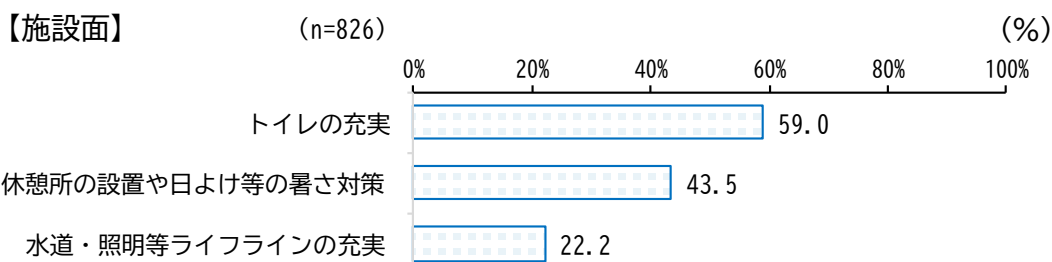


○「荒川に対する印象」を聞いたところ、「満足」と「やや満足」を足した『満足』は、「自然の豊かさ」(51.0%)が最も高く、次いで「運動・スポーツの利用」(49.3%)、「落ち着きや雰囲気、景色の楽しさ」(48.7%)となっています。

○一方で、「トイレや水飲み場の利用」は、「不満」と「やや不満」を足した『不満』(27.8%)が高く、満足度が低い傾向となっています。

②-7 施設面で改善されるとよいこと

○現在の荒川河川敷に対して、施設面でどのような改善がなされると、より地域の人々は使いやすくなりますか。(最大3つまで回答)



施設面で改善がなされるとよいこと上位3つの回答

【選択肢一覧】

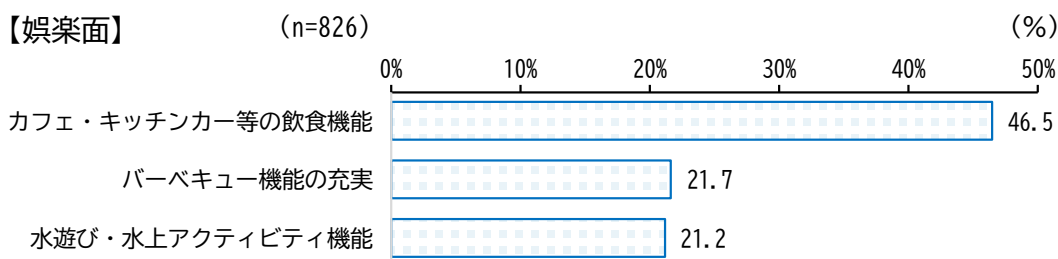
- 1 水道・照明等ライフラインの充実
- 2 休憩所の設置や日よけ等の暑さ対策
- 3 管理棟機能の充実
- 4 自動販売機の設置
- 5 トイレの充実
- 6 更衣室やシャワー施設の充実
- 7 イベント等広報機能の充実
- 8 河川の清掃活動の活発化
- 9 施設の小まめな手入れ・管理
- 10 河川敷の安全利用や自然保全のルールやマナーの徹底・周知

○「施設面でどのような改善がされるとよいか」を聞いたところ、「トイレの充実」(59.0%)が第1位となっています。

○次いで「休憩所の設置や日よけ等の暑さ対策」(43.5%)で第2位、「水道・照明等ライフラインの充実」(22.2%)で第3位となっています。

②-8 娯楽面で改善されるとよいこと

○現在の荒川河川敷に対して、娯楽面でどのような改善がなされると、より地域の人々は使いやすくなりますか。(最大3つまで回答)



娯楽面で改善がなされるとよいこと上位3つの回答

【選択肢一覧】

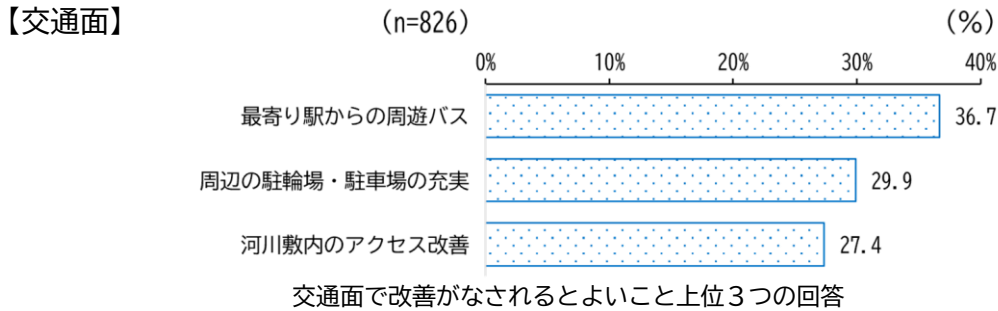
- 1 カフェ・キッチンカー等の飲食機能
- 2 新たなスポーツの機会の提供
- 3 水遊び・水上アクティビティ機能
- 4 環境学習・自然体験型のコンテンツ
- 5 バーベキュー機能の充実
- 6 キャンプ・スポーツ用具等の機材貸し出し
- 7 大規模イベントの増加・充実
- 8 周遊スタンプラリー

○「娯楽面でどのような改善がされるとよいか」を聞いたところ、「カフェ・キッチンカー等の飲食機能」(46.5%)が第1位となっています。

○次いで「バーベキュー機能の充実」(21.7%)で第2位、「水遊び・水上アクティビティ機能」(21.2%)で第3位となっています。

②-9 交通面で改善されるとよいこと

○現在の荒川河川敷に対して、交通面でどのような改善がなされると、より地域の人々は使いやすくなりますか。(最大3つまで回答)



【選択肢一覧】

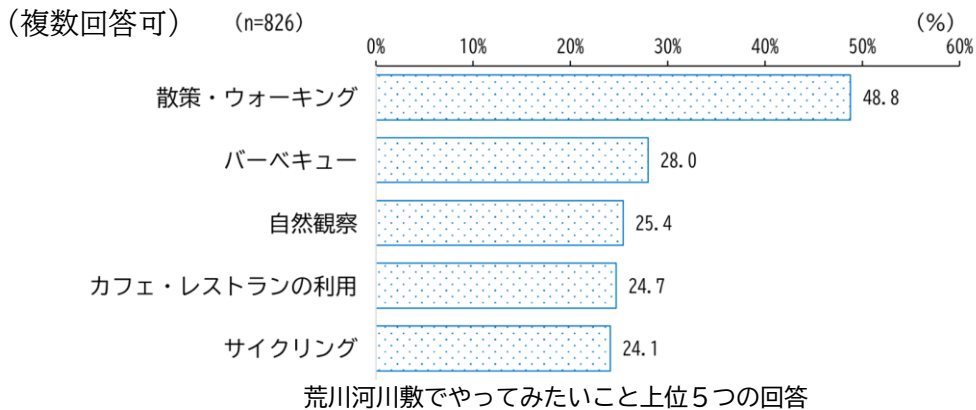
- 1 最寄り駅からの周遊バス 2 イベント時の臨時バス 3 シェアサイクル等の貸出返却スポットの充実
- 4 周辺の駐輪場・駐車場の充実 5 河川敷までの通り道や階段等のアクセスポイントの充実
- 6 河川敷内のアクセス改善 7 河川敷駐車場へのアクセス改善 8 河川敷までの標識・看板の充実

○「交通面でどのような改善がされるとよいか」を聞いたところ、「最寄り駅からの周遊バス」(36.7%)が第1位となっています。

○次いで「周辺の駐輪場・駐車場の充実」(29.9%)で第2位、「河川敷内のアクセス改善」(27.4%)で第3位となっています。

②-10 荒川河川敷でやってみたいこと

○今後、荒川河川敷でやってみたいことについて、全て選んでください。



【選択肢一覧】

- 1 野球 2 サッカー 3 ラグビー 4 バスケットボール 5 ランニング 6 サイクリング
- 7 グラウンドゴルフ 8 マウンテンバイク 9 BMX、スケートボード等のアーバンスポーツ
- 10 音楽フェス等のイベント 11 キャンプ 12 バーベキュー 13 ドッグラン
- 14 カフェ・レストランの利用 15 散策・ウォーキング
- 16 水遊び 17 自然観察 18 SUP・カヌー等の水面アクティビティ 19 その他

○「荒川の河川敷でやってみたいこと」を聞いたところ、「散策・ウォーキング」(48.8%)が第1位、次いで、「バーベキュー」(28.0%)で第2位、「自然観察」(25.4%)で第3位、「カフェ・レストランの利用」(24.7%)で第4位、「サイクリング」(24.1%)で第5位となっています。

(2) 事業者ニーズの把握

区民ニーズに加えて、事業者ニーズや市場性を把握し、今後の整備や運営、公民連携の検討材料とするため、アンケート調査及びサウンディング型市場調査を実施しました。

①アンケート調査

【調査概要】

- 調査対象：かわまちづくりやまちづくり、水辺、公園、体育施設等の事業に取り組んでいる企業や地域団体等
- 調査期間：令和6（2024）年12月～令和7（2025）年3月
- 形式：メールによる回答
- 回収数：26者

アンケート調査での主な意見

■利活用方針について

- 広域から集客を図るには、核となる機能、ブランディングが必須。
- スポーツ施設と連携することで相乗効果を生み、集客につながる可能性もある。
- 23区にも関わらず、広大なスペースと自然が多い点は魅力。
- 厳しい規制を適用するばかりではなく、誰もが共存して楽しめる環境整備が必要。
- 収益リスクの担保や河川氾濫時の復旧費用における区の財政負担の必要性。

■整備内容について

- 電気・水道設備や男女別のトイレ、シャワー・更衣室、適切な距離ごとの休憩所、売店・飲料関連販売機の設置。
- 日陰場所となる樹木の植樹や川岸に沿った遊歩道を貫通するとよい。

■交通アクセスやまち側との連携について

- シェアサイクルポートの導入や自動車、自転車の入退路、駐車、駐輪場所の整備。
- 鉄道駅とのシャトルバスの運行（無料又は廉価）や自動運転の試行など。
- シンボルが少ないため、地域資源等の強みを活かしまちづくりを進めることも必要。

■環境保全・災害時の活用・対応について

- 草地・小さな水路の増加、更地を増やさない、生態系（野鳥）への配慮、生き物がつながって生きていけるようにしていく活動の周知が必要。
- 防災イベントや環境学習の場として活用することで、安心して暮らせるエリアとしてのイメージアップや発信が可能。
- 通常時の渋滞策はもとより、災害時にも道路が機能するような地域整備が求められる。
- 増水後の土砂の除去等、河川増水時の復旧対策を検討する必要がある。

■地域との協力について

- 地域の事業者、住民等の声や不安を解消するため、意見を反映できる場を設けるとよい。
- 巻き込むべき地域の事業者や団体、沿川住民等に対し、理解を得るためにも情報共有等を適宜行うことが求められる。

■かわまちづくりが及ぼす効果について

- 魅力向上による観光客・人口の増加
- イベントへの地元飲食店等出店等による地域貢献
- 多様なスポーツ交流拠点

②サウンディング型市場調査の実施

サウンディング型市場調査の実施概要

実施日	内容
令和6（2024）年12月23日（月）	募集開始
令和7（2025）年1月16日（木）	事前説明会の実施
令和7（2025）年2月6日（木）～2月21日（金）	ヒアリングの実施（12者）

サウンディング型市場調査で頂いたご意見等

■事業手法について

- 設置管理許可制度や公募設置管理制度（Park-PFI）等の活用により、民間事業者による効果的な管理運営が可能。
- 管理業務と収益事業を別に分けた公募（DB（デザインビルド）方式や指定管理者制度等）が望ましい。
- 全体を一括管理することも可能ではあるが、状況に合わせ事業に可変性を持たせるなど、にぎわいを創出しやすい箇所から集中して集客を行うことが必要。
- ハード整備もさることながら、ソフト面の取組が非常に重要である。
- 先進的な事業となる可能性も高く、今後の事業条件や集客環境の形成に応じ、条件次第では参画可能である。
- 全体の事業規模及び区がどこまで投資が可能か、早い段階での開示を期待。
- 今後のニーズを把握するため、トライアル・サウンディングを実施し、検証することも効果的と考える。

■整備内容について

- 民間整備の場合、多額の経費を初期投資（施設整備等）に要し、収益還元は難しい。
- 資金調達の面からも参入しやすい事業手法とし、インフラ整備等は事業者の負担にならないように配慮が必要。
- 電力、水道等のライフラインの整備が必要である。
- 平日利用を考慮した場合、夜間活用できる照明の有無により採算性が変化する。
- 集客の観点から、民間収益施設エリアと駐車場との距離は、近いほうが望ましい。
- 河川管理用通路以外で、各ゾーンをつなぐ車両用の園路が必要である。
- 河川敷までのアクセスの改善は課題であり、駐車場の整備に加え、無料のシャトルバス運行等の対応を図ることが必要である。
- 物販等を含む飲食やカフェ、キャンプ場やバーベキュー場が考えられる。
- 非日常を生み出す定期的にイベントが開催できる会場等が考えられる。
- 一部コンテンツの機能を設けるだけでなく、多目的利用の視点も必要である。
- 生物生態園のワンドや川など、ロケーションを活かすことも重要。

■維持管理について

- 区内の関連する指定管理施設と一体で管理することが効率的。
- 洪水時の対応については、自治体での対応が必要。
- 大規模修繕は、自治体での費用負担が必要。

2 対象エリアの特徴

(1) 河川の特徴

①河川管理施設

「緊急用河川敷道路」は、洪水や地震などの災害発生時に、救助・救命活動及び緊急物資の輸送を迅速かつ円滑に行うための基盤施設です。災害対応を目的とした施設ですが、平常時には、散策、ジョギング、サイクリングなどの利用が可能で、多くの方々に利用されています。区が指定する駐車場を除き、一般車両の進入・駐車は禁止されており、河川管理者の管理のもと、荷物の放置やキャッチボールの禁止等、安全性の確保や緊急時の機能維持を目的とした運用ルールが定められています。警察や消防等の緊急用車両、工事用車両、ならびに河川管理者の許可を受けて設置された施設の管理用車両等についてはこの限りではありません。

緊急用河川敷道路に関する利用ルール

項目	概要
災害時の利用	災害時の救助や物資輸送の迅速な対応
平時の利用	散策やジョギング、サイクリング等
禁止事項	無許可車両の通行、長時間の占有、火気の使用、ゴミの不法投棄

出典：荒川下流河川事務所ウェブサイトをもとに作成

また、荒川には、大規模災害時に資機材の搬入や救援活動を行うための「緊急用船着場」が整備されています。これらは、緊急用河川敷道路と連携し、復旧拠点や物資輸送ルートとして機能します。平時からの利用促進にも取り組んでおり、所定の手続きを行えば一般利用も可能です。区内にも「板橋緊急用船着場」が整備され、防災力向上に役立つ施設として位置づけられています。

荒川下流の緊急用船着場に関する利用ルール

項目	概要
対象者	事業者、NPO法人、個人
対象船舶	水上バス、観光ツアー船、プレジャーボート、非動力船
平時の利用	対象船舶の発着場、屋形船等の臨時・単発イベント
利用可能時間	日の出から日没まで（照明設備のある船舶は夜間利用も可）
接岸時間	原則 20 分以内
手続き	事前の利用者登録と利用申請
禁止事項	無断利用、船舶への乗降以外での利用、長時間停泊、危険行為等
利用条件	安全管理とルール順守 ※公的機関による緊急時の捜索・救助や巡視・管理が優先

出典：船着場利用の手引き（荒川下流河川事務所）をもとに作成

緊急用船着場・緊急用河川敷道路

荒川下流河川事務所
Arakawa-Karyu River Office

緊急用船着場

大規模震災時の
道路寸断や
交通渋滞等
陸路での物資
輸送が困難！

復旧活動に
必要な資機材
や救援物資の
積み卸しを行う



緊急用船着場・緊急河川敷道路について

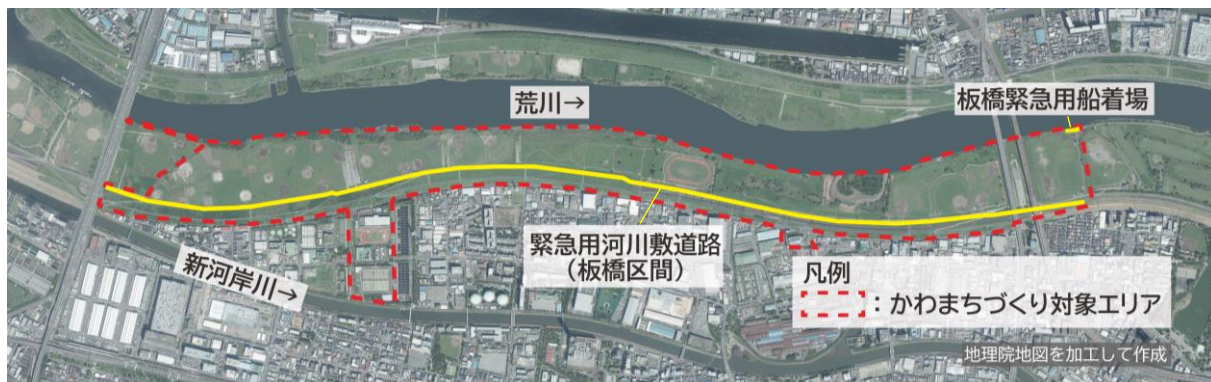
出典：荒川下流河川事務所ウェブサイト



板橋緊急用船着場



緊急用河川敷道路



かわまちづくり対象エリアにおける緊急用船着場・緊急河川敷道路

②工作物撤去基準等

河川区域内で工作物を設置・改修・撤去する際には、河川の安全性や公共性を損なわないよう、事前に河川管理者の許可を得る必要があります。これは、河川の流れや治水機能に影響を与える可能性があるため、法律により厳格に規定されています。

仮設のトイレやグラウンドのサッカーゴール等の工作物は洪水時に事前に一時撤去することが河川法により定められているため、留意が必要です。

河川法第 26 条第 1 項（工作物の新築等の許可）

「河川区域内の土地において工作物を新築し、改築し、又は除却しようとする者は、国土交通省令で定めるところにより、河川管理者の許可を受けなければならない。河川の河口附近の海面において河川の流水を貯留し、又は停滞させるための工作物を新築し、改築し、又は除却しようとする者も、同様とする」

以下に示すとおり、許可の基本方針による運用が求められています。

- 河川区域に設ける以外に方法がない又は河川区域に設置することがやむを得ないこと。
- 治水・利水上支障がなく、かつ他の工作物に影響を与えないこと。
- 周辺土地利用の状況、景観、その他の自然的及び社会的環境を損なわないこと。



【例】

- 洪水時に転倒可能な野球場の防球ネット
- 洪水時に搬出可能な移動式のトイレ

河川法に基づく工作物撤去基準等

出典：河川の管理について（R元 国土交通省水管理・国土保全局河川環境課）をもとに作成

③河川敷のルール

荒川下流河川敷利用ルールは、河川敷の安全かつ快適な利用環境の確保を目的として、荒川下流河川事務所と沿川自治体等が協働して策定し、平成22(2010)年4月から運用しています。その後、禁止行為や迷惑行為の明確化、航空法改正への対応、利用者からの問合せを踏まえた見直しなど、社会状況や利用実態に応じた複数回の改正が行われてきました。近年では、ドローンの飛行や自転車通行などについて、一定の条件下で利用を認めるなど、要望に応じたルールの緩和も進められています。

本ルールは、河川敷での事故やトラブルを未然に防ぎ、全ての利用者が安心して過ごせる環境を維持するためのものであり、ゴミの不法投棄、無許可の車両進入、騒音などの行為を制限しています。また、自転車や歩行者の接触防止、夜間の花火の自粛など、利用者同士の配慮を促すマナーも定められています。

荒川下流における河川敷の利用制限事項等

項目	制限内容
禁止行為	ゴミの不法投棄、たき火やごみの焼却、犬のノーリード・フンの放置、無許可の自動車・オートバイの進入
危険行為	バットやゴルフクラブの使用、バーベキューや煮炊き、ドローン・ラジコン機の飛行（指定場所を除く）
迷惑行為	騒音を発生する行為、夜間（22時～翌6時）の花火
マナー	歩行者との接触防止のための自転車の徐行・譲り合い、河川敷道路上への荷物放置、キャッチボール等の通行妨害

出典：荒川下流河川事務所ウェブサイトをもとに作成

※自治体や公益団体が管理する占用地（公園・スポーツ施設・バーベキュー場など）では、それぞれの管理者が定めた独自のルールに従う必要があります。



荒川下流河川敷利用ルール広報チラシ

出典：荒川下流河川事務所ウェブサイト

(2) 施設や周辺の特徴

①指定管理者施設（体育施設）

体育施設概要

施設名	新河岸陸上競技場、新河岸庭球場、荒川戸田橋陸上競技場、 荒川戸田橋野球場、荒川戸田橋サッカー場
導入時期	平成 17（2005）年度から導入し、現在で第 5 期指定期間（21 年目）
指定管理者	東京ドームグループ
指定期間	令和 7（2025）年 4 月 1 日から令和 12（2030）年 3 月 31 日まで（5 年間）
業務内容	東京都下水道局用地及び荒川河川敷用地を活用した陸上競技場、 庭球場、野球場、サッカー場の管理運営 など
収入源	駐車場、各施設使用料の収入 など



荒川戸田橋陸上競技場



荒川戸田橋野球場

②指定管理者施設（リサイクルプラザ）

リサイクルプラザ概要

施設名	リサイクルプラザ
導入時期	平成 17（2005）年度から導入し、現在で第 5 期指定期間（21 年目）
指定管理者	板橋 3 R みらいプロジェクト
指定期間	令和 7（2025）年 4 月 1 日から令和 12（2030）年 3 月 31 日まで（5 年間）
業務内容	荒川河川敷スーパー堤防上の施設としてごみ減量や 3 R の実践・啓発、 駐車場、シャワー室、屋上の野鳥観察舎等の管理運営 など
収入源	駐車場、シャワー室、ロッカー室、多目的室、不用品販売等の収入



リサイクルプラザ外観



リサイクルプラザロッカー室

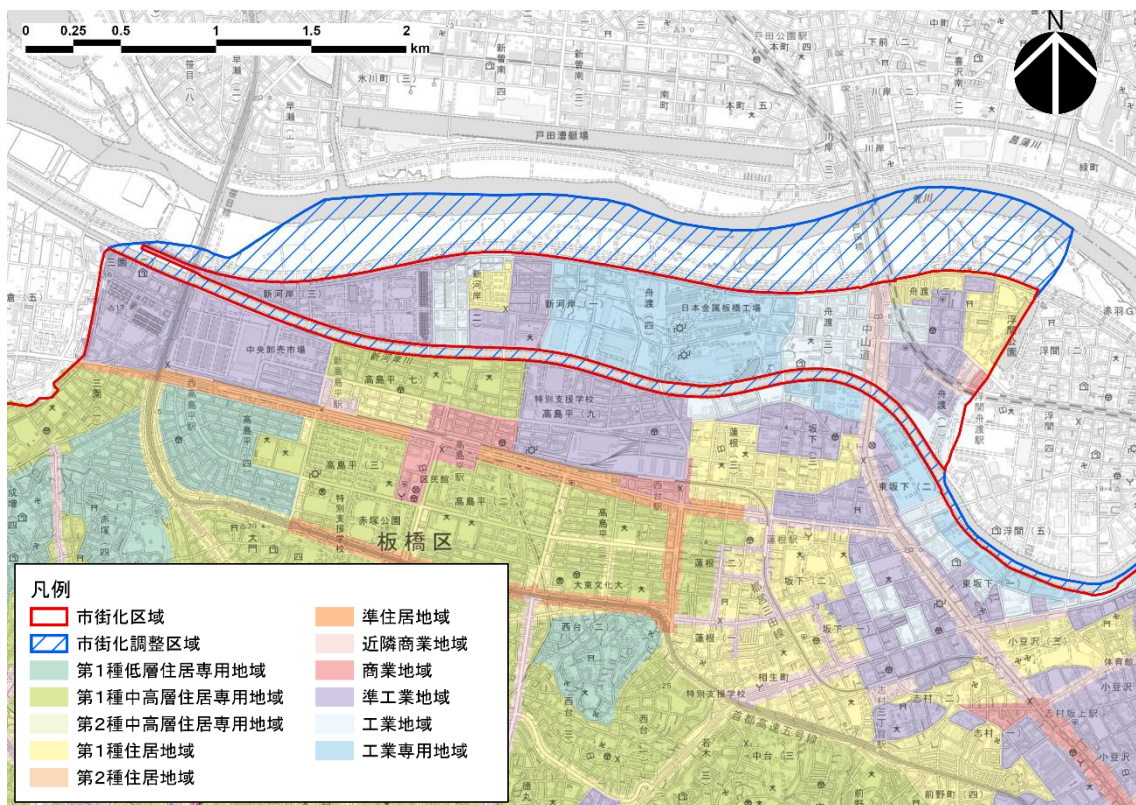
③都市計画等

荒川河川敷は、都市計画法における市街化を抑制すべき区域である「市街化調整区域」であるとともに、都市施設として「緑地」の指定を受けています。また、対象エリア周辺である舟渡・新河岸地区は、東京都内でも数少ない「工業専用地域」が指定されています。

「工業専用地域」とは、都市計画法に基づく13種類の用途地域のうちのひとつで、工業の利便性を高めることを目的とした地域のため、住宅や店舗、学校、病院、ホテルなどの建築が原則として認められておらず、工場やそれに付随する事務所、倉庫などが主な用途となります。

東京23区内随一の工業専用地域を持つ、都内有数の工業集積地であり、光学・精密機器産業、印刷・同関連業、食料品製造業、鉄鋼業、化学工業を中心に、ものづくり企業が区内には集積しています。区の縦横に幹線道路が走る充実した交通網と、トラックターミナルや大型倉庫など、東京都の内外をつなぐ物流の結節点であり、道路交通の利便性の高さも強みです。

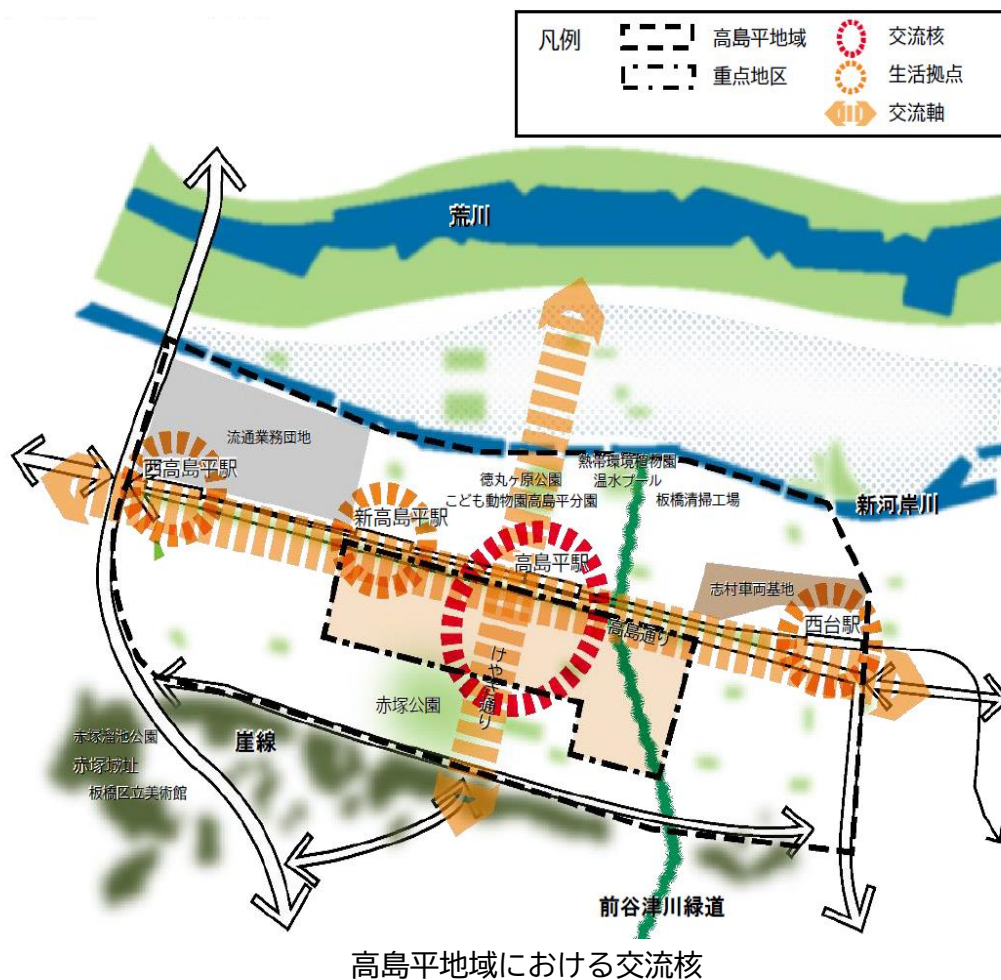
令和6（2024）年には都内最大の大型物流施設「MFLP・LOGIFRONT 東京板橋」が竣工され、大型物流施設としての機能だけでなく、地域に貢献する防災・環境配慮の取組や、緑道や広場の整備など多面的な施設として、まち空間との連携が期待されています。



かわまちづくり対象エリア周辺の用途地域図

④高島平のまちづくり

高島平地域では、高島平駅を中心とする交流核エリアで都市再生の第一歩をスタートしていきます。軸となる緑地や道路空間を活用し、駅の南北方向やまちの東西方向を一体的な歩行空間でつなぐことで、回遊性が高く居心地の良い「人中心のまちづくり」を推進し、次世代に誇りと愛着を持てるまちであり続けるため、交流核を中心とした、災害にも強い安心・安全なまちの整備を進めていきます。



高島平地域における交流核

出典：高島平地域交流核形成まちづくりプラン



高島平地域のイベント

3 かわまちづくりにおける課題

対象エリアの現況や特徴、区民及び事業者ニーズ等を踏まえ、区のかわまちづくりを進めていくにあたって、解決すべき主な課題を以下に設定します。

課題①：河川空間を訪れる人々の増加

- 河川空間を訪れる主な人々は、荒川河川敷の大部分を占めている野球・サッカー等のスポーツ利用者や散策等であり、バーベキュー利用や水際・水面利用者等は少ない傾向となっています。
- 一方で、区の4大イベントにもなっている「いたばし花火大会」や「板橋 City マラソン」、春の風物詩でもある「親子たこあげ大会」など、荒川河川敷という広大で豊かな空間を活用したイベントを開催することで、多くの人々が集まっています。
- そのため、新たな利用者層獲得に向けて、荒川河川敷の広大なオープンスペースを活用し、ニーズを踏まえた魅力的なコンテンツやイベント等により、河川空間を訪れる人々を増やしていく必要があります。

課題②：既存機能の充実

- 荒川河川敷における滞在時間の短さ及び利用頻度の少なさの現状や、トイレ機能の満足度が低いこと、夏の猛暑対策等の休憩所や日よけ対策の必要性など、既存の施設等に関する課題があると言えます。
- 一方で、「自然の豊かさ」に対する満足度は高いこと、荒川河川敷は区内都市公園面積の約3割を占める広大な草地在り、重要な水と緑の軸となっていることなどから、「散策・ウォーキング」や「自然観察」をやってみたいという意見も多く、自然環境は荒川河川敷の大きな特徴でもあります。
- そのため、荒川河川敷に滞在したい、繰り返し来たいと思えるよう、トイレ機能の改善や休憩所・日よけ等設置による暑さ対策など既存機能の充実や、特徴であるみどりに恵まれた荒川河川敷の自然環境の維持・充実を図っていく必要があります。

課題③：インパクトある事業展開や安定した運営

- 新たな利用者層の獲得や民間事業者参入の鍵とも言える集客環境の形成に向けては、区民ニーズの高いバーベキューやカフェ・キッチンカー、集客能力の高いイベントの開催などは効果的なコンテンツであると考えられます。
- 一方で、新たなコンテンツ導入を含めた民間事業者の参入にあたっては区の整備も求められており、ハード・ソフト両面の工夫が必要であるとともに、効率的な行政運営及び将来的な維持管理を視野に入れ、関連する指定管理者施設との十分な協議や連携・協力などが不可欠です。

- そのため、様々な取組の促進や事業手法等を工夫するとともに、民間事業者のノウハウや資金等を活用し、インパクトのある事業展開や継続可能な安定した運営を進めていく必要があります。

課題④：防災機能の充実

- 荒川は国の緊急河川敷道路や緊急用船着場等の災害対応を目的とした施設の整備や、震災時の避難場所及び支援物資等の拠点としての活用など、災害時における重要な役割を担っています。
- また、舟渡地区の「MFLP・LOGIFRONT 東京板橋」及び新河岸地区の「連絡通路の整備」など、水害対策である高台まちづくりの取組を進めていることから、区としても荒川周辺における防災機能が果たす役割は大きなものとなっています。
- そのため、平時におけるにぎわい創出はもとより、気候変動等による激甚災害が増加していることなどから、災害時をより意識し、さらなる防災機能の充実を図る必要があります。

課題⑤：特徴を活かしたまちづくりへの貢献

- 河川空間とまち空間とをつなぐことが求められるかわまちづくりにおいて、荒川河川敷周辺の公園の利用ニーズがある一方で、河川敷までのアクセスや沿川の土地利用などの課題が存在しています。
- 近隣の高島平地域では、高島平駅周辺中心に都市再生をスタートし、地域の顔となる拠点を形成するとともに、ウォークラブルなまちづくりやDX等を活用した、分野横断的な取組の展開をめざしています。
- そのため、周辺エリア間で連携し、相互の課題解決を図るとともに、特徴を活かした将来的なまちづくりに貢献する取組を進めていく必要があります。

第4章



かわまちづくりの方向性

- 1 かわまちづくりの基本的な考え方
- 2 かわまちづくりの5つの視点

4 かわまちづくりの方向性

にぎわい創出と防災を2軸に、自然豊かな空間を整え、 河川敷の魅力と機能の向上をめざす

基本構想で示している全体コンセプト「自然体験型アーバンリバーパーク」実現のため、「かわまちづくり」で取り組むにぎわい創出と、区のかわまちづくりの特徴である防災の2つを軸に、自然豊かな空間を整え、荒川河川敷の魅力及び機能向上をめざすにあたり、方向性を示します。

かわまちづくりの 基本的な考え方

荒川河川敷の魅力と機能の向上をめざすとともに、ゾーニング計画策定及び整備や取組の推進にあたっては、基本構想で掲げている5つのコンセプトを踏まえた方向性とします。

かわまちづくりの 5つの視点

主要な5つの課題を解決するため「5つの視点」を設け、整備や取組を推進します。

1 かわまちづくりの基本的な考え方

- 基本構想で示している全体コンセプト「自然体験型アーバンリバーパーク」実現のため、「かわまちづくり」で取り組むにぎわい創出と、区のかわまちづくりの特徴である防災の2つを軸に、自然豊かな空間を整え、荒川河川敷の魅力及び機能向上をめざします。
- ゾーニング計画策定及び整備や取組の推進にあたっては、基本構想で掲げている5つのコンセプトを踏まえた方向性とします。
- 併せて、区のかわまちづくりの主要な5つの課題を解決するため「5つの視点」を設け、整備や取組を推進します。

2 かわまちづくりの5つの視点

視点1：区のブランドとなる充実したコンテンツの創出

新たな利用者層を獲得し、河川空間を訪れる人々を増やしていくため、区のブランドとなる充実したコンテンツを創出します。

【方向性1】

- 荒川河川敷の大部分を占めている野球場やサッカー場等の体育施設のほか、新たなスポーツ機能の拡充や水辺空間の利活用、屋外体験等のレクリエーションなど、にぎわいの核となる拠点等の整備に取り組めます。
- 休日にぎわっているスポーツ利用者に加え、広大なオープンスペースを活用した大小様々なイベントや来訪者が憩える場の提供など、荒川河川敷への新たな利用者誘致に取り組めます。

視点2：既存機能の充実

体育施設等をはじめとした河川空間利用者の利便性向上、みどりに恵まれた河川環境を活かすため、既存機能の充実を図ります。

【方向性2】

- 区民等のニーズが高いトイレ機能の改善や異常気象による夏の猛暑対策に資する休憩所・日よけ等の設置のほか、キッチンカー等の飲食機能など、既存施設等の充実により、利用者の利便性向上を図ります。
- サンクチュアリが特徴的なワンドを中心とした生物生態園や中規模自然地など、豊富なみどりや河川環境を守りつつ、荒川河川敷の特徴であるみどりや水辺空間の利活用を促進します。

視点3：公民連携の推進

インパクトのある事業展開や安定した運営を行うため、事業手法を工夫するとともに、民間事業者のノウハウ等の活用により公民連携を推進します。

【方向性3】

- 先進的な事業展開を図る一方で、河川空間の特殊性及び集客やアクセス等の様々な課題に対応するため、事業手法について工夫を凝らしながら、新たな民間活力の導入をめざします。
- 効果的で効率的な事業手法や安定した運営に向けて、体育施設やリサイクルプラザ等の関係する指定管理者施設と連携を図り、荒川河川敷全体の機能向上に取り組みます。

視点4：防災機能の充実

震災時における支援物資等の拠点としての役割や水害対策である高台まちづくりのさらなる推進に向け、防災機能の充実を図ります。

【方向性4】

- 整備を進める際に欠かすことのできない河川管理者の荒川下流河川事務所との連携を強化し、にぎわい創出はもとより、河川空間の重要な役割である防災機能活用を推進します。
- 緊急一時退避場所等の整備が進んでいる「災害に強い首都『東京』形成ビジョン」のモデル地区に位置づけられている舟渡・新河岸地区において、高台まちづくりによる水防災の取組を促進します。

視点5：まちづくりとの連携

かわ側とまち側のつながりにより、相互の課題解決を図るとともに新たな価値を創出するため、まちづくりとの連携を図ります。

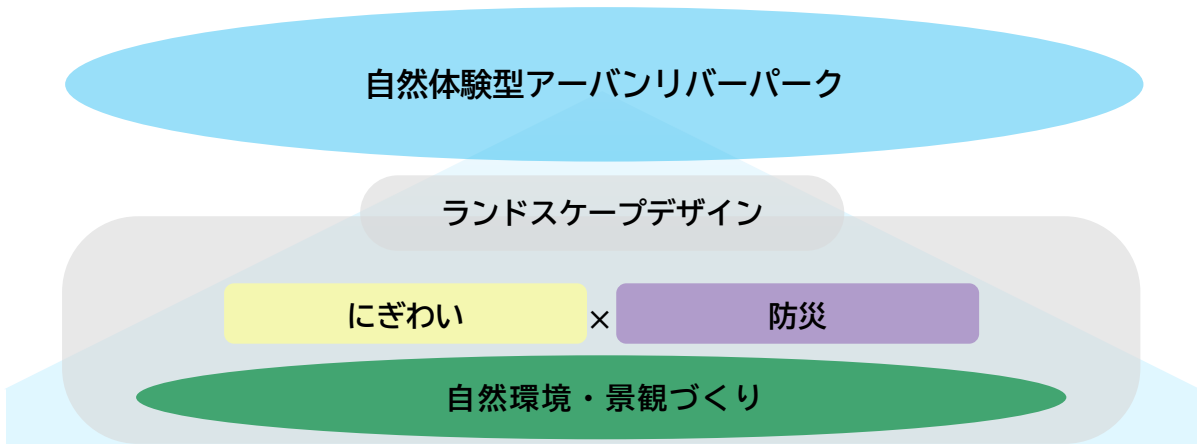
【方向性5】

- 多世代が訪れる場所として課題となるアクセス改善に向け、「かわ」と「まち」をつなぐ交通アクセスの機能充実に取り組みます。
- 高島平駅周辺を中心とした都市再生をスタートする高島平地域のまちづくり等と連携し、相互の課題解決と将来に向けたまちづくりに貢献するとともに、新たな価値創出に向けて取り組みます。

5つの視点の考え方

- 5つの視点のうち、視点1から視点3については、「にぎわいのバージョンアップ」として、かわまちづくりの中で特に重要となる河川敷内やにぎわい創出に関する整備や取組の充実を図ります。
- 視点4、視点5については、かわまちづくりと関連が深い、「防災」及び「『まち』側との連携」により、波及効果を狙います。

【かわまちづくりの方向性】



かわまちづくり推進の5つの視点と方向性

バージョンアップの	視点1 区のブランドとなる充実したコンテンツの創出	方向性1 ○にぎわいの核となる拠点等整備 ○河川敷への新たな利用者誘致
	視点2 既存機能の充実	方向性2 ○既存施設等利用者の利便性向上 ○みどり・水辺の利活用促進
	視点3 公民連携の推進	方向性3 ○新たな民間活力の導入 ○関係指定管理者との連携促進及び機能向上
視点4 防災機能の充実	方向性4 ○国との連携による防災活用の推進 ○高台まちづくりによる水防災の取組促進	視点5 まちづくりとの連携
	方向性5 ○まちをつなぐ交通アクセスの機能充実 ○高島平まちづくりとの連携・新たな価値創出	

【コラム】かわまち大賞とミズベリング

■かわまち大賞

『かわまち大賞』は、全国 303 か所（令和 7（2025）年 8 月時点）のかわまちづくり登録地域の中から、「先進性」「継続性」「創意工夫」「連携性」「効果」の 5 つの観点から評価し、他地域の模範となる先進的な取組を国土交通大臣が表彰するものです。

優良事例を全国に周知することで取組団体を称えとともに、かわまちづくり支援制度の浸透と民間事業者の参入促進を図り、民間のノウハウを活かした質の高い水辺のまちづくりの実現に貢献しています。



東京都多摩市 聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり
【令和 6（2024）年度大賞受賞】



宮城県名取市 閑上地区かわまちづくり
【令和 3（2021）年度大賞受賞】

出典：国土交通省ウェブサイト

■ミズベリング

ミズベリングは、新しい水辺の活用の可能性を切り開くための官民一体の協働プロジェクトであり、水辺を愛する人が主体的に関わり、水辺とまちが一体となった景観、にぎわい、新しい水辺と社会の関係を生み出すことをめざしています。

荒川下流域では、この理念をさらに発展させた「荒川下流ミズベ・グリーンコミュニティ」が構築され、「荒川と荒川に関わる『まち』と『ひと』がともにウェルビーイング（健康）な状態への変容」をめざしています。多様なパートナー団体による連携・協働により、従来活用されていなかった河川空間に新たな価値を創出し、本格的な水辺まちづくりへの展開につながる重要な基盤となっています。



ミズベリング荒川下流会議

出典：荒川下流河川事務所ウェブサイト

第5章



かわまちづくりの展開

- 1 ゾーニング計画
- 2 各ゾーンにおける展開

5 かわまちづくりの展開

基本構想の5つのコンセプト等を踏まえた 各ゾーンの整備の方向性

基本構想で掲げている5つのコンセプトを踏まえるとともに、主要な課題解決に向けた5つの視点から整備や取組を推進し、かわまちづくりを展開していきます。

ゾーニング計画

かわまちづくり対象エリアのうち、下流側の約2kmの範囲を4つのゾーンと、それらをつなぐプロムナードに分け「第2期以降計画区域」として示します。

各ゾーンにおける展開

各ゾーンにおいて、めざすべきゾーニング像、整備の方向性、主な取組内容を示します。



1 ゾーニング計画



かわまちづくりのゾーニング計画

各ゾーンの現況

I スポーツ・カルチャー発信ゾーン



II 水辺のにぎわい・アウトドアゾーン



III 自然・環境ゾーン



IV スポーツ・アクティビティゾーン



2 各ゾーンにおける展開

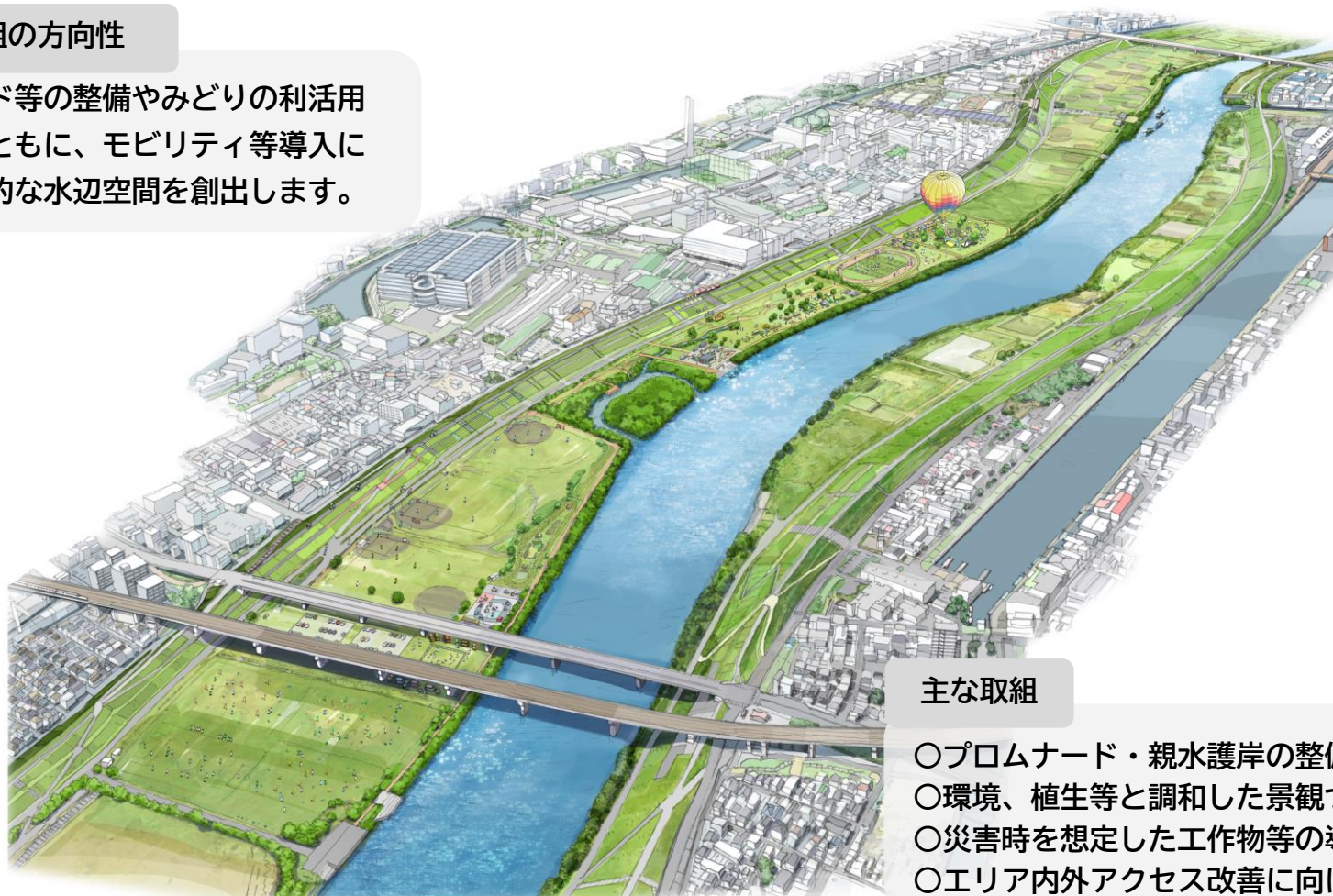
◆全体エリア

めざすべきゾーニング像

自然豊かな空間を整え、各ゾーンの特徴を活かした取組を展開し、河川空間とまち空間の融合をめざします。

整備・取組の方向性

プロムナード等の整備やみどりの利活用を進めるとともに、モビリティ等導入により、連鎖的な水辺空間を創出します。



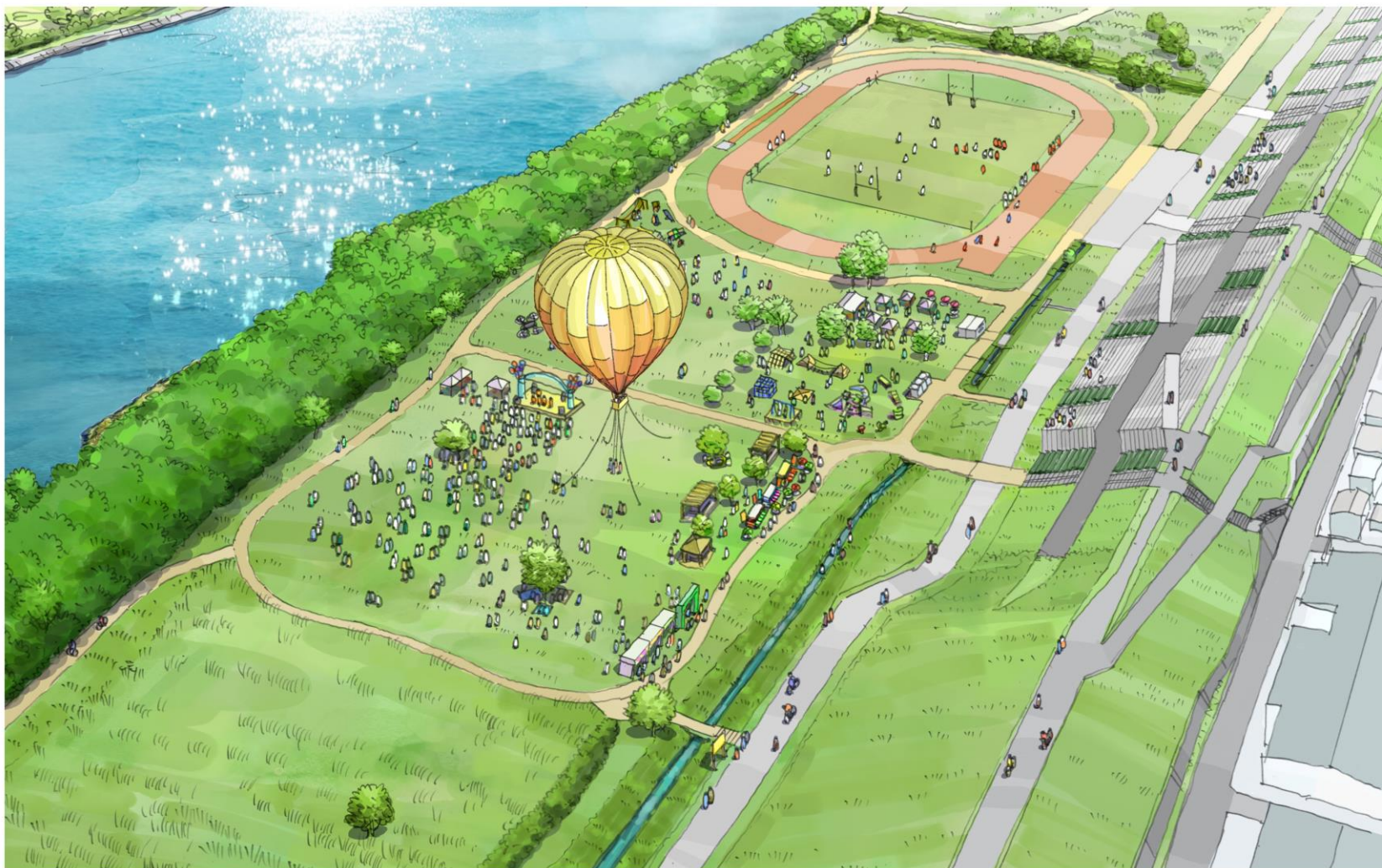
主な取組

- プロムナード・親水護岸の整備
- 環境、植生等と調和した景観づくり
- 災害時を想定した工作物等の導入・活用
- エリア内外アクセス改善に向けた機能導入

◆ I スポーツ・カルチャー発信ゾーン

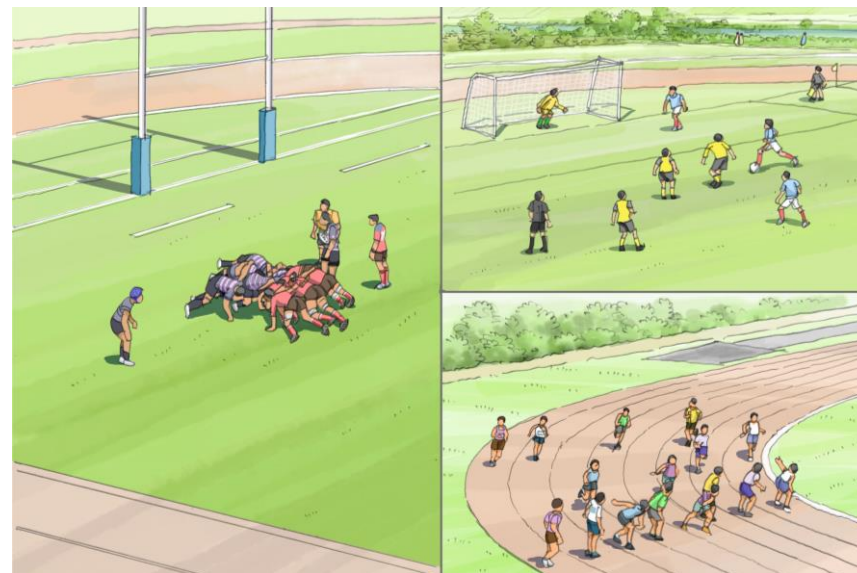
めざすべきゾーニング像

スポーツ機能の拡充や様々なイベントを開催することで、多くの人々が訪れ、活気あふれる場をめざします。



整備・取組の方向性

荒川戸田橋陸上競技場の改修や自然を活かした広大なオープンスペースを設け、大規模イベント等の拠点として活用を図ります。



主な取組

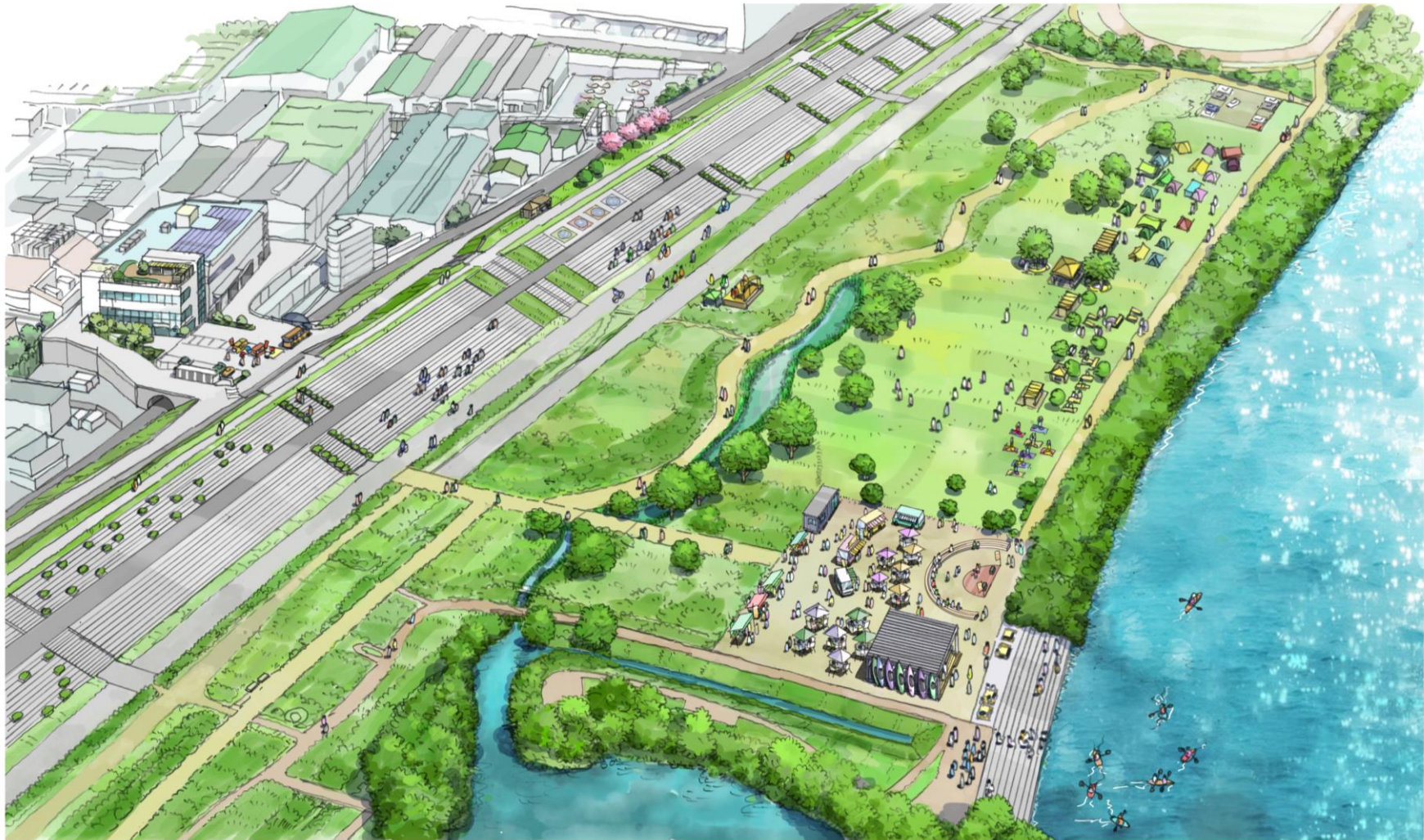
- 広大な草地広場や荒川戸田橋陸上競技場を活用し、大小様々なイベントを実施します。
- イベントや通常時でも子どもが楽しめる空間づくりを進めます。
- 荒川戸田橋陸上競技場を改修し、陸上やサッカー利用の充実を図るとともに、新たにラグビー機能を設けます。

取組例



◆II 水辺のにぎわい・アウトドアゾーン

めざすべきゾーニング像 水辺空間の利活用や屋外体験等のレクリエーションにより、誰もが楽しめ、憩える場をめざします。



整備・取組の方向性

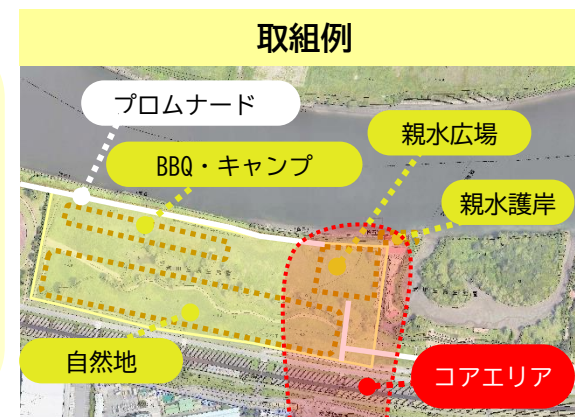
親水広場の整備やカフェ・レストラン機能を設けるとともに、リサイクルプラザや自然地の活用を見据え、「コアエリア」としてにぎわいの拠点づくりを進めます。



主な取組

- 中規模自然地を活用し、みどりあふれる空間でのバーベキュー機能拡充やキャンプ等の屋外レクリエーションを導入します。
- 親水広場や親水護岸を整備し、水際・水面活用を推進します。
- カフェ・レストラン等の飲食機能の他、ゾーン全体の充実に向け、電気・水道の設置や、リサイクルプラザの活用を検討します。

取組例



◆Ⅲ 自然・環境ゾーン

めざすべきゾーニング像 豊富な緑や河川環境、多様な生物の生息地である自然環境を整え、みどりあふれる場をめざします。



整備・取組の方向性

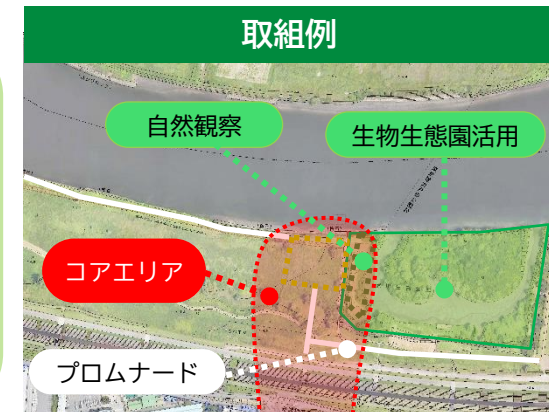
生物生態園のワンド等の地形を活かすとともに、自然環境の機能向上を図ることで、みどりの拠点となる空間づくりを進めます。



主な取組

- 生物生態園を活用し、自然に触れ合え学べる機会の充実を図ります。
- 多様な生物の保全やみどりの充実に向けて、適切な整備や維持管理を実施します。
- 河川敷の資源である水辺空間及び豊富なみどりの利活用に向けて、生物生態園のあり方を検討します。

取組例



◆IV スポーツ・アクティビティゾーン

めざすべきゾーニング像

新たなアクティビティの提供やスポーツ利用者等の利便性向上を図り、たくさんの人々でにぎわう場をめざします。



整備・取組の方向性

マウンテンバイクコース等の整備やキッチンカーの配置・トイレの充実など、かわまちづくりの玄関口となる駐車場の充実を図ります。



主な取組

- 来場者数確保に向けて、駐車場拡充やたくさんの人々が集える場を提供します。
- 多様なスポーツが実施できるフィールドを整備します。
- 駐車場からのアクセスを活かし、多世代が訪れることができるアクティビティ機能を設けます。

取組例



【コラム】安全な河川利用に向けた取組

■安全な河川利用に向けた取組

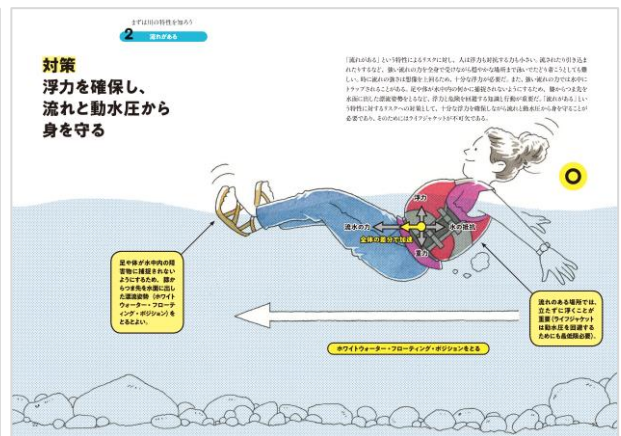
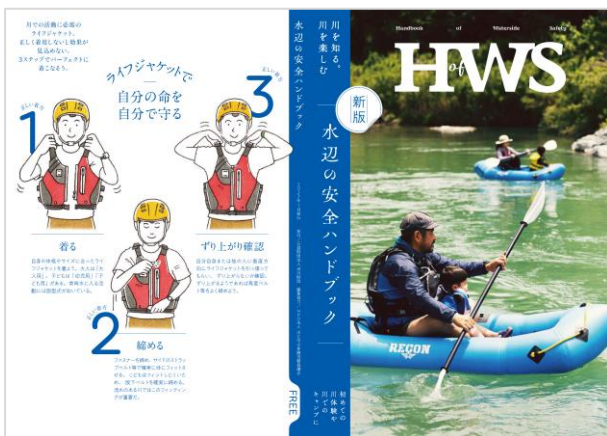
令和6（2024）年度から、「かわまちづくり計画」に「安全な河川利用に向けた取組」の記載が必須となりました。また、計画登録後に河川管理者が行うソフト施策の支援の一つとして、「川の指導者の安全講習等の受講、啓発活動等の支援」が新たに加われました。これは、かわまちづくりの推進により水辺空間の利用が活発化し、多くの人々が河川に親しむようになる一方で、安全確保の重要性がより高まったことが背景にあります。

国土交通省では「川に学ぶ社会」をめざし、自然の大切さや生命の尊さを河川から学ぶ活動を推進するとともに、水辺の安全ハンドブックの作成・配布や安全講習会の実施など、水難事故防止の普及啓発に取り組んでいます。川の指導者への安全講習支援などにより地域の安全教育体制の充実を図り、将来的には地域全体で安全な河川利用の知識と技術が受け継がれていくことも期待されています。

このような取組により、誰もが安心して水辺を楽しめる、より安全で魅力的なかわまちづくりを実現しています。



荒川における安全講習会実施の様子（東京都北区）



水辺の安全ハンドブック

出典：公益財団法人河川財団ウェブサイト

第6章



かわまちづくりの推進

- 1 かわまちづくりにおける公民連携
- 2 かわまちづくりにおける整備・取組の目標
- 3 目標値の設定

6

かわまちづくりの推進

多様な主体との連携による かわまちづくりの効果的な推進

かわまちづくりを推進するためには、民間事業者参入に向けた事業手法や整備に基づく効果的な事業運営を行うとともに、国との役割分担や優先順位等も踏まえた整備を進めていく必要があります。進行管理や効果検証を適切に行い、成果を意識した事業展開を図ります。

かわまちづくりにおける 公民連携

民間事業者の参入に向けて、公募設置管理制度（Park-PFI）などの事業手法について検討するとともに、今後の公民連携の課題と方向性について示します。

かわまちづくりにおける 整備・取組の 目標

国と区との役割分担や整備順序など、整備目標及びスケジュールを示します。

目標値の設定

継続的なモニタリングと評価のために目標値を設定し、かわまちづくりの推進を図ります。

1 かわまちづくりにおける公民連携

(1) 公民連携による事業手法

区のかわまちづくりでは、民間事業者のノウハウを活用した整備や取組を進めるにあたり、公募設置管理制度（Park-PFI）などの様々な民間活力手法について、整備・維持管理運営両面から比較・検討を行いました。このような公民連携の制度を活用し、民間事業者のサービス等も踏まえ、区のブランド力向上につながる新たな価値の創造を推進していきます。

公民連携による事業手法の比較※（1/2）

指定管理者制度と公募設置管理制度（Park-PFI）の併用		
■制度概要 公園全体の維持管理は指定管理者制度、一部の収益施設は Park-PFI で整備・運営。	■特徴 管理と整備を分担可能なため、行政の負担軽減と民間の創意工夫の両立が可能。 制度が複層的であり、契約管理が煩雑になる可能性あり。	 <p>静岡県伊豆の国市 川の駅伊豆城山</p>
公募設置管理制度（Park-PFI）		
■制度概要 公園の一部（飲食店・売店等）を民間が整備・運営し、全体の維持管理も担う。	■特徴 民間資金での整備可能なため、行政の財政負担を軽減しつつ、魅力的な空間づくりが可能。 事業採算性が重視され、応募が集まらず事業化に時間を要する可能性あり。	 <p>東京都豊島区 IKE SUNPARK</p>
設置管理許可制度【10年間（更新可能）】		
■制度概要 民間が施設を設置・管理し、行政に使用料を支払う。	■特徴 柔軟な運営が可能。民間の自主性を活かした施設展開がしやすい。 公園全体の統一的な管理が難しく、行政の管理方針との整合性が課題になる可能性あり。	 <p>東京都豊島区 南池袋公園</p>
PMO 型指定管理（包括型管理）【20年間】		
■制度概要 民間が公園全体の維持管理、施設整備、イベント運営まで一括で担う。	■特徴 一体的なマネジメントでにぎわい創出が可能。 高度なマネジメント能力が必要で、行政側も事業者選定に慎重さが求められる。	 <p>大阪府大阪市中央区 大阪城公園</p>

※各事業手法の写真は実施例

公民連携による事業手法の比較※（2/2）

指定管理者制度によるソフト事業の充実【3～10年間】

■制度概要	■特徴
指定管理者がイベント等のソフト事業を展開し、にぎわいを創出。	地域特性を活かした柔軟な運営が可能で、住民参加型の運営に適している。 収益性が低く、持続的な事業展開には支援が必要な可能性あり。



新潟県新潟市 信濃川やすらぎ堤

設計施工一括発注（デザインビルド）【案件次第】

■制度概要	■特徴
設計と施工を一括で民間に発注する方法で、運営が別途契約。	設計・施工の一体化により工期短縮、コスト最適化が可能。 初期コストが高額になりやすく、また、整備と運営の一体性が確保しづらい可能性あり。



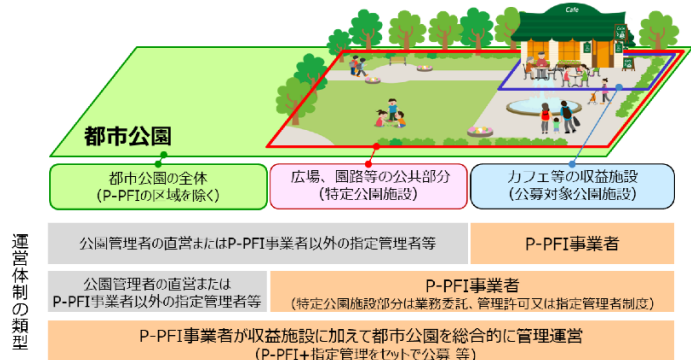
東京都江戸川区総合レクリエーション公園
出典：江戸川区ウェブサイト

※各事業手法の写真は実施例

【コラム】公募設置管理制度（Park-PFI 制度）について

■Park-PFI 制度の概要

Park-PFI 制度は、都市公園において飲食店、売店等の公園利用者の利便性の向上に資する公園施設の設置と、その設置した施設から得られる収益を活用して、その周辺の園路、広場等の公園施設整備や、改修等を一体的に行う事業者を公募により選定する制度です。



公園全体の整備・運営体制のイメージ図

出典：都市公園の質の向上に向けた Park-PFI 活用ガイドライン

(R 7.5.30 改正、国土交通省都市局公園緑地・景観課)

■Park-PFI 導入のメリット

公園管理者	<ul style="list-style-type: none"> 民間事業者の資金により、公園整備・管理にかかる財政負担を軽減（社会資本整備総合交付金の対象） 民間事業者が整備と管理を一体的に行い、公園全体の魅力を向上
民間事業者	<ul style="list-style-type: none"> 設置管理許可の延伸（通常最長10年から20年まで延長可能）や建蔽率の特例等の規制緩和により、長期的な視点で経営可能（サービス向上、投資回収が可能）
公園利用者	<ul style="list-style-type: none"> カフェ等の収益施設により、公園のサービスレベルが向上 収益還元により、地域活性化に寄与

(2)かわまちづくりにおける公民連携の課題と方向性

区のかわまちづくりの推進にあたっては、整備や維持管理・運営面のメリットが高いことから、公民連携の視点は非常に重要となります。サウンディング型市場調査の結果を踏まえ、公民連携の課題と方向性について次のとおり整理しました。

課題①：一定程度区の初期投資（整備）が必要

- 民間事業者による整備は多額の経費を施設整備等の初期投資に要すことから収益還元は難しく、事業者の負担にならない配慮が必要であるとともに、全体の事業規模及び区がどこまで投資を可能とするのか、早い段階での開示が必要との意見がありました。
- そのため、民間事業者が参入できるように、全体の事業規模とともに適切な区の整備範囲を見定め、一定程度区が初期投資を行い、整備を進めることが必要です。

課題②：集客に向けたデータ取得やかわまちづくりの機運醸成を図ることが必要

- 民間事業者の参入は、人が来る環境が形成されるかが鍵であり、にぎわいを創出しやすい場所から集中して集客を行ったり、特定の機能だけではなく多目的利用の視点を取り入れたりするなど、ソフト面の取組が非常に重要であるとの意見がありました。
- そのため、人が集まる環境づくりに向けて、公民連携にも活用できるデータ取得やかわまちづくりの機運醸成を図っていくことが必要です。

課題③：関連する指定管理者との連携や協議が必要

- 民間事業者の資金調達の間からも参入しやすい事業手法である「DB(デザインビルド)方式」や「指定管理者制度」等が望ましく、また、関連する指定管理者施設と一体で管理することも効率的であるとの意見がありました。
- そのため、効率的な事業運営につながる公民連携手法導入に向けて、関連する指定管理者と連携し、業務改善が図られるなど、諸条件について協議を重ねていくことが必要です。

課題①～③を踏まえた
公民連携の取組の方向性

民間事業者が参入可能な条件整理や事業手法を検討・工夫し、事業試行の準備期間を設けながら、整備や取組につなげていきます。

(3) 公民連携導入に向けた取組方針

公民連携の課題と方向性を踏まえ、民間事業者の参入や板橋らしいにぎわい創出につながる整備及び取組を実施するため、以下の取組方針に基づき、公民連携導入に向けてかわまちづくりを推進していきます。

取組方針①：にぎわい拠点づくり

- 事業の実施及び民間事業者の参入に向けて、にぎわいの拠点となる「水辺のにぎわい・アウトドアゾーン」の親水広場周辺の「コアエリア」から区主体で整備を進めます。
- 整備にあたっては、生物生態園や中規模自然等の現況や荒川将来像計画地区別計画の土地利用区分等を踏まえた整備内容とします。

取組方針②：にぎわい機能の拡充

- 利用者ニーズや事業運営の課題等の整理、かわまちづくりの機運醸成を図るため、トライアル・サウンディングを実施します。
- トライアル・サウンディングの結果や現在の荒川河川敷の状況等も踏まえ、にぎわい創出に資する新たなイベントや既存機能の拡充に取り組みます。

取組方針③：関係機関との連携

- 荒川下流河川事務所と連携し、水辺の利活用に向けてプロムナード・親水護岸の整備を進めます。
- かわまちづくりに関連する河川敷体育施設やリサイクルプラザの指定管理者（以下「関連指定管理者」）の現状を踏まえ、事業連携や効果的な運営をめざします。

取組方針①～③を踏まえた板橋区かわまちづくりの
公民連携のあり方

行政と民間事業者との役割分担を行うとともに、かわまちづくり協議会等を活用しながら、地域住民や利用者の声などを取り入れ、共創空間を構築します。

2 かわまちづくりにおける整備・取組の目標

(1) 整備・取組のスケジュール及び事業量

取組方針	整備・取組内容	R 8年度	R 9年度	R 10年度	R 11年度	R 12年度	R 13年度以降
①にぎわい拠点づくり	コアエリアの整備・運営	調査・基本設計	事業者公募	詳細設計・整備	管理・運営		
	車両・トイレ等工作物の導入	準備	製作	活用			
②にぎわい機能拡充	ソフト事業充実	トライアル・サウンディング	新イベント機能拡充				
	荒川戸田橋陸上競技場の改修	整備実施					
③関係機関との連携	プロムナード等の整備	ゾーンごとに整備実施（国）					
	関連指定管理者の指定期間	2年目	3年目	4年目	5年目再選定	再1年目	再2年目

(2) 整備・取組内容

①にぎわい拠点づくり

- 拠点となる水辺のにぎわい・アウトドアゾーンの親水広場や園路を中心としたコアエリアの整備に着手するとともに、隣接する生物生態園及び中規模自然地の有効活用を進めます。
- コアエリアの整備・運営に向けては、効果的な事業者公募を実施します。
- 整備と併せて、集客に向けて車両やトイレをはじめとした工作物を導入します。

②にぎわい機能拡充

- 令和8（2026）年度には、民間事業者主体でトライアル・サウンディングを実施します。
- トライアル・サウンディングの実施状況を踏まえ、にぎわいの拠点づくりと併せて、新たなイベントの実施や既存機能の拡充に区主体で取り組みます。
- インフィールドやトラック等の老朽化が進んでいる荒川戸田橋陸上競技場を改修し、新たにラグビー機能を設けます。

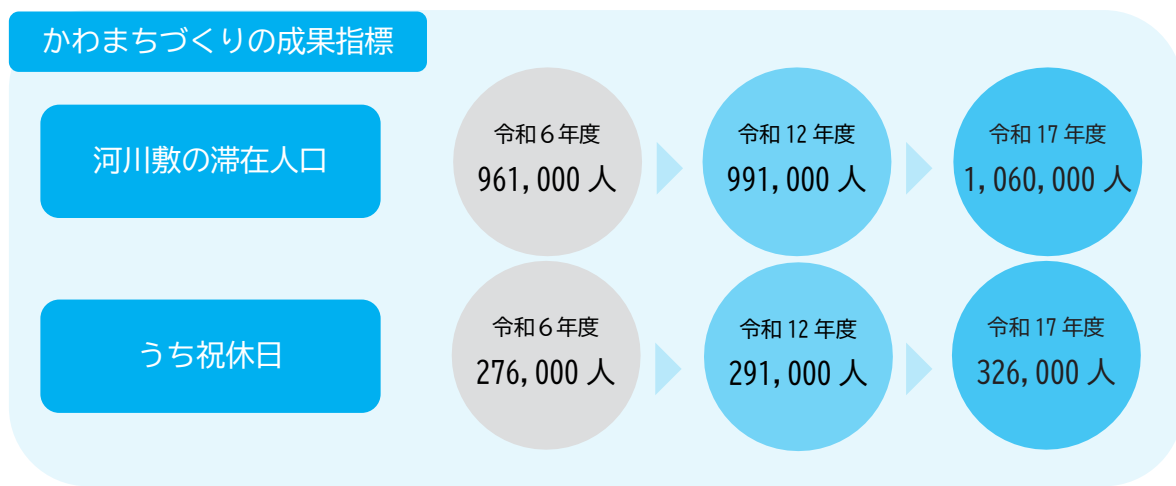
③関係機関との連携

- プロムナード等の整備について、河川管理上必要な整備は荒川下流河川事務所により実施し、その他機能向上部分は区の負担により実施します。
- 関連指定管理者の指定期間も考慮し、効果的な事業運営に取り組みます。

3 目標値の設定

かわまちづくりの目標値は、第2期整備エリアの草地広場周辺から戸田橋（荒川戸田橋緑地サッカー場含む）の区間に1時間以上留まっている人々を「河川敷の滞在人口」と定義し、最終成果指標として設定します。

目標年限については、区の総合計画である「板橋区基本計画 2035」の計画期間も考慮し、令和17（2035）年度とします。また、今後の整備等の進捗や事業者公募実施も見据え、中間となる令和12（2030）年度にも目標値を定めます。



- 第2期整備エリアである草地広場周辺から戸田橋（サッカー場含む）区間の滞在人口は、令和元（2019）年度の大規模台風、新型コロナウイルス感染症拡大及び近年の猛暑等の影響を受け、令和4（2022）年度まで減少を続けてきました。
- 令和元（2019）年度と令和6（2024）年度を比較すると、休日は概ね同数程度であるものの、平日の滞在人口が減少しており、合計では約89,000人（約8.5%）減となっています。
- また、6か年の平均値は、平日731,500人、休日253,500人、合計985,000人で、平日と休日の滞在人口比率は概ね75%：25%程度となっています。
- これらのことから、滞在人口の合計については、令和17（2035）年度までに令和元（2019）年度を越える約10万人（約10%）増の1,060,000人をめざします。
- 特に、休日の滞在人口については、今後のにぎわい機能の充実も踏まえ、約5万人（1週間あたり約1,000人程度）増をめざします。
- なお、中間年次にあたる令和12（2030）年度は、コアエリアのみ事業者による本格運営直後であることも踏まえ、合計で約3万人（1週間あたり約600人程度）、祝休日で約15,000人（1週間あたり約300人程度）の増加を目標値とします。

第2期整備エリアの滞在人口（草地広場周辺から戸田橋（サッカー場含む））

項目	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	平均
平日		772,000	780,000	710,000	720,000	722,000	685,000	731,500
休日		279,000	231,000	237,000	222,000	276,000	276,000	253,500
合計		1,051,000	1,011,000	947,000	942,000	998,000	961,000	985,000

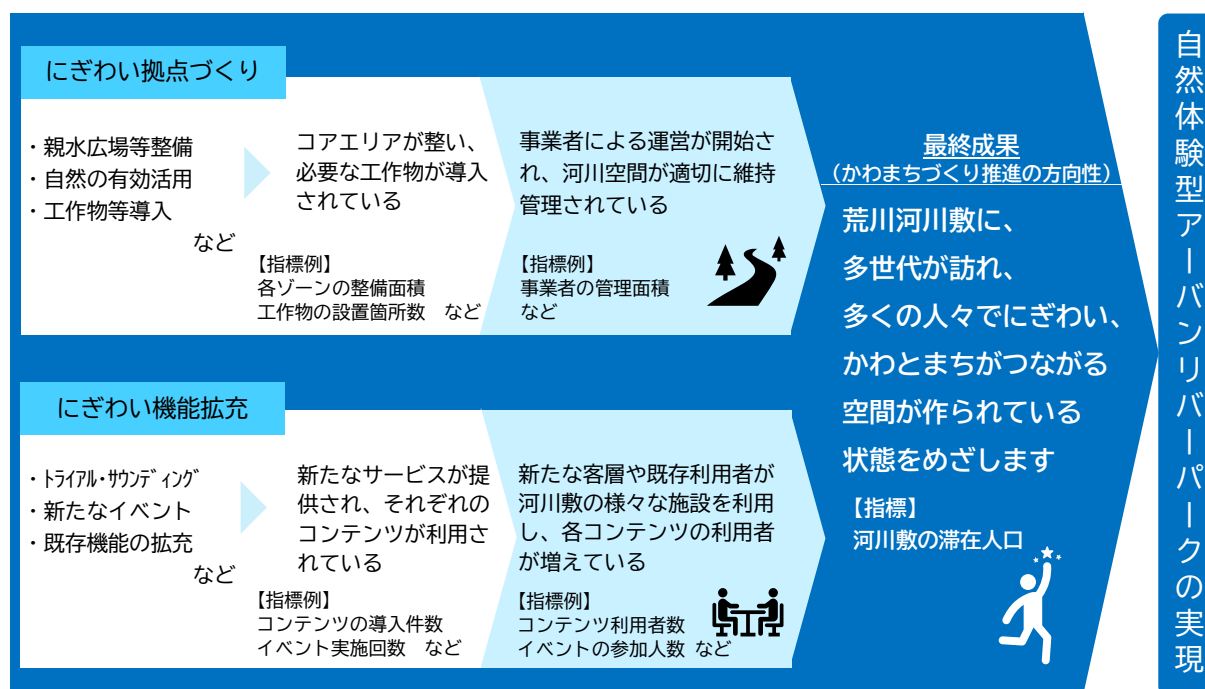
データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

調査に用いたデータは au(KDDI)スマートフォンの位置情報ビッグデータ。

(au スマートフォンユーザーからの同意に基づき取得し、個人が特定できない形式に加工した位置情報及び属性（性別・年齢層）情報データ)

- ・データには 20 歳未満、及びインバウンド観光利用者のデータは含まれません。
- ・分析結果の数値は全人口推計値(サンプルを、国勢調査の市区町村別・性年代別人口に基づいて拡大した値)となります。
- ・平均を除く表中の数値は 1,000 人未満を四捨五入にて表記しています。

【かわまちづくり推進に向けた目標達成イメージ】



令和8（2026）年度のにぎわい拠点づくりの準備やにぎわい機能拡充の取組結果の分析等を踏まえ、直接成果及び中間成果の指標や目標値を設定します。

資料編

- 1 区民アンケート調査
- 2 事業者及び関係団体アンケート調査
- 3 サウンディング型市場調査
- 4 かわまちづくり事例
- 5 用語・法令集

1 区民アンケート調査

(1) 目的

かわまちづくりでの整備や取組を検討するにあたり、利用者ニーズを把握し、基本計画策定にあたっての基礎資料とすることを目的に、区民アンケート調査を実施しました。

(2) 本アンケート調査を読むにあたっての留意事項

- ① 図表中のnとは、回答者総数（または該当質問での該当者数）のことです。
- ② 集計は、小数点第2位を四捨五入してあります。したがって、数値の合計が100.0%にならない場合があります。
- ③ 回答の比率（%）は、その質問の回答者数を基数として算出しました。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがあります。

(3) 調査内容

① イベント等でのアンケート調査（令和6（2024）年度実施）

- 対象者：「調査を実施したイベント一覧」の来場者
- 形式：イベント会場で直接回答（携帯電話端末等からのWEB回答及び紙面）
- 調査日数：9日間
- 回収数：502票

調査を実施したイベント一覧

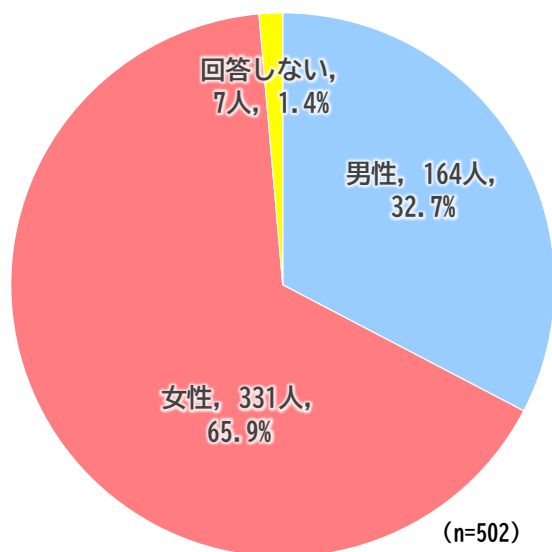
イベント名	実施日
荒川放水路通水100周年 アニバーサリーフェス	令和6（2024）年10月12日（土）
板橋区民まつり	令和6（2024）年10月19日（土）、20日（日）
高島平まつり	令和6（2024）年10月27日（日）
板橋農業まつり	令和6（2024）年11月9日（土）、10日（日）
りよくちであそぼうVOL.3	令和6（2024）年11月16日（土）
りよくちであそぼうVOL.4	令和6（2024）年11月17日（日）
りよくちであそぼうVOL.5	令和6（2024）年11月23日（土）

イベント等でのアンケートの設問一覧

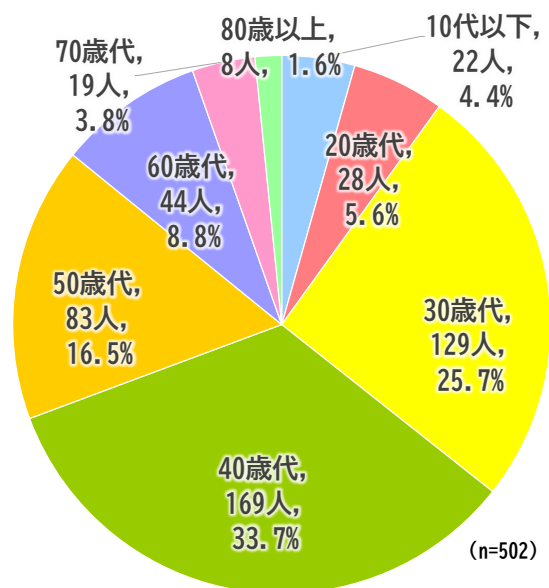
問	設問
1	性別（属性）
2	年齢（属性）
3	居住地（属性）
4	板橋区かわまちづくり基本構想「ITTA KAWAMACHI PROJECT」の認知度
5	荒川の河川敷でやってみたいこと（複数選択可）

※設問の順番一部入れ替え

問1 性別（属性）

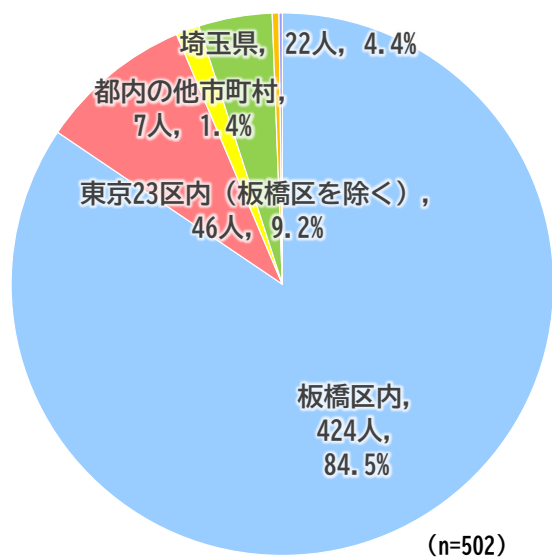


問2 年齢（属性）

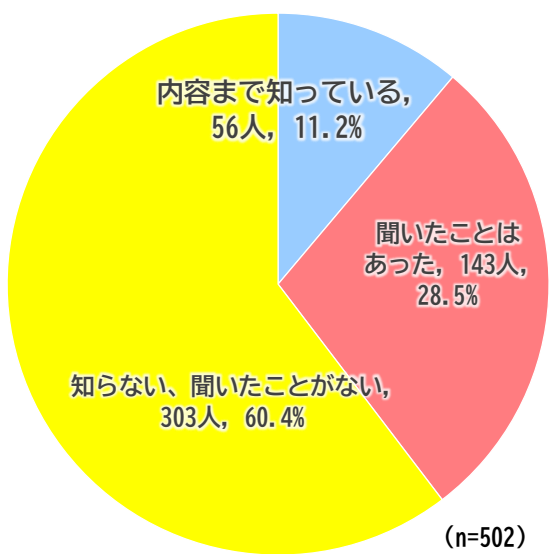


問3 居住地（属性）

※「千葉県・神奈川県」、「その他」は1%未満

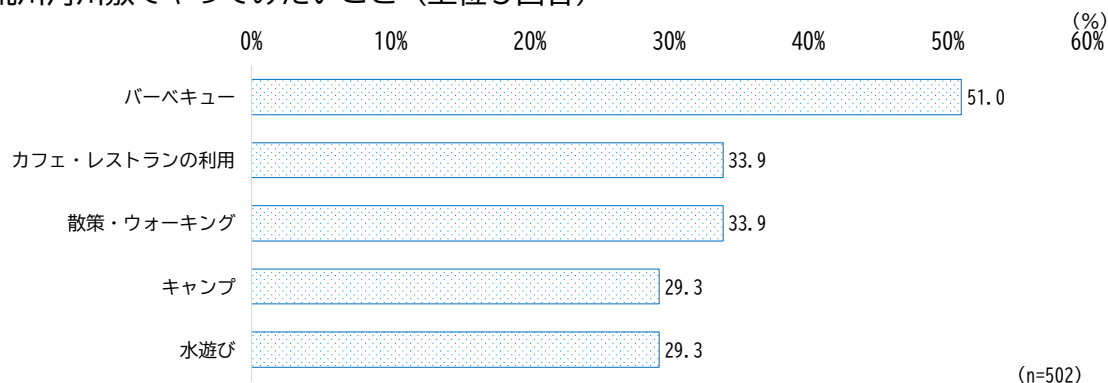


問4 板橋区かわまちづくり基本構想の認知度



問5 荒川の河川敷でやってみたいことを選んでください。(複数選択可)

荒川河川敷でやってみたいこと(上位5回答)



居住地・年代別の荒川河川敷でやってみたいこと(上位5回答)

(%)

		n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
居住地別	板橋区内	424	バーベキュー 51.4	カフェ・レストランの利用 33.7	散策・ウォーキング 32.3	水遊び 31.8	キャンプ 30.7	
	東京23区内(板橋区を除く)	46	バーベキュー 47.8	散策・ウォーキング 45.7	カフェ・レストランの利用 37.0	サイクリング 32.6	音楽フェス等のイベント 19.6	
	都内の他市町村	7	散策・ウォーキング 57.1	バーベキュー/カフェ・レストランの利用/音楽フェス等のイベント 42.9			野球/ドッグラン 28.6	
	埼玉県	22	バーベキュー 50.0	ランニング 31.8	カフェ・レストランの利用/散策・ウォーキング/キャンプ/サイクリング 27.3			
	千葉県・神奈川県	2	バーベキュー/散策・ウォーキング/キャンプ/音楽フェス等のイベント 100.0					サイクリング他 50.0
	その他	1	サイクリング 100.0	-	-	-	-	
年代別	20代以下	50	バーベキュー 48.0	カフェ・レストランの利用/キャンプ 40.0		散策・ウォーキング/水遊び 34.0		
	30代	129	バーベキュー 55.8	カフェ・レストランの利用 38.8	散策・ウォーキング/水遊び 34.1		キャンプ 33.3	
	40代	169	バーベキュー 59.8	水遊び 39.6	カフェ・レストランの利用 37.3	散策・ウォーキング 34.9	キャンプ 34.3	
	50代	83	バーベキュー 39.8	散策・ウォーキング 33.7	カフェ・レストランの利用 28.9	音楽フェス等のイベント 26.5	サイクリング 22.9	
	60代	44	サイクリング 47.7	散策・ウォーキング 40.9	バーベキュー 38.6	カフェ・レストランの利用/音楽フェス等のイベント 25.0		
	70代以上	27	バーベキュー 33.3	サイクリング 22.2	ランニング/音楽フェス等のイベント/散策・ウォーキング 14.8			

【選択肢一覧】

- 1 野球、2 サッカー、3 ラグビー、4 バスケットボール、5 ランニング、6 サイクリング、7 グラウンドゴルフ、8 マウンテンバイクコース、9 BMX・スケートボード等のアーバンスポーツ、10 音楽フェス等のイベント、11 キャンプ、12 バーベキュー、13 ドッグラン、14 カフェ・レストランの利用、15 散策・ウォーキング、16 水遊び、17 SUP・カヌー等の水面アクティビティ、18 その他

②WEB アンケート調査

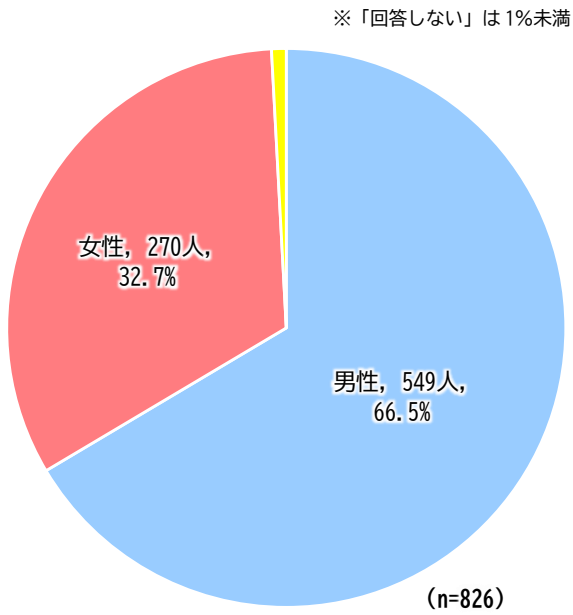
- 調査対象者：かわまちづくり対象エリアに来訪したことがある板橋区内外3 km 圏内の住民及び3 km圏外の板橋区民
- 回収数：826 票
- 調査方法：WEB アンケート
- 調査期間：令和7（2025）年3月14日（金）～3月19日（水）

WEB アンケートの設問一覧

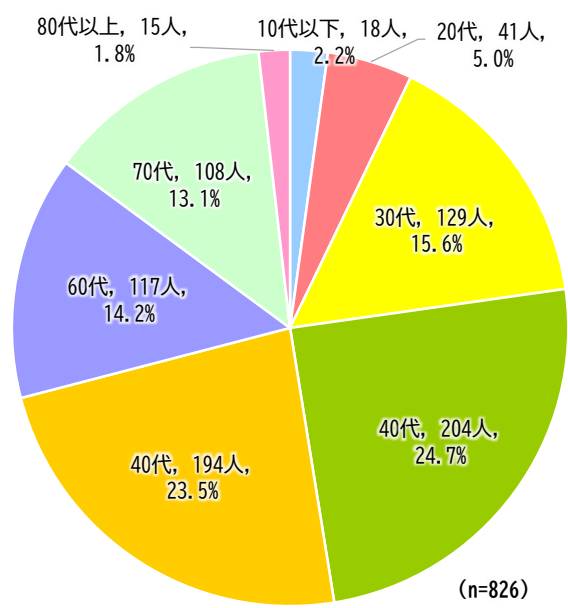
問	設問
1	性別（属性）
2	年齢（属性）
3	板橋区かわまちづくり基本構想の認知度
4	取組実施後の来場・参加希望
5	自宅から河川敷までの所要時間
6	河川敷までのアクセス手段
6-1	【問6で車またはバイクを選んだ方への設問】 利用する駐車場
6-2	【問6で自転車または徒歩、公共交通機関を選んだ方への設問】 河川敷への進入経路
6-3	【問6で公共交通機関を選んだ方への設問】 河川敷来訪時に利用する主な鉄道駅・バス停留所
6-4	【問6で公共交通機関を選んだ方への設問】 鉄道駅・バス停留所から河川敷までのアクセス方法
7	荒川河川敷来訪の目的（全て選択）
8	荒川河川敷周辺の利用したことがある施設と利用したい施設
9	荒川河川敷来訪時の滞在時間
10	荒川河川敷の利用頻度
11	荒川河川敷の印象
	11-1 緑の量や花の演出
	11-2 自然の豊かさ
	11-3 落ち着きや雰囲気、景色の美しさ
	11-4 子どもの遊び場としての安心感、安全性
	11-5 高齢者や障がい者の利用やベビーカーの進行への配慮
	11-6 散策や憩いの場としての利用
	11-7 運動・スポーツの利用
	11-8 緑や生きものの観察・学習の場としての利用
	11-9 河原・水辺への親しみやすさ
	11-10 トイレや水飲みの利用
	11-11 標識などの分かりやすさ
	11-12 利用する人々のマナー
11-13 総合的な満足度	
12	荒川河川敷（荒川戸田橋緑地）の改善点（施設面・娯楽面・交通面）
13	荒川河川敷（荒川戸田橋緑地）でやりたいこと

※設問の順番一部入れ替え

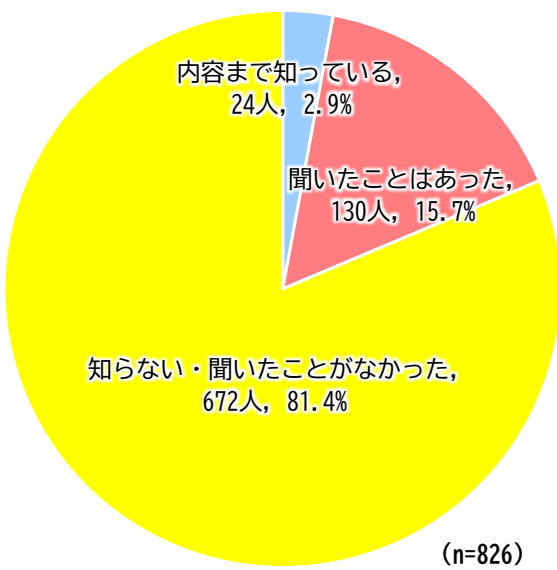
問1 性別（属性）



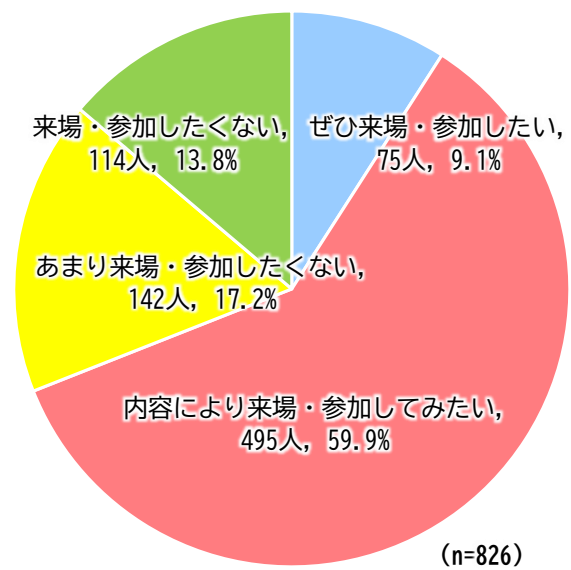
問2 年齢（属性）



問3 板橋区かわまちづくり基本構想の認知度

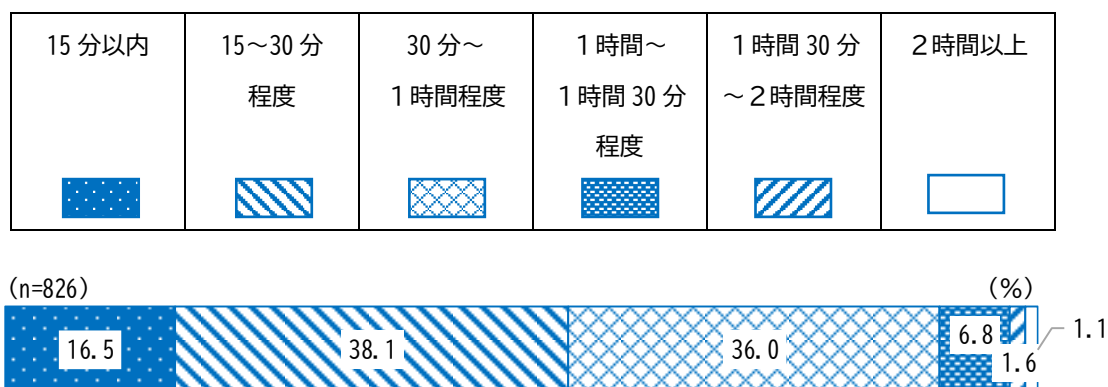


問4 取組実施後の来場・参加希望

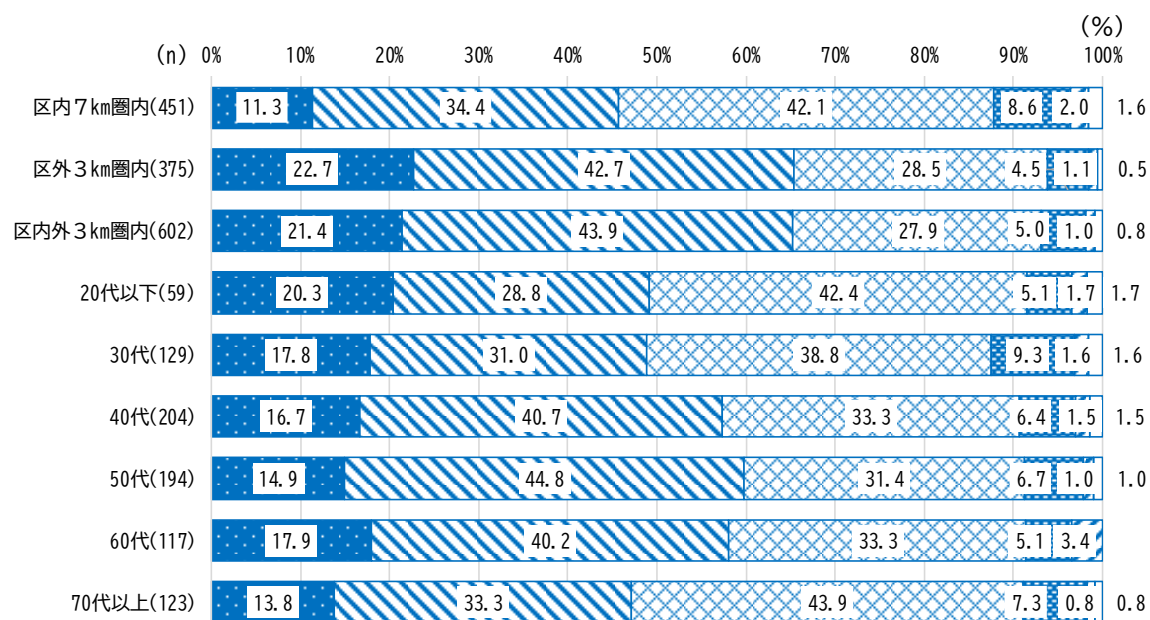


問5 自宅から河川敷までの所要時間についてお答えください。

自宅から河川敷までの所要時間

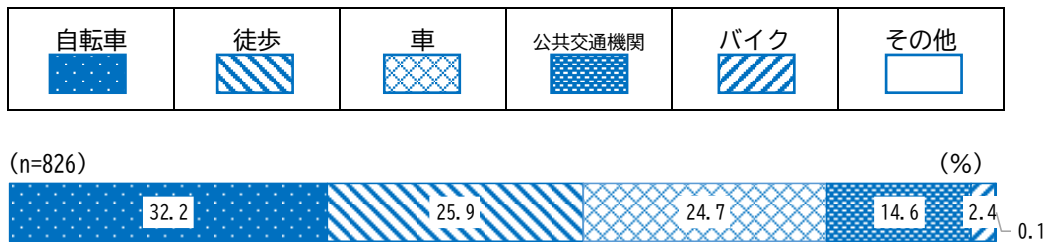


居住地・年代別の自宅から河川敷までの所要時間

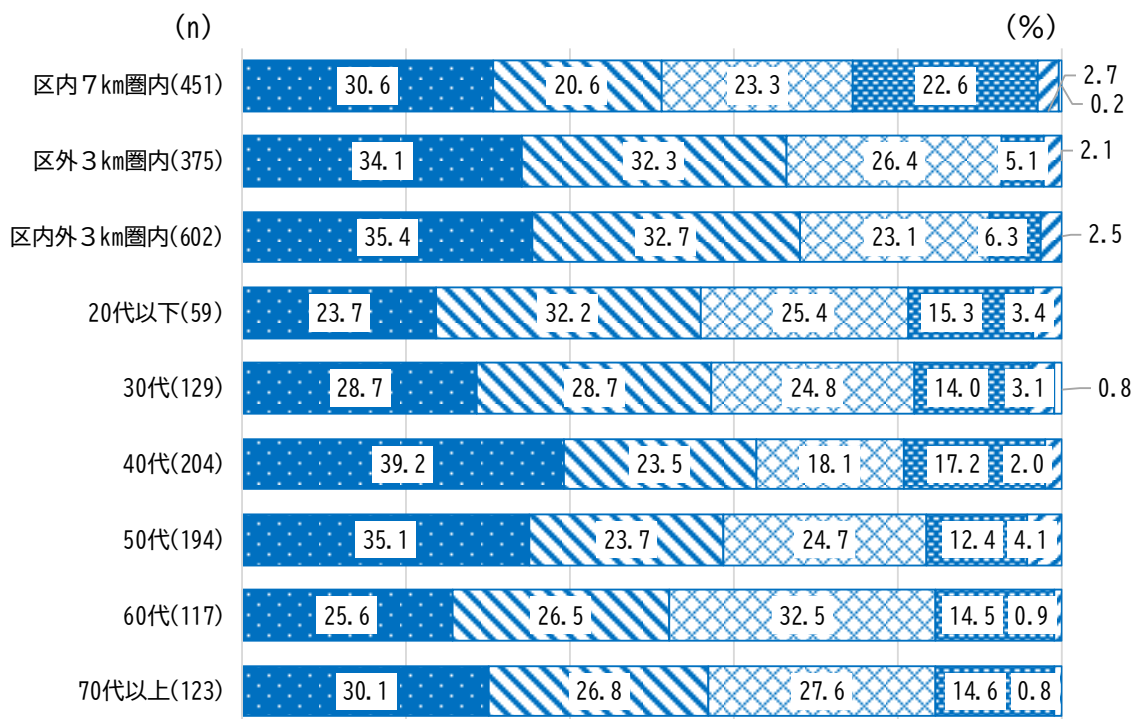


問6 河川敷までのアクセスについてお答えください。

河川敷までのアクセス手段



居住地・年代別の河川敷までのアクセス手段



【問6で車またはバイクを選んだ方への設問】

問6-1 どの駐車場を利用しますか。

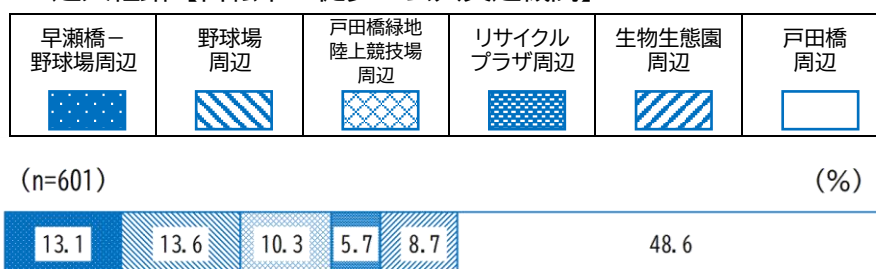
河川敷への進入経路【車・バイク】



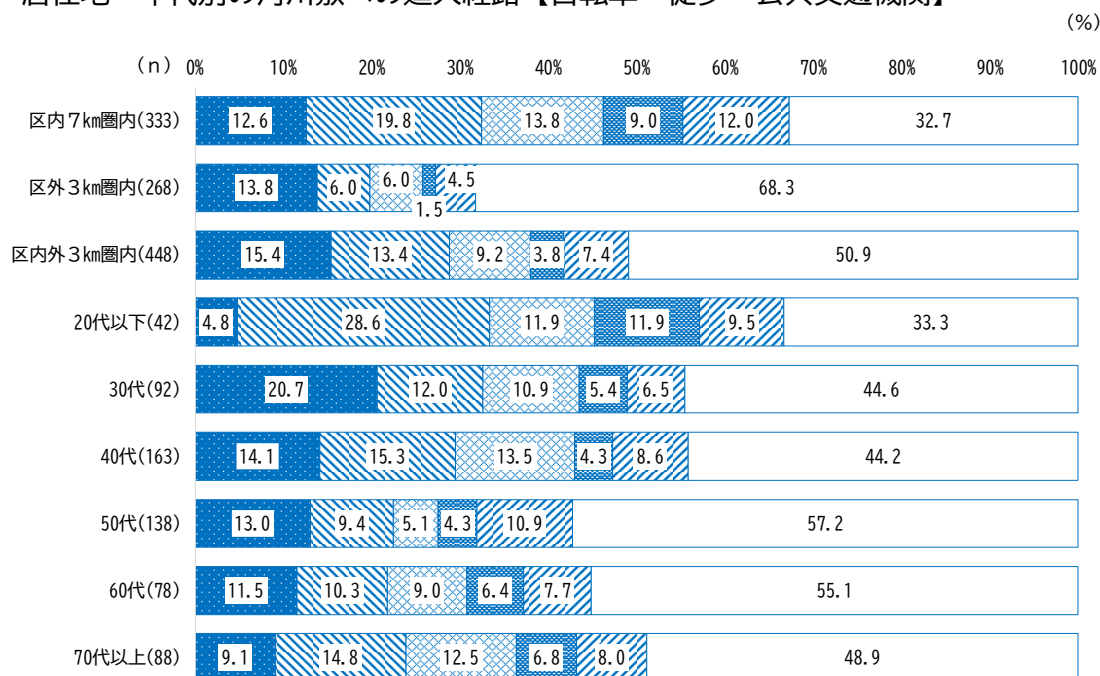
【問6で自転車または徒歩・公共交通機関を選んだ方への設問】

問6-2 主にどのあたりから河川敷の中に入りますか。

河川敷への進入経路【自転車・徒歩・公共交通機関】



居住地・年代別の河川敷への進入経路【自転車・徒歩・公共交通機関】



【問6で公共交通機関を選んだ方への設問】

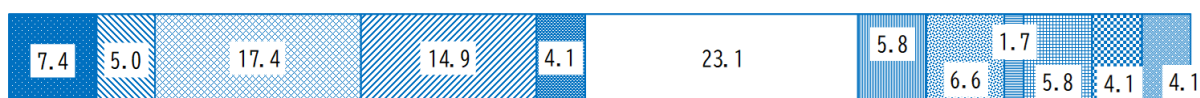
問6-3 河川敷を訪れるにあたり、主にどの鉄道駅、またはバス停留所を利用しますか。最もよく利用する鉄道駅、またはバス停留所一つを選んでください。

河川敷までのアクセスに利用した交通拠点

鉄道駅 (n=87)	西高島平駅 	新高島平駅 	高島平駅 	西台駅 	蓮根駅 	浮間舟渡駅 	その他(鉄道駅)
バス停 (n=34)	新河岸都営住宅入口 	舟渡水辺公園 	舟渡四丁目 	舟渡小学校 	舟渡町 	舟渡一丁目 	その他(バス停)

(n=121)

(%)



【問6で公共交通機関を選んだ方への設問】

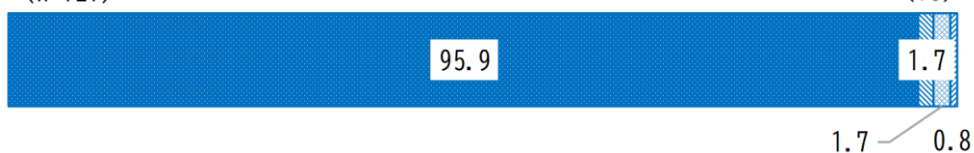
問6-4 鉄道駅、またはバス停留所から河川敷までのアクセス方法について教えてください。

河川敷までのアクセス手段

徒歩 	シェアサイクル等 	タクシー 	その他
--------	--------------	----------	---------

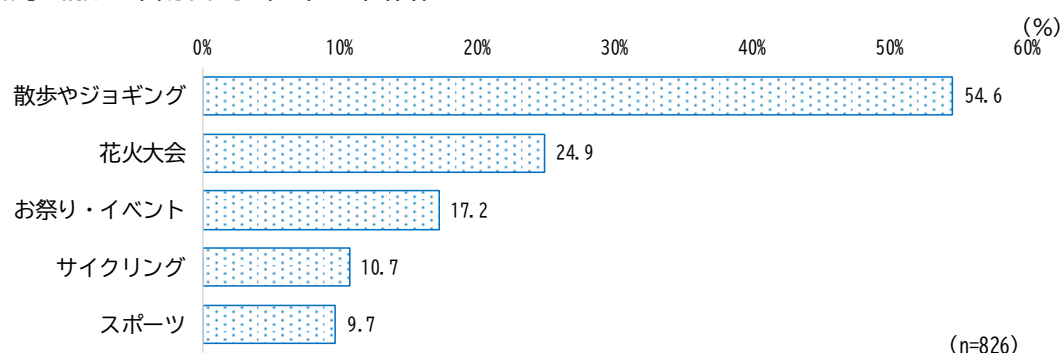
(n=121)

(%)



問7 あなたが荒川河川敷を訪れるとき、どのような目的で訪れますか。当てはまるものを全てを選んでください。

荒川河川敷の来訪目的（上位5回答）



居住地別・年代別の荒川河川敷の来訪目的（上位5回答）

(%)

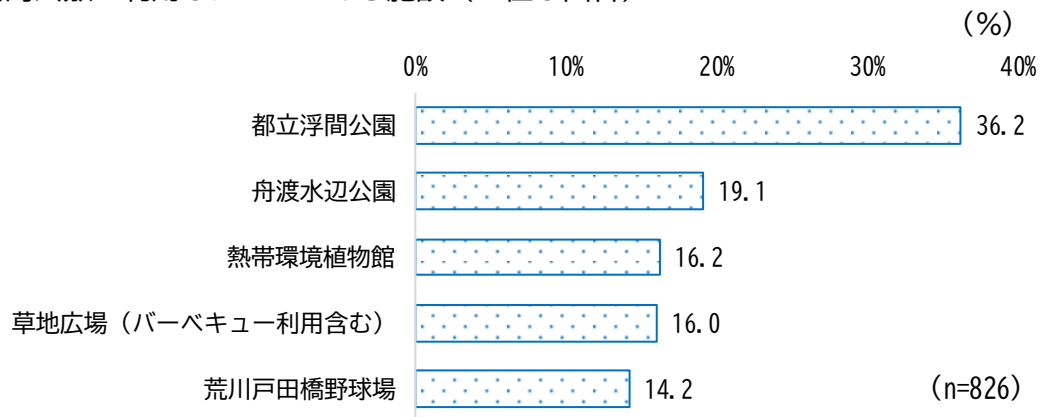
		n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
居住地別	区内7km圏内	451	散歩やジョギング 50.6	花火大会 29.9	お祭り・イベント 17.1	スポーツ 12.0	サイクリング 10.2
	区外3km圏内	375	散歩やジョギング 59.5	花火大会 18.9	お祭り・イベント 17.3	サイクリング 11.2	通勤や通学、買い物等（用事先へ）の通り道 10.9
	区内外3km圏内	602	散歩やジョギング 58.6	花火大会 22.8	お祭り・イベント 16.8	サイクリング 11.1	通勤や通学、買い物等（用事先へ）の通り道 10.1
年代別	20代以下	59	散歩やジョギング 42.4	お祭り・イベント 20.3	通勤や通学、買い物等（用事先へ）の通り道 18.6	花火大会 10.2	スポーツ/バーベキュー利用 8.5
	30代	129	散歩やジョギング 53.5	お祭り・イベント 25.6	花火大会 20.9	スポーツ 14.0	通勤や通学、買い物等（用事先へ）の通り道 10.9
	40代	204	散歩やジョギング 58.8	お祭り・イベント 23.0	花火大会 22.1	サイクリング 9.8	スポーツ 8.8
	50代	194	散歩やジョギング 47.4	花火大会 27.3	スポーツ/サイクリング 12.4		通勤や通学、買い物等（用事先へ）の通り道/お祭り・イベント 11.9
	60代	117	散歩やジョギング 58.1	花火大会 33.3	お祭り・イベント 10.3	自然観察、環境・体験学習等 9.4	通勤や通学、買い物等（用事先へ）の通り道 8.5
	70代以上	123	散歩やジョギング 62.6	花火大会 29.3	自然観察、環境・体験学習等 22.0	サイクリング 17.9	お祭り・イベント 12.2

【選択肢一覧】

1 散歩やジョギング、2 通勤や通学、買い物等（用事先へ）の通り道、3 観光、4 駐車・駐輪、5 お祭り・イベント、6 自然観察、環境・体験学習等、7 スポーツ、8 スポーツ等の観戦、9 釣りや水遊び、10 子どもの遊び場、11 ペットの散歩や運動、12 カヌー等の水上利用、13 サイクリング、14 バーベキュー利用、15 花火大会、16 その他

問8 あなたが荒川河川敷周辺の施設で利用したことがある施設や利用したい施設はありますか？該当するものすべてお選びください。

荒川河川敷の利用したことがある施設（上位5回答）



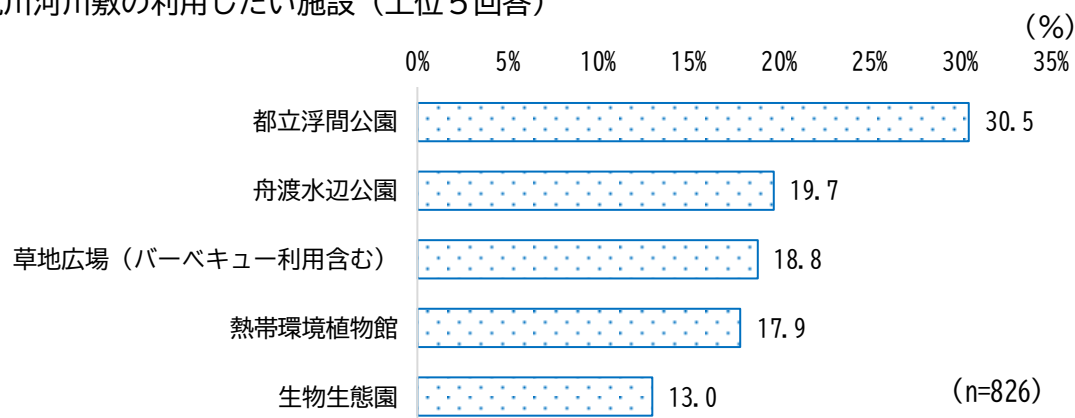
居住地別・年代別の荒川河川敷の利用したことがある施設（上位5回答）

		n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
居住地別	区内7km圏内	451	都立浮間公園 39.2	熱帯環境植物館 24.4	舟渡水辺公園 21.7	荒川戸田橋野球場 16.6	草地広場（バーベキュー利用含む） 15.3
	区外3km圏内	375	都立浮間公園 32.5	草地広場（バーベキュー利用含む） 16.8	舟渡水辺公園 16.0	荒川戸田橋野球場 11.2	荒川戸田橋陸上競技場（河川敷内） 7.2
	区内外3km圏内	602	都立浮間公園 36.9	舟渡水辺公園 19.4	草地広場（バーベキュー利用含む） 16.6	熱帯環境植物館 14.8	荒川戸田橋野球場 13.5
年代別	20代以下	59	草地広場（バーベキュー利用含む）/都立浮間公園 18.6		熱帯環境植物館 16.9	リサイクルプラザ 15.3	荒川戸田橋野球場/舟渡水辺公園 13.6
	30代	129	都立浮間公園 25.6	草地広場（バーベキュー利用含む） 20.2	舟渡水辺公園 17.1	荒川戸田橋野球場 16.3	荒川戸田橋陸上競技場（河川敷内） 15.5
	40代	204	都立浮間公園 34.3	草地広場（バーベキュー利用含む）/熱帯環境植物館 21.1		舟渡水辺公園 18.1	荒川戸田橋野球場 17.6
	50代	194	都立浮間公園 35.6	舟渡水辺公園 16.5	荒川戸田橋野球場 16.0	草地広場（バーベキュー利用含む） 12.9	熱帯環境植物館 12.4
	60代	117	都立浮間公園 51.3	舟渡水辺公園 23.9	熱帯環境植物館 19.7	草地広場（バーベキュー利用含む） 11.1	リサイクルプラザ 10.3
	70代以上	123	都立浮間公園 45.5	舟渡水辺公園 25.2	熱帯環境植物館 21.1	リサイクルプラザ 13.8	生物生態園/草地広場（バーベキュー利用含む） 11.4

【選択肢一覧】

- 1 荒川戸田橋野球場、2 草地広場（バーベキュー利用含む）、3 荒川戸田橋陸上競技場（河川敷内）、4 リサイクルプラザ、5 生物生態園、6 荒川戸田橋サッカー場、7 新河岸陸上競技場、8 新河岸庭球場、9 熱帯環境植物館、10 舟渡水辺公園、11 都立浮間公園、12 その他、13 利用した施設がない

荒川河川敷の利用したい施設（上位5回答）



居住地別・年代別の荒川河川敷の利用したい施設（上位5回答）

(%)

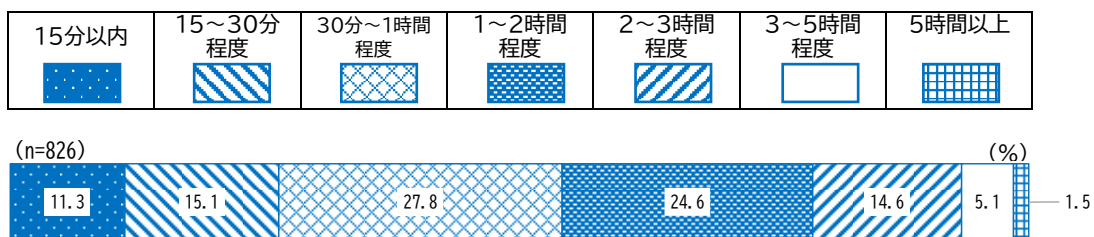
	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
居住地別	区内7km圏内	451	都立浮間公園 34.4	舟渡水辺公園 22.4	熱帯環境植物館 21.7	草地広場（バーベキュー利用含む） 16.9	生物生態園 14.9
	区外3km圏内	375	都立浮間公園 25.9	草地広場（バーベキュー利用含む） 21.1	舟渡水辺公園 16.5	熱帯環境植物館 13.3	生物生態園 10.7
	区内外3km圏内	602	都立浮間公園 29.2	草地広場（バーベキュー利用含む） 19.6	舟渡水辺公園 18.3	熱帯環境植物館 15.9	生物生態園 11.5
年代別	20代以下	59	草地広場（バーベキュー利用含む） 20.3	荒川戸田橋野球場 15.3	リサイクルプラザ 13.6	熱帯環境植物館/都立浮間公園 11.9	
	30代	129	都立浮間公園 24.8	草地広場（バーベキュー利用含む）/舟渡水辺公園 18.6		生物生態園/熱帯環境植物館 12.4	
	40代	204	都立浮間公園 30.4	草地広場（バーベキュー利用含む） 27.0	舟渡水辺公園 19.6	熱帯環境植物館 17.2	荒川戸田橋野球場 13.2
	50代	194	都立浮間公園 30.4	熱帯環境植物館 16.5	舟渡水辺公園 14.9	草地広場（バーベキュー利用含む） 14.4	生物生態園 12.4
	60代	117	都立浮間公園 39.3	熱帯環境植物館 23.9	舟渡水辺公園 22.2	草地広場（バーベキュー利用含む） 15.4	生物生態園 11.1
	70代以上	123	都立浮間公園 37.4	舟渡水辺公園 30.9	熱帯環境植物館 24.4	生物生態園 18.7	リサイクルプラザ 16.3

【選択肢一覧】

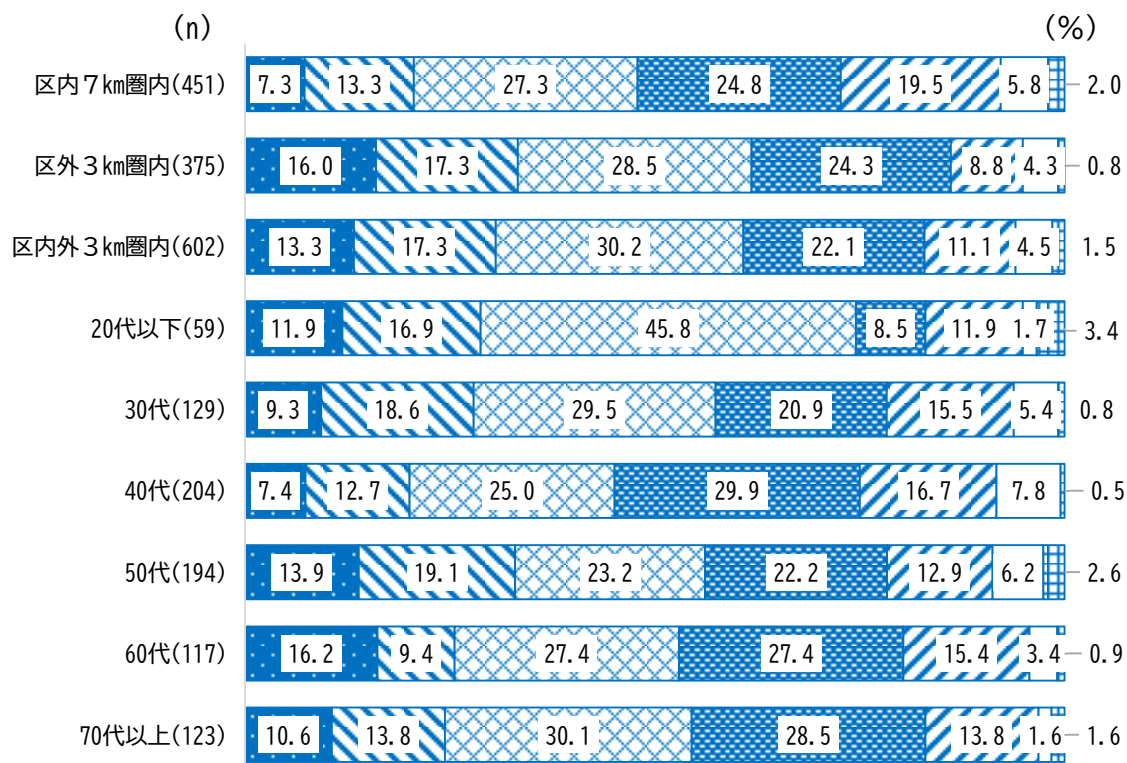
- 1 荒川戸田橋野球場、2 草地広場（バーベキュー利用含む）、3 荒川戸田橋陸上競技場（河川敷内）、
4 リサイクルプラザ、5 生物生態園、6 荒川戸田橋サッカー場、7 新河岸陸上競技場、8 新河岸庭球場、
9 熱帯環境植物館、10 舟渡水辺公園、11 都立浮間公園、12 その他、13 利用したい施設がない

問9 荒川河川敷を訪れた際の滞在時間はどのくらいですか。

荒川河川敷を訪れた際の滞在時間

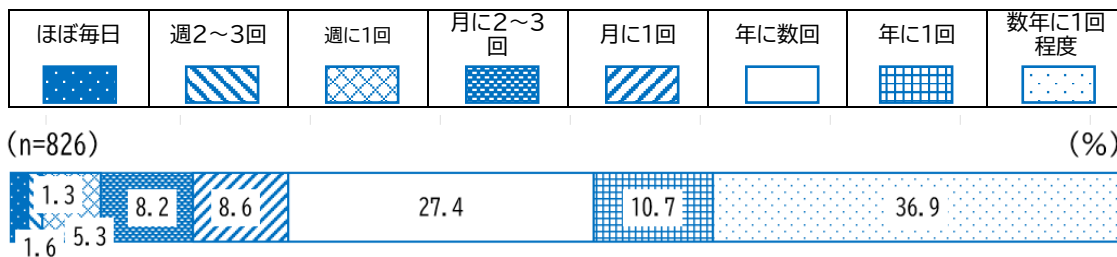


居住地・年代別の荒川河川敷（荒川戸田橋緑地）を訪れた際の滞在時間

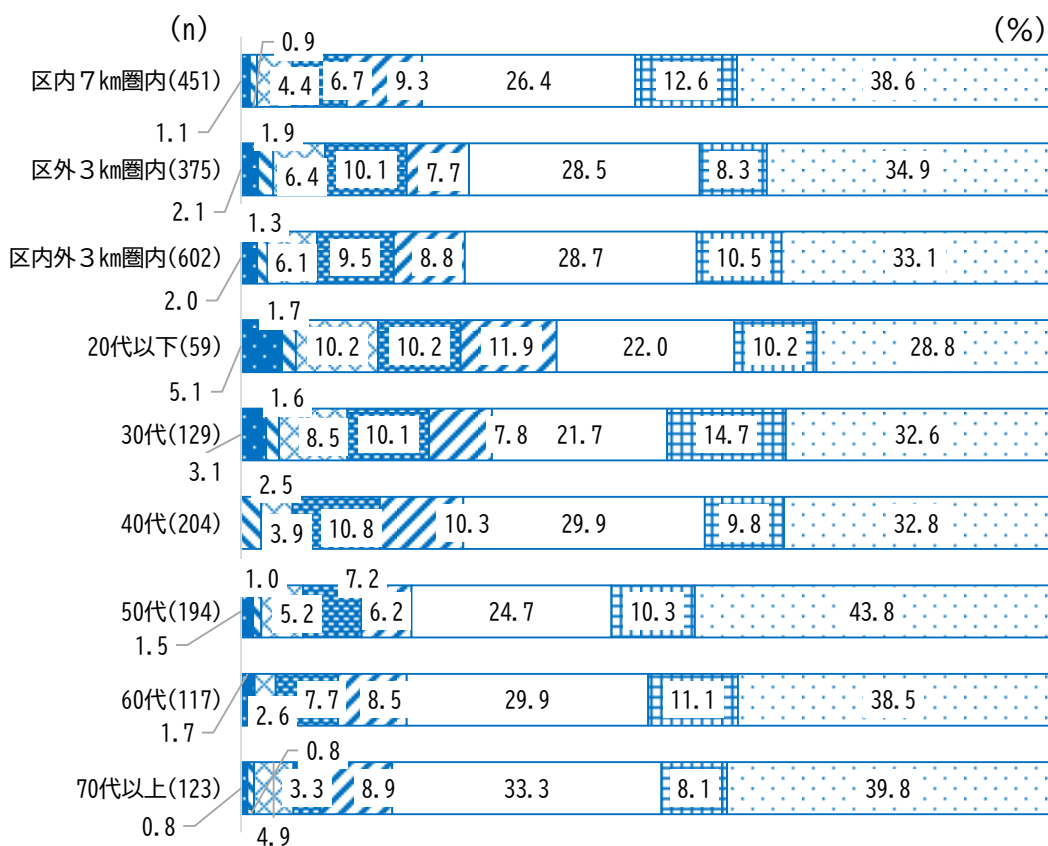


問 10 荒川河川敷をどの程度利用されますか。

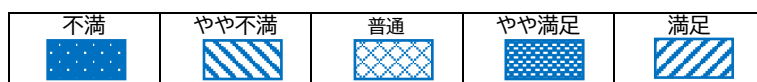
荒川河川敷の利用頻度



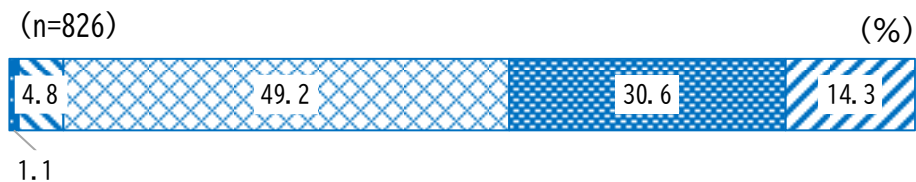
居住地・年代別の荒川河川敷の利用頻度



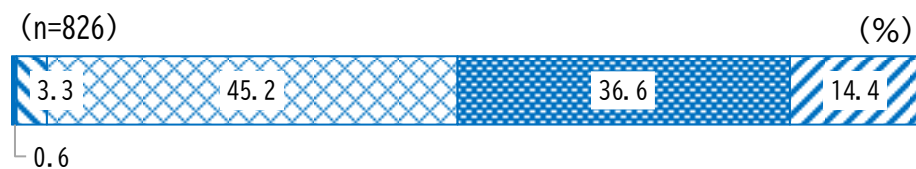
問 11 現在の荒川河川敷に対する印象について、最も当てはまるものを選んでください。



11-1 【緑の量や花の演出】に対する印象



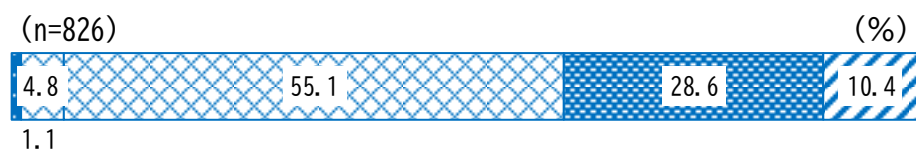
11-2 【自然の豊かさ】に対する印象



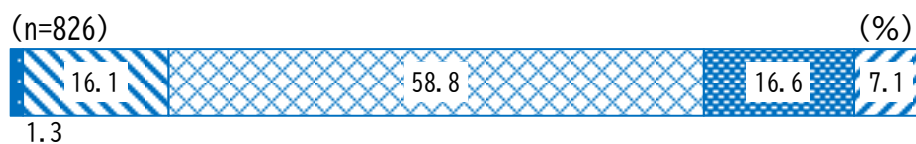
11-3 【落ち着きや雰囲気、景色の美しさ】に対する印象



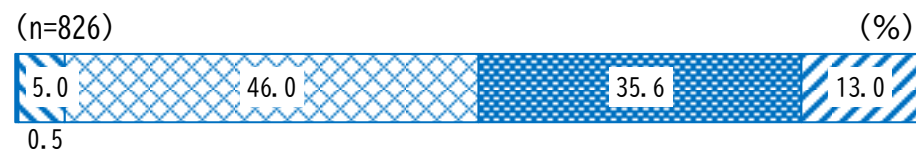
11-4 【子どもの遊び場としての安心感・安全性】に対する印象



11-5 【高齢者や障がい者の利用やベビーカーの進行への配慮】に対する印象

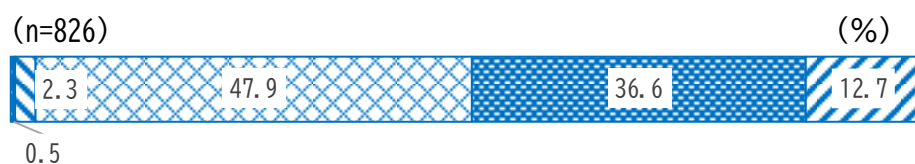


11-6 【散策や憩いの場としての利用】に対する印象

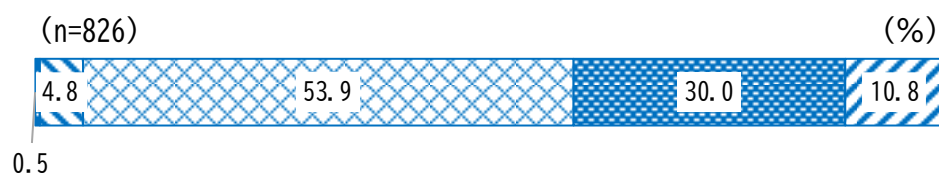




11-7 【運動・スポーツの利用】に対する印象



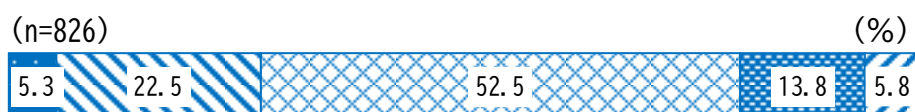
11-8 【緑や生きものの観察・学習の場としての利用】に対する印象



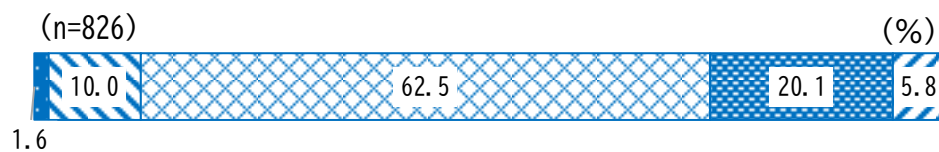
11-9 【河原・水辺への親しみやすさ】に対する印象



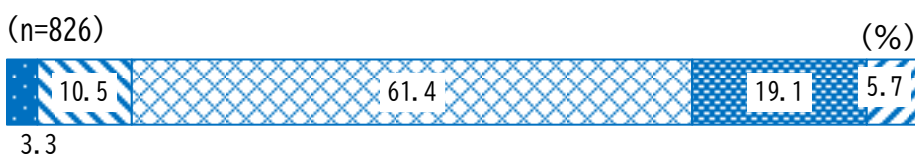
11-10 【トイレや水飲みの利用】に対する印象



11-11 【標識などのわかりやすさ】に対する印象

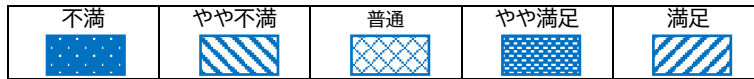


11-12 【利用する人々のマナー】に対する印象

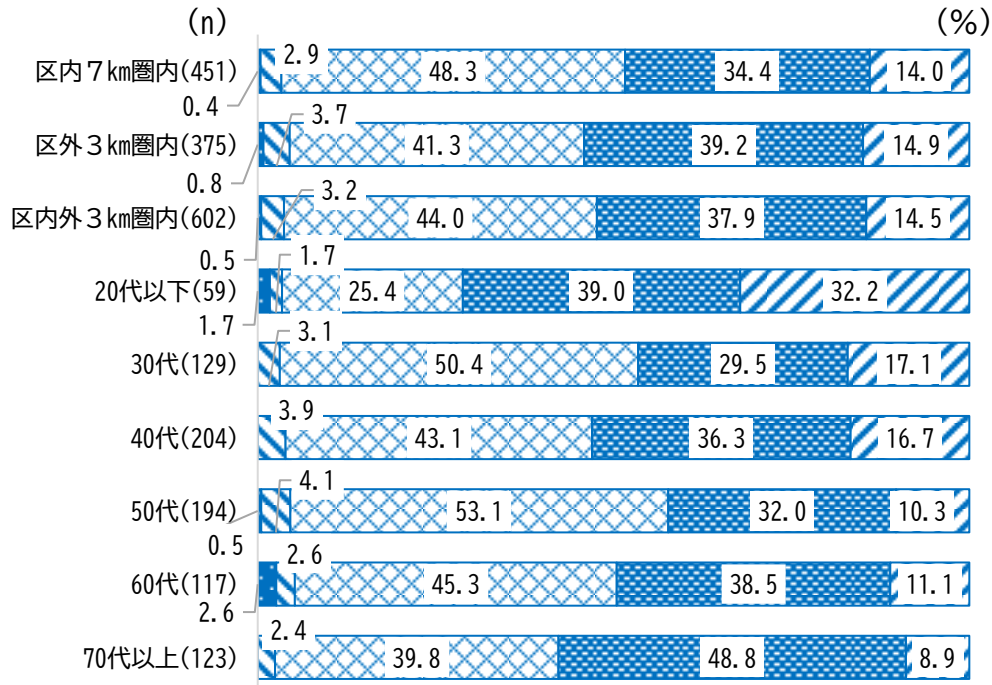


11-13 【総合的な満足度】に対する印象

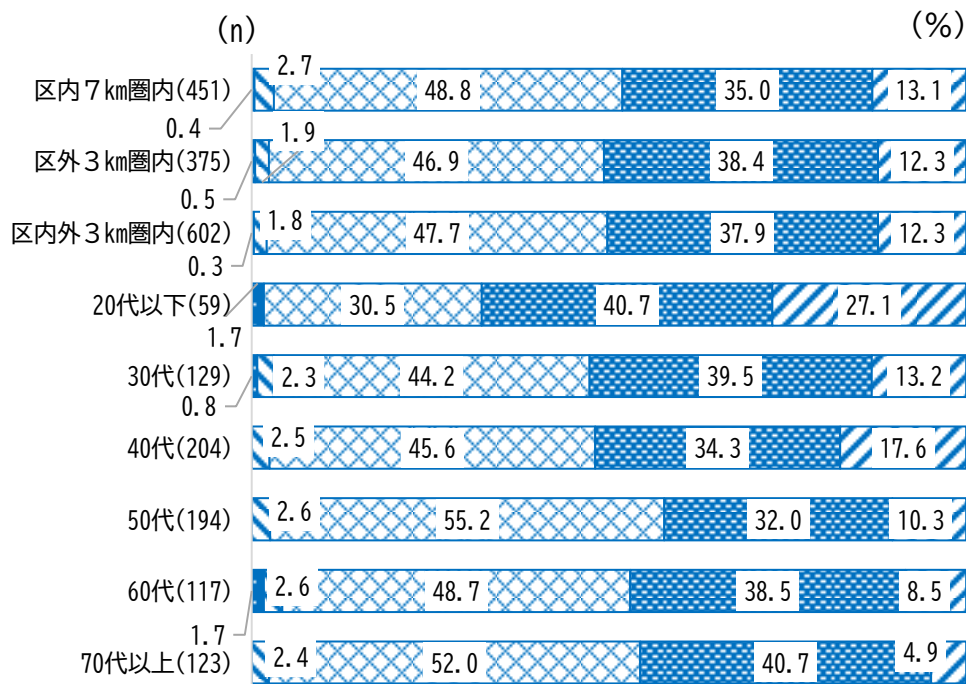




居住地・年代別の【自然の豊かさ】に対する印象（『満足』※1位）

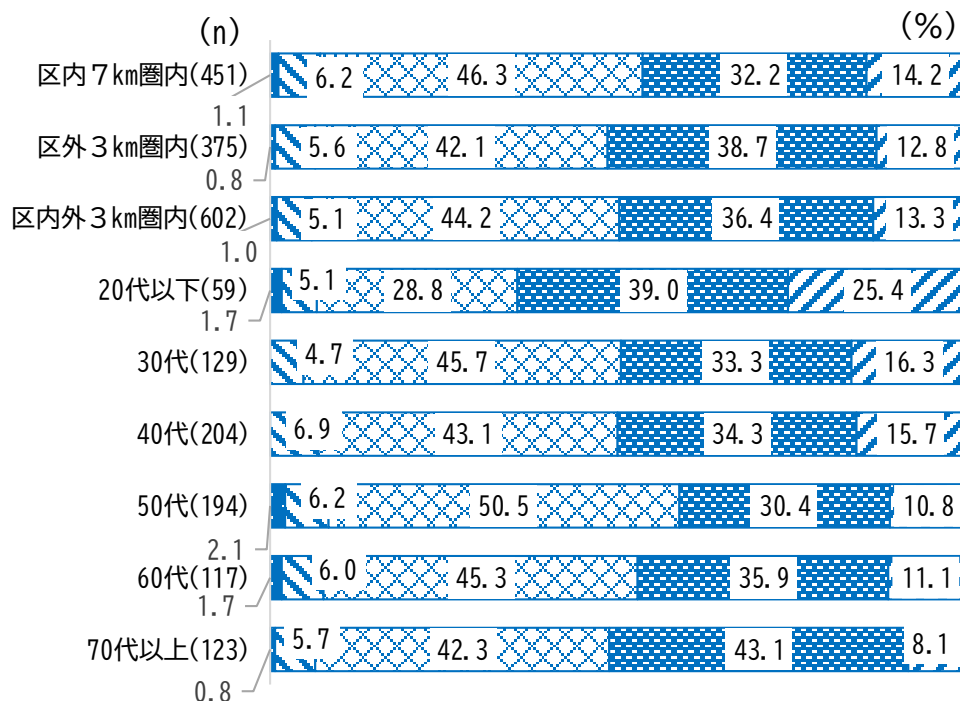


居住地・年代別の【運動・スポーツの利用】に対する印象（『満足』※2位）

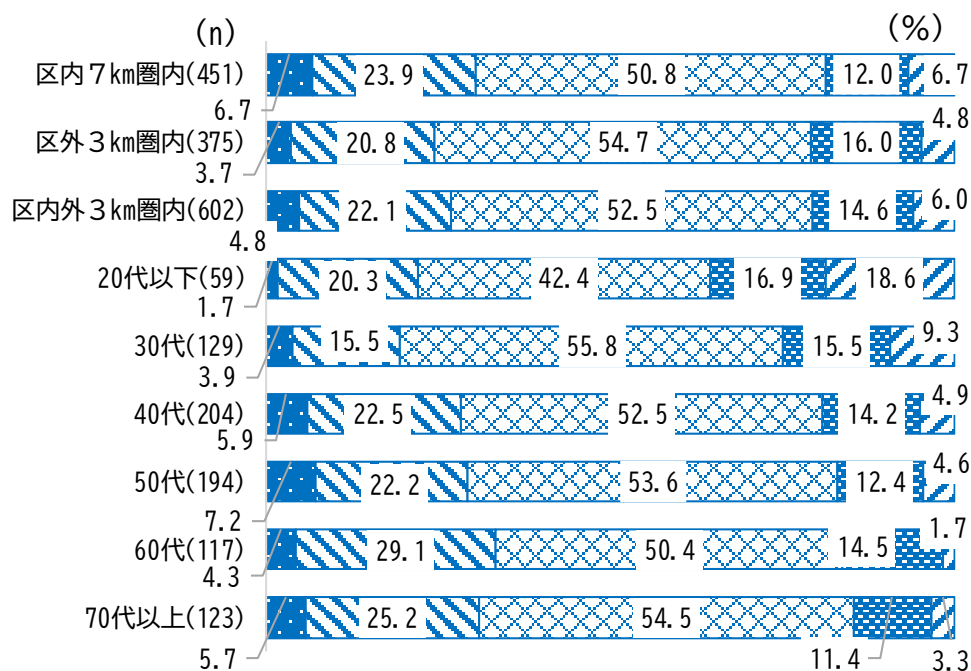




居住地・年代別の【落ち着きや雰囲気、景色の美しさ】に対する印象（『満足』※3位）



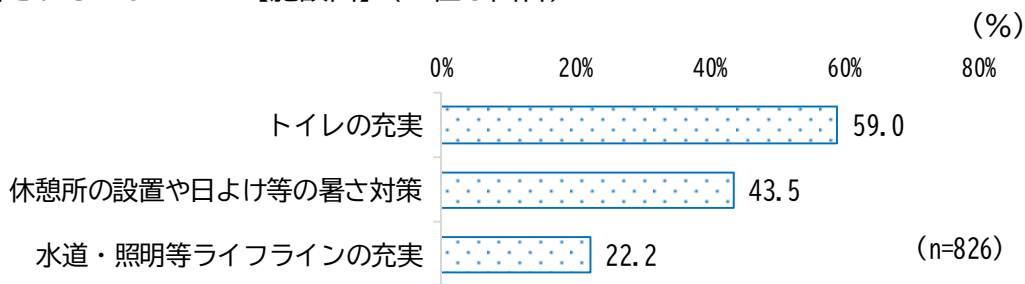
居住地・年代別の【トイレや水飲み場の利用】に対する印象（『不満』※1位）



※「満足」と「やや満足」と回答した方の合計を『満足』
「不満」と「やや不満」と回答した方の合計を『不満』としています。

問 12 現在の荒川河川敷（荒川戸田橋緑地）に対して、どのような改善がなされると、より地域の人々は使いやすくなりますか？当てはまるものをそれぞれの分野から3つまで選んでください。

改善されるとよいこと【施設面】（上位3回答）



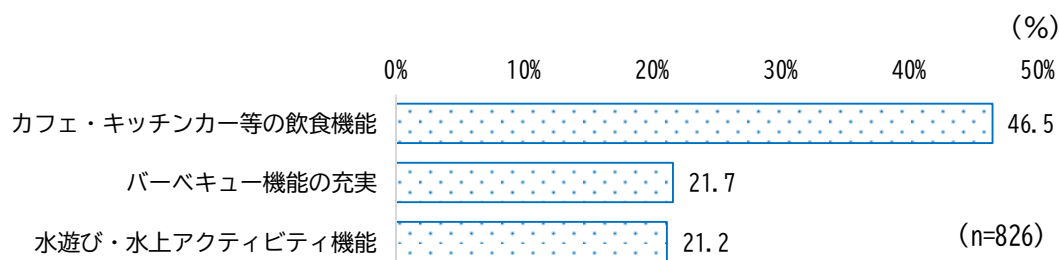
居住地・年代別の改善されるとよいこと【施設面】（上位3回答）

		n	第1位	第2位	第3位
居住地別	区内7km圏内	451	トイレの充実 60.5	休憩所の設置や日よけ等の暑さ対策 43.5	水道・照明等ライフラインの充実 23.5
	区外3km圏内	375	トイレの充実 57.1	休憩所の設置や日よけ等の暑さ対策 43.5	水道・照明等ライフラインの充実 20.5
	区内外3km圏内	602	トイレの充実 57.8	休憩所の設置や日よけ等の暑さ対策 43.2	水道・照明等ライフラインの充実 22.1
年代別	20代以下	59	トイレの充実 40.7	水道・照明等ライフラインの充実 35.6	休憩所の設置や日よけ等の暑さ対策 30.5
	30代	129	トイレの充実 55.8	休憩所の設置や日よけ等の暑さ対策 40.3	水道・照明等ライフラインの充実 23.3
	40代	204	トイレの充実 56.4	休憩所の設置や日よけ等の暑さ対策 41.7	水道・照明等ライフラインの充実 20.1
	50代	194	トイレの充実 59.8	休憩所の設置や日よけ等の暑さ対策 36.6	水道・照明等ライフラインの充実 23.7
	60代	117	トイレの充実 60.7	休憩所の設置や日よけ等の暑さ対策 47.0	水道・照明等ライフラインの充実 22.2
	70代以上	123	トイレの充実 72.4	休憩所の設置や日よけ等の暑さ対策 63.4	河川敷の安全利用や自然保全のルールやマナーの徹底・周知 24.4

【選択肢一覧】

- 1 水道・照明等ライフラインの充実
- 2 休憩所の設置や日よけ等の暑さ対策
- 3 管理棟機能の充実
- 4 自動販売機の設置
- 5 トイレの充実
- 6 更衣室やシャワー施設の充実
- 7 イベント等広報機能の充実
- 8 河川の清掃活動の活発化
- 9 施設の小さな手入れ・管理
- 10 河川敷の安全利用や自然保全のルールやマナーの徹底・周知

改善されるとよいこと【娯楽面】（上位3回答）



居住地・年代別の改善されるとよいこと【娯楽面】（上位3回答）

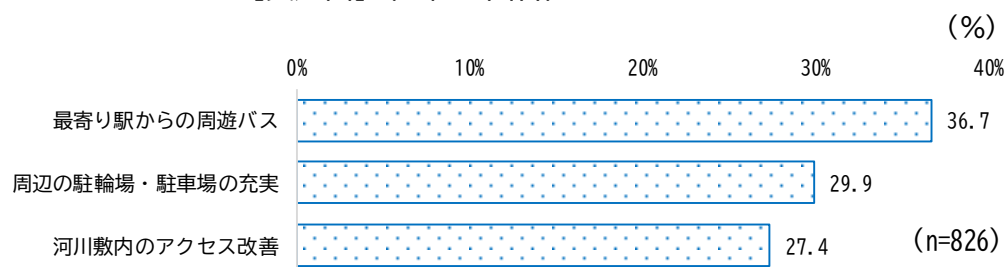
(%)

		n	第1位	第2位	第3位
居住地別	区内7km圏内	451	カフェ・キッチンカー等の飲食機能 46.6	水遊び・水上アクティビティ機能 21.1	バーベキュー機能の充実 20.4
	区外3km圏内	375	カフェ・キッチンカー等の飲食機能 46.4	バーベキュー機能の充実 23.2	水遊び・水上アクティビティ機能 21.3
	区内外3km圏内	602	カフェ・キッチンカー等の飲食機能 45.7	バーベキュー機能の充実 23.4	水遊び・水上アクティビティ機能 20.3
年代別	20代以下	59	カフェ・キッチンカー等の飲食機能 30.5	水遊び・水上アクティビティ機能 27.1	バーベキュー機能の充実/ 大規模イベントの増加・充実 25.4
	30代	129	カフェ・キッチンカー等の飲食機能 47.3	バーベキュー機能の充実 24.8	新たなスポーツの機会の提供/ 大規模イベントの増加・充実 17.8
	40代	204	カフェ・キッチンカー等の飲食機能 51.0	水遊び・水上アクティビティ機能 22.1	バーベキュー機能の充実 21.6
	50代	194	カフェ・キッチンカー等の飲食機能 51.5	バーベキュー機能の充実 22.2	水遊び・水上アクティビティ機能 19.6
	60代	117	カフェ・キッチンカー等の飲食機能 44.4	水遊び・水上アクティビティ機能 24.8	バーベキュー機能の充実 23.9
	70代以上	123	カフェ・キッチンカー等の飲食機能 39.8	環境学習・自然体験型のコンテンツ 26.8	大規模イベントの増加・充実 22.0

【選択肢一覧】

- 1 カフェ・キッチンカー等の飲食機能 2 新たなスポーツの機会の提供
 3 水遊び・水上アクティビティ機能 4 環境学習・自然体験型のコンテンツ 5 バーベキュー機能の充実
 6 キャンプ・スポーツ用具等の機材貸し出し 7 大規模イベントの増加・充実 8 周遊スタンプラリー

改善されるとよいこと【交通面】（上位3回答）



居住地・年代別の改善されるとよいこと【交通面】（上位3回答）

(%)

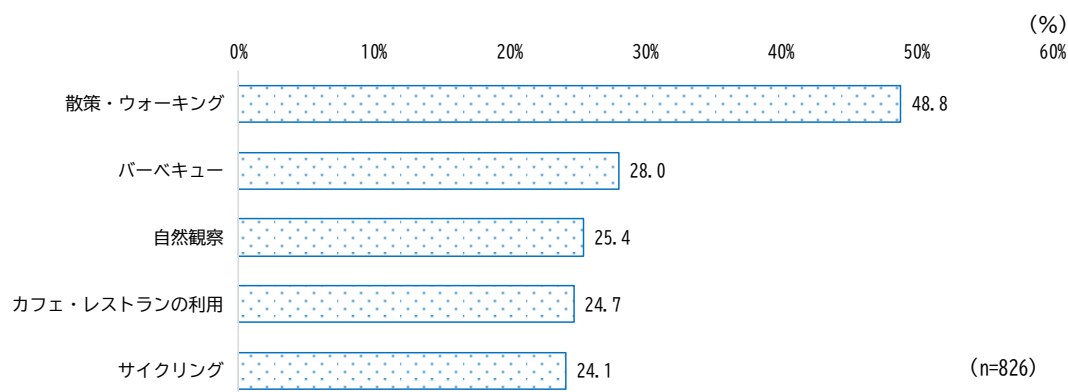
		n	第1位	第2位	第3位
居住地別	区内7km圏内	451	最寄り駅からの周遊バス 39.5	河川敷内のアクセス改善 29.7	周辺の駐輪場・ 駐車場の充実 27.5
	区外3km圏内	375	最寄り駅からの周遊バス 33.3	周辺の駐輪場・ 駐車場の充実 32.8	河川敷内のアクセス改善 24.5
	区内外3km圏内	602	最寄り駅からの周遊バス 33.1	周辺の駐輪場・ 駐車場の充実 30.1	河川敷内のアクセス改善 26.4
年代別	20代以下	59	河川敷内のアクセス改善 30.5	河川敷までの通り道や階段等 のアクセスポイントの充実 25.4	最寄り駅からの周遊バス 23.7
	30代	129	最寄り駅からの周遊バス 33.3	河川敷内のアクセス改善 27.1	周辺の駐輪場・ 駐車場の充実 26.4
	40代	204	最寄り駅からの周遊バス 40.7	周辺の駐輪場・ 駐車場の充実 27.9	河川敷内のアクセス改善 27.5
	50代	194	最寄り駅からの周遊バス 36.6	周辺の駐輪場・駐車場の充実/河川敷内のアクセス改善 28.4	
	60代	117	周辺の駐輪場・ 駐車場の充実 39.3	最寄り駅からの周遊バス 35.0	河川敷内のアクセス改善 27.4
	70代以上	123	最寄り駅からの周遊バス 41.5	周辺の駐輪場・ 駐車場の充実 34.1	河川敷内のアクセス改善 24.4

【選択肢一覧】

- 1 最寄り駅からの周遊バス 2 イベント時の臨時バス 3 シェアサイクル等の貸出返却スポットの充実
 4 周辺の駐輪場・駐車場の充実 5 河川敷までの通り道や階段等のアクセスポイントの充実
 6 河川敷内のアクセス改善 7 河川敷駐車場へのアクセス改善 8 河川敷までの標識・看板の充実

問 13 今後、荒川河川敷でやってみたいことについて、全て選んでください。

荒川河川敷でやってみたいこと（上位5回答）



居住地・年代別の荒川河川敷でやってみたいこと（上位5回答）

(%)

		n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
居住地別	区内7km圏内	451	散策・ウォーキング 48.6	自然観察 26.8	バーベキュー/カフェ・レストランの利用 25.7		サイクリング 23.5
	区外3km圏内	375	散策・ウォーキング 49.1	バーベキュー 30.7	サイクリング 24.8	自然観察 23.7	カフェ・レストランの利用 23.5
	区内外3km圏内	602	散策・ウォーキング 47.8	バーベキュー 29.4	サイクリング/自然観察 24.8		カフェ・レストランの利用 23.6
年代別	20代以下	59	散策・ウォーキング 32.2	カフェ・レストランの利用 28.8	ランニング 23.7	バーベキュー 22.0	自然観察 18.6
	30代	129	散策・ウォーキング 40.3	カフェ・レストランの利用 28.7	バーベキュー 23.3	ランニング 20.2	自然観察 19.4
	40代	204	散策・ウォーキング 43.6	バーベキュー 37.7	サイクリング 28.4	カフェ・レストランの利用 27.5	自然観察 20.1
	50代	194	散策・ウォーキング 48.5	バーベキュー 26.3	サイクリング 23.7	自然観察 21.1	カフェ・レストランの利用 19.6
	60代	117	散策・ウォーキング 59.8	自然観察 29.9	サイクリング 24.8	バーベキュー 23.1	カフェ・レストランの利用 20.5
	70代以上	123	散策・ウォーキング 64.2	自然観察 46.3	サイクリング 28.5	バーベキュー 26.8	カフェ・レストランの利用 26.0

【選択肢一覧】

- 1 野球 2 サッカー 3 ラグビー 4 バasketボール 5 ランニング 6 サイクリング 7 グラウンドゴルフ
 8 マウンテンバイク 9 BMX、スケートボード等のアーバンスポーツ 10 音楽フェス等のイベント 11 キャンプ 12 バーベキュー 13 ドッグラン 14 カフェ・レストランの利用 15 散策・ウォーキング 16 水遊び
 17 自然観察 18 SUP・カヌー等の水面アクティビティ 19 その他

③その他イベントでのアンケート調査（令和7（2025）年度実施）

- 調査対象者：「調査を実施したイベント一覧」の来場者
- 回収数：計 260 票（いたばし花火大会：53 票、板橋区民まつり・板橋農業まつり 207 票）
- 調査方法：イベント会場で直接回答（携帯電話端末等から WEB の答及び紙面※）

※いたばし花火大会については WEB 回答のみ

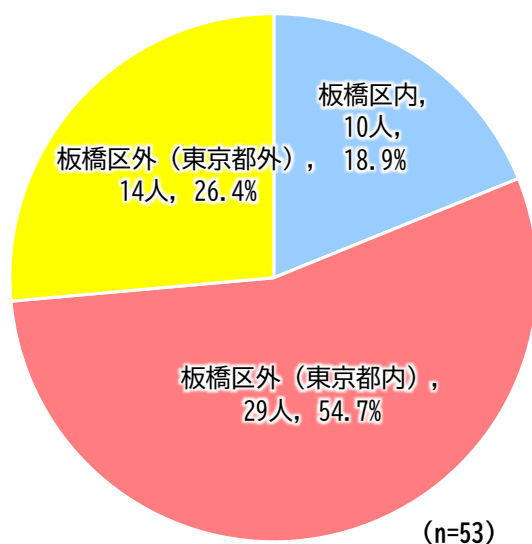
調査を実施したイベント

イベント名	実施日	回収数
いたばし花火大会	令和7（2025）年8月2日（土）	53 票
板橋区民まつり	令和7（2025）年10月18日（土）、19日（日）	207 票
板橋農業まつり	令和7（2025）年11月8日（土）、9日（日）	

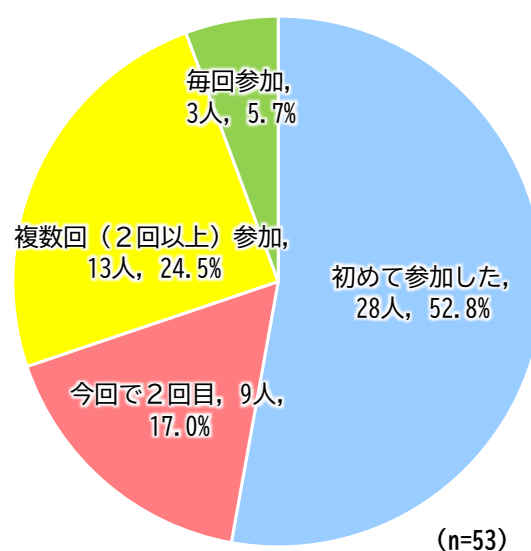
いたばし花火大会アンケートの設問一覧

問	設問
1	居住地（属性）
2	いたばし花火大会への参加回数
3	いたばし花火大会以外での板橋区の荒川河川敷利用の有無
4	いたばし花火大会以外での今後の板橋区の荒川河川敷利用の意向

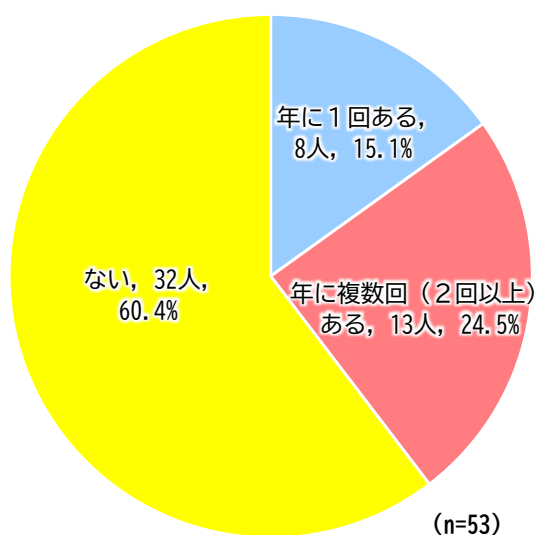
問1 居住地（属性）



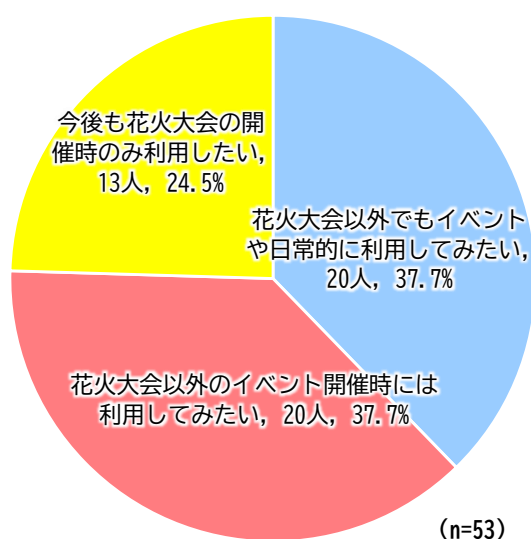
問2 いたばし花火大会への参加回数



問3 いたばし花火大会以外での板橋区の荒川河川敷利用の有無



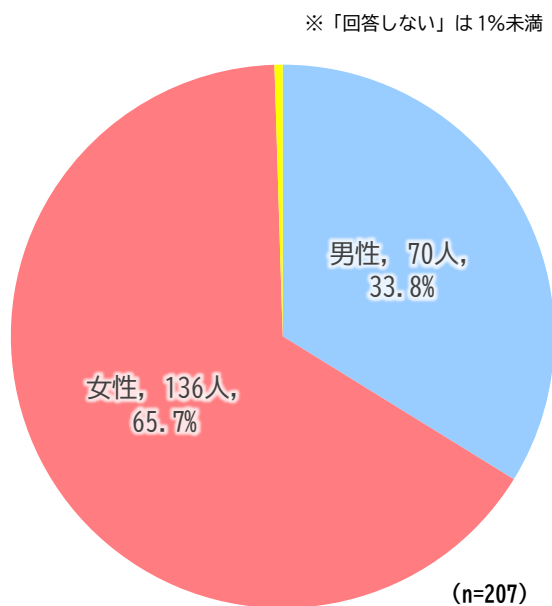
問4 いたばし花火大会以外での今後の板橋区の荒川河川敷利用の意向



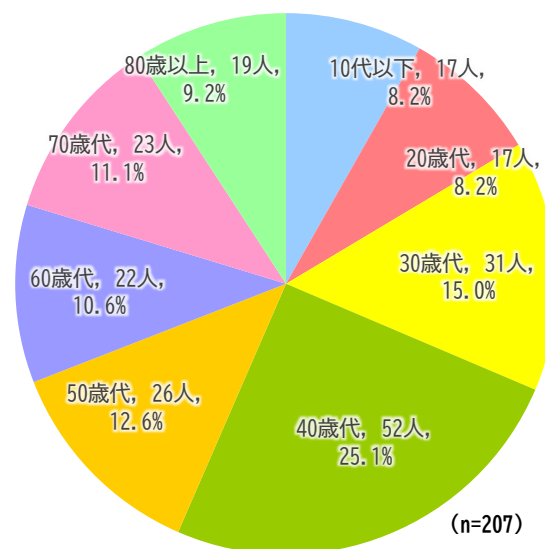
板橋区民まつり、板橋農業まつりアンケートの設問一覧

問	設問
1	性別（属性）
2	年齢（属性）
3	居住地（属性）
4	板橋区かわまちづくりの認知度
5	荒川河川敷で参加してみたいイベント
6	バーベキューで重視すること

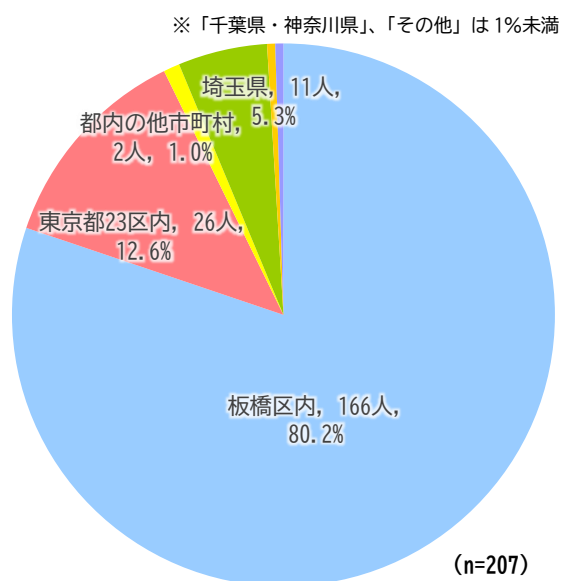
問1 性別（属性）



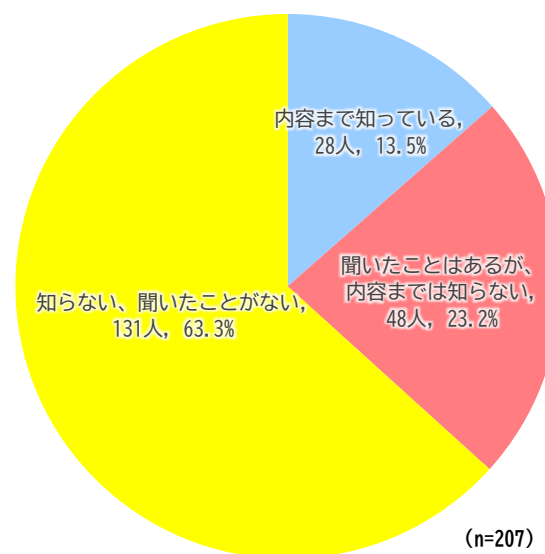
問2 年齢（属性）



問3 居住地（属性）

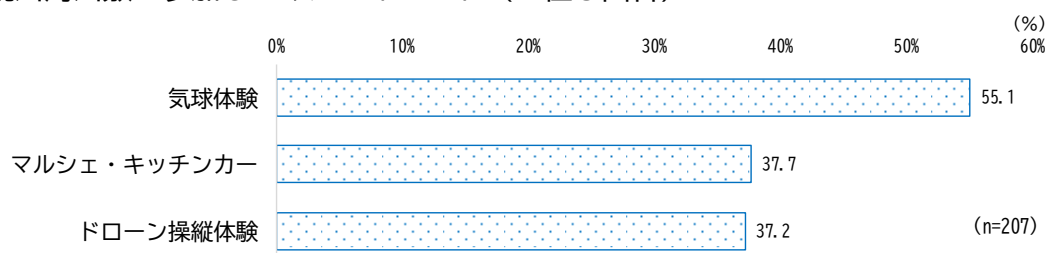


問4 板橋区かわまちづくりの認知度



問5 荒川河川敷で実施したら参加してみたいイベントを選んでください。(3つまで回答可)

荒川河川敷で参加してみたいイベント（上位3回答）



居住地・年代別の荒川河川敷で参加してみたいイベント（上位3回答） (%)

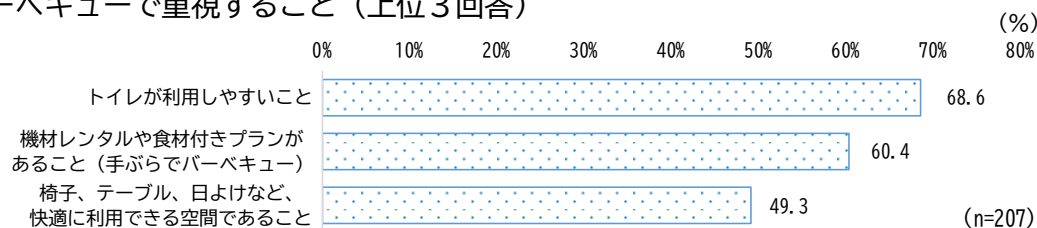
		n	第1位	第2位	第3位
居住地別	板橋区内	166	気球体験 52.4	ドローン操縦体験 38.6	マルシェ・キッチンカー 38.0
	東京都23区内	26	気球体験 57.7	マルシェ・キッチンカー 46.2	おもしろ自転車体験 38.5
	都内の他市町村	2	気球体験 100.0	スケートボード体験/おもしろ自転車体験 /ドローン操縦体験/防災体験イベント 50.0	
	千葉県・神奈川県	1	気球体験/マルシェ・キッチンカー/防災体験イベント/ランニングイベント 100.0		
	埼玉県	11	気球体験 72.7	おもしろ自転車体験 36.4	ドローン操縦体験/防災体験イベント 27.3
	その他	1	気球体験/ドローン操縦体験/防災体験イベント 100.0		
年代別	20代以下	34	気球体験 52.9	おもしろ自転車体験 47.1	マルシェ・キッチンカー 38.2
	30代	31	気球体験 61.3	マルシェ・キッチンカー 41.9	おもしろ自転車体験 38.7
	40代	52	気球体験 61.5	おもしろ自転車体験/ドローン操縦体験 48.1	
	50代	26	ドローン操縦体験 53.8	気球体験 42.3	おもしろ自転車体験 38.5
	60代	22	気球体験 72.7	防災体験イベント 45.5	ドローン操縦体験 36.4
	70代以上	42	気球体験/マルシェ・キッチンカー 42.9		ドローン操縦体験 26.2

【選択肢一覧】

1 気球体験 2 マルシェ・キッチンカー 3 スケートボード体験 4 おもしろ自転車体験 5 ドローン操縦体験
6 防災体験イベント 7 ランニングイベント 8 その他

問6 あなた自身が荒川河川敷でバーベキューをしたら重視する点を教えてください。
(3つまで回答可)

バーベキューで重視すること (上位3回答)



居住地・年代別のバーベキューで重視すること (上位3回答)

(%)

		n	第1位	第2位	第3位
居住地別	板橋区内	166	トイレが利用しやすいこと 70.5	機材レンタルや食材付きプランがあること (手ぶらでバーベキュー) 55.4	椅子、テーブル、日よけなど、快適に利用できる空間であること 49.4
	東京都23区内	26	機材レンタルや食材付きプランがあること (手ぶらでバーベキュー) 80.8	トイレが利用しやすいこと 53.8	椅子、テーブル、日よけなど、快適に利用できる空間であること 46.2
	都内の他市町村	2	機材レンタルや食材付きプランがあること (手ぶらでバーベキュー) / トイレが利用しやすいこと / 遊具や水遊び等の周辺アクティビティの充実していること 100.0		
	千葉県・神奈川県	1	全て 100.0		
	埼玉県	11	機材レンタルや食材付きプランがあること (手ぶらでバーベキュー) 72.7	トイレが利用しやすいこと 63.6	椅子、テーブル、日よけなど、快適に利用できる空間であること 45.5
	その他	1	機材レンタルや食材付きプランがあること (手ぶらでバーベキュー) / 椅子、テーブル、日よけなど、快適に利用できる空間であること / トイレが利用しやすいこと 100.0		
年代別	20代以下	34	トイレが利用しやすいこと 64.7	機材レンタルや食材付きプランがあること (手ぶらでバーベキュー) 61.8	椅子、テーブル、日よけなど、快適に利用できる空間であること 52.9
	30代	31	トイレが利用しやすいこと 74.2	機材レンタルや食材付きプランがあること (手ぶらでバーベキュー) 58.1	椅子、テーブル、日よけなど、快適に利用できる空間であること 45.2
	40代	52	機材レンタルや食材付きプランがあること (手ぶらでバーベキュー) 73.1	トイレが利用しやすいこと 61.5	椅子、テーブル、日よけなど、快適に利用できる空間であること 50.0
	50代	26	トイレが利用しやすいこと 61.5	機材レンタルや食材付きプランがあること (手ぶらでバーベキュー) 57.7	椅子、テーブル、日よけなど、快適に利用できる空間であること 50.0
	60代	22	トイレが利用しやすいこと 77.3	機材レンタルや食材付きプランがあること (手ぶらでバーベキュー) 72.7	椅子、テーブル、日よけなど、快適に利用できる空間であること 45.5
	70代以上	42	トイレが利用しやすいこと 76.2	椅子、テーブル、日よけなど、快適に利用できる空間であること 50.0	機材レンタルや食材付きプランがあること (手ぶらでバーベキュー) 40.5

【選択肢一覧】

1 機材レンタルや食材付きプランがあること (手ぶらでバーベキュー)、2 食材や飲み物が充実したプランがあること、3 椅子、テーブル、日よけなど、快適に利用できる空間であること、4 自家用車で来られること、5 公共交通機関で来られること 6 トイレが利用しやすいこと、7 遊具や水遊び等の周辺アクティビティの充実していること、8 水辺やみどりなどの景色が楽しめること、9 その他

2 事業者及び関係団体アンケート調査

(1) 目的

事業者・関係団体の皆さまのかわまちづくりに関するニーズや市場性を把握し、今後の整備や運営の方向性、公民連携の可能性を検討する際の基礎資料とすることを目的とします。

(2) 調査内容

- 調査対象者：かわまちづくりやまちづくり、水辺、公園、体育施設等の事業に取り組んでいる企業や関係団体等
- 回収数：26 者（企業 19 者 地域団体 7 者）
- 調査方法：メールによるアンケート
- 調査期間：令和6（2024）年12月～令和7（2025）年3月

①事業者へのアンケート調査結果

アンケートの設問の内容（事業者）

問	設問
1	にぎわいづくりに関する事業（水辺空間、まちなか、都内での活動）実績
2	問1の各事業の特徴や課題、懸念事項等
3	「板橋区かわまちづくり」の対象エリアのポテンシャルや評価
4	対象エリアを利活用するアイデアや集客イメージ（参画する場合を含む） ・スポーツ・カルチャー発信ゾーン ・水辺のにぎわい・アウトドアゾーン ・自然環境ゾーン ・スポーツ・アクティビティゾーン
5	「板橋区かわまちづくり」への参画の可能性や参画条件、その他区に期待すること
6	「板橋区かわまちづくり」が地域や周辺に及ぼす効果や影響
7	ご意見・ご質問等

※企業の分類により、設問に一部差異あり

問1 貴社、貴団体のにぎわいづくりに関する事業（水辺空間、まちなか、都内での活動）実績があれば、ご記載ください。荒川や河川における事業があれば、併せてご記載願います。

にぎわいづくりに関する事業実績

回答内容		回答数
あり	まちなか	11
	都内での活動	10
	水辺空間	9
なし	-	5

荒川や河川における事業

回答内容	回答数
イベント対応	6
維持管理・運営	5
整備	2

問2 問1で記載いただいた各事業の特徴や課題、懸念事項等について、ご記載ください。

回答内容		回答数
特徴	体験型イベントの開催	2
	他企業との協働	2
	集客戦略	2
	【その他の回答】 河川敷利用の高い満足度、長時間の滞留のための工夫、喫煙所の設置（ポイ捨て対策）、夜の集客にフォーカス	
課題・懸念事項等	ニーズや立地環境を踏まえた施設の整備（給排水・トイレ・シャワー・機材保管庫等）	5
	天候対策（暑さ・寒さ・雨天等）	5
	収益性	5
	平時及び有事の安全管理と体制	4
	関係者との調整（行政・地域）	3
	利用ルールの調整（対象地の環境・周辺住民を考慮したルール）	3
	取組の持続（計画・プレイヤーの確保等）	3
	広報・周知	3
	利用調整	2
	アクセスの分かりにくさ（案内板・標識等）	2
	【その他の回答】 周辺からの視認性、管理制度に関する規制、立地における荷重や面積の制約、混雑緩和の工夫、立地における荷重や面積の制約	

問3 「板橋区かわまちづくり」の対象エリアのポテンシャルや評価について、ご記載ください。

回答内容	回答数
魅力的な自然空間・区民交流の場	11
防災面の強化	4
新たな観光スポット	3
都心部を活かした空間	3
広域的な利用	1

問4 対象エリアを利活用するアイデアや集客イメージについてご記載ください。(貴社・貴団体が参画する場合を含む)

	回答内容	回答数
スポーツ・ カルチャー発信 ゾーン	イベント全般（マルシェ・地域交流・展示等）	8
	スポーツイベント（スクール含む）	7
	キッチンカー出店	7
	音楽イベント	3
	運動施設の開放	3
	映画上映・スポーツ観戦（パブリックビューイング）	2
	【その他の回答】 リサイクルプラザ運動イベント、ランニングステーション、サイクルポート、有料遊具、花火大会時の有料観客席等	
水辺のにぎわい・ アウトドアゾーン	バーベキュー・キャンプ	5
	水上アクティビティ（カヌー・SUP等）	5
	イベント全般（マルシェ・地域交流・展示等）	3
	水面活用（飲食・周遊）	2
	自治体プロモーション	2
	【その他の回答】 環境学習・自然保全活動、小さい子や高齢者向けアクティビティエリア、ドローン練習場、ドッグラン施設、ウォーターアクティビティイベント(水鉄砲大会、屋外プールなど)・アスレチック施設設置、ライトアップ	
自然環境ゾーン	環境学習（観察会・フィールドワーク等）	7
	健康促進イベント（ウォーキング等）	2
	【その他の回答】 移動式動物園、アクティビティ用レンタル施設、パネルやARコンテンツ設置等、エコイベント	
スポーツ・ アクティビティ ゾーン	アーバンスポーツ（BMX・スケート等）	8
	多目的コート	5
	サイクリング	2
	【その他の回答】 パルクール、屋外スポーツジム、ラジコンイベント	
全体に関する 意見	可動型施設（トイレ等）	2
	【その他の回答】 アプリ活用（トイレ等空き状況等）、モビリティ（グリーンスローモビリティ、水力発電所、ドローンイベント	

問5 「板橋区かわまちづくり」への参画の可能性や参画条件、その他区に期待することをご記載ください。

回答内容	回答数
課題改善や利便性向上に資する整備（トイレ・シャワー・駐車場・水道・電気等）	7
河川敷内外のアクセス性の改善（交通手段・案内板・河川敷内の車両導線、シェアサイクルスポット等）	5
周辺企業、地域との連携（又は連携支援）	4
情報提供	4
施設の整備、管理手法、条件（指定管理制度・JV・DBFO方式等）	3
河川敷の規制緩和	2
収益性の確保（予算付与・使用料減免・収益エリアの設置等）	2
広報支援	2
【その他の回答】 コンサルティング事業としての参加、交通インフラ設備事業としての参加、災害時の財政負担、自然体験活動促進に資する整備（アウトドア・水辺利用等）、平日の日中や夜間の活用環境、庁内関係者調整、利用に関する優遇措置、水害を考慮した河川敷上の施設の設置（可動式施設等）、他自治体との連携、先進的・住民の防災意識向上に資する取組	

問6 「板橋区かわまちづくり」が地域や周辺に及ぼす効果や影響についてご記載ください。

回答内容	回答数
地域・地域コミュニティの活性化、観光客の増加	10
自治体の知名度や魅力の向上	9
イベント・にぎわいの促進	6
スポーツ振興の推進・利用者増加	5
防災力強化、防災活動・教育への活用の活性化	2
水辺活用の促進	1

問7 その他、この取組について、ご意見・ご質問等がございましたらご記載ください。

	回答内容	回答数
課題についての意見	河川敷へのアクセス性の改善（交通手段・案内板等）	3
	【その他の回答】 安全管理体制（災害時含む）、天候対策（暑さ・寒さ・雨天等）、駐車場の整備・確保、平日の日中等の活用、下水道整備の制約、環境・周辺住民への配慮（騒音・ゴミ・マナー等）	
取組の方向性についての意見	新たなブランディングの創出が必要	2
	周辺企業との連携が必要	2
	【その他の回答】 河川敷の規制緩和、リサイクルプラザの拠点化、水害を考慮した河川敷上の施設の設置（可動式施設等）、学術的要素の導入、整備・運営時の官民連携の仕組みの構築	

②地域団体へのアンケート調査結果

アンケートの設問の内容（地域団体）

問	設問
1	板橋区内の荒川河川敷の利用実績
2	板橋区外の荒川河川敷やその他河川敷の利用実績
3	板橋区かわまちづくりへの印象や地域・周辺に及ぼす効果や影響
4	荒川河川敷やかわまちづくりへの要望
5	板橋区かわまちづくりへ協力・連携できること
6	行政との連携実績 ・板橋区／板橋区以外

問1 板橋区内の荒川河川敷の利用実績についてご回答ください。

回答内容	回答数
あり	6
なし	1

板橋区荒川河川敷の下記にお示しした施設等の利用実績についてご回答ください。利用したことのある施設等全てを選んでください。

回答内容	回答数
新河岸庭球場	2
荒川戸田橋陸上競技場	2
荒川戸田橋野球場	2
通路	2
水際・水面	2
【その他の回答】 新河岸陸上競技場、板橋区立リサイクルプラザ、生物生態園（周辺の自然地含む）	

【選択肢一覧】

1 新河岸陸上競技場、2 新河岸庭球場、3 板橋区立リサイクルプラザ、4 荒川戸田橋緑地（草地広場等）
5 荒川戸田橋陸上競技場、6 生物生態園（周辺の自然地含む）、7 荒川戸田橋野球場、8 通路、
9 水際・水面、10 その他、11 板橋区荒川河川敷を利用したことはない

利用内容や利用した際の印象等についてご記入ください。

		回答内容	回答数
利用内容		スポーツ大会開催	3
		各種イベント	3
		スポーツ利用	2
		散策・ランニング	1
印象	良い点	魅力的な自然空間、地域の生物や生態系に配慮した利用、十分な管理、通行時の快適性	
	課題	周辺住民への配慮(騒音・ゴミ・マナー等) 【その他の回答】 衛生施設の整備（トイレ・シャワー・更衣室等）、駐車場の整備・確保、利用設備の改良、水捌け不良・排水路の整備、景観や地域の生物や生態系に配慮した整備・利用	3

問2 板橋区以外の荒川河川敷及びその他の河川敷の利用実績についてご回答ください。

回答内容		回答数
あり		4
なし		3

利用内容や利用した際の印象等についてご記入ください。複数ある場合は、可能な限りご記入ください。

回答内容		回答数
利用内容	各種イベント	2
	【その他の回答】スポーツ大会の開催、スポーツ利用、散策	
印象等	良い点	トイレ等の衛生面、魅力的な自然空間、十分な管理
	課題	周辺住民への配慮（騒音・ゴミ・マナー）、衛生施設の整備（トイレ・シャワー・更衣室等）、景観や地域の生物や生態系に配慮した整備・利用、天候対策（暑さ・寒さ・雨天等）

問3 板橋区かわまちづくりへの印象や地域・周辺に及ぼす効果や影響についてご記入ください。

回答内容		回答数
地域の生物や生態系に配慮した整備		2
利用者が共存できる利用ルールの制定		2
【その他の回答】 持続的な活動に向けた協働、水辺活用の促進、防災対策・安全管理体制・災害時も想定した交通整備		

問4 今後板橋区の荒川河川敷を利用する場合に望むことや、かわまちづくりを進めるにあたっての要望等があればご記入ください。

回答内容		回答数
ブランディングを意識したまちづくりと広報		2
課題改善や利便性向上に資する整備（トイレ・シャワー・駐車場・進入路・水道・飲食物提供・自販機等）		2
防災対策・災害復旧の想定		2
【その他の主な回答】 地域の生物や生態系に配慮した整備、学術的要素の導入、住民協議・情報提供、他自治体・他機関との連携、持続的な活動に向けた協働		

問5 板橋区のかわまちづくりを進める際に、協力・連携できる、または協力できそうなことがあれば、ご記入ください。

回答内容		回答数
参画者（プレイヤー）の確保		2
【その他の回答】 計画推進に係るアドバイス、利用時の施設や環境への配慮、体験型イベントの開催、清掃活動、広報支援		

問6 行政との連携実績があれば、ご記入ください。

回答内容		回答数
板橋区		6
板橋区外		3

3 サウンディング型市場調査

(1) 目的

民間事業者の視点から自由かつ実現可能なアイデアやノウハウの提案により、市場性の確認をするとともに、事業内容及び事業者募集に係る条件設定を検討する際の参考とすることを目的としています。

(2) 調査内容

- 参加事業者：12 者
- 事前説明会：令和7（2025）年1月16日（木）
- 調査実施期間：
 - 令和7（2025）年2月6日（木）、7日（金）、10日（月）、12日（水）、14日（金）、21日（金）【計6日間】

(3) 調査結果

1. 事業手法（整備・管理運営手法）に関する回答一覧

①整備手法について

- 設置管理許可制度や Park-PFI 制度等の活用により、民間事業者による効果的な管理運営が可能である。
- 民間事業者による整備の場合、多額の経費を初期投資（施設整備等）に要し、河川敷での収益還元は難しいため、資金調達の面からも参入しやすい事業手法とし、管理業務と収益事業を別に分けた公募（Design-Build 方式や指定管理者制度等）が望ましい。
- 河川区域の諸規定や特殊性も鑑み、管理棟機能をリサイクルプラザに設けることは、有効な検討策の一つである。
- 全体を一括管理することも可能ではあるが、状況に合わせ事業に可変性を持たせるなど、にぎわいを創出しやすい箇所から集中して集客を行うことが必要である。

②整備内容について（公募対象公園施設として整備を行うもの）

- 物販等を含む飲食やカフェ、キャンプ場やバーベキュー場
- 非日常を生み出す定期的にイベントが開催できる会場等
- 特定公園施設として、遊具、照明、園路、移動式の仮設施設

③維持管理について

- 区内の関連する指定管理施設と一体で管理することが効率的である。
- 日常の維持管理にあたっては、資材等の置場の確保が課題である。
- 洪水時の対応については、自治体での対応が必要である。
- 大規模修繕は、自治体での費用負担が必要である。

④事業スケジュールについて

- 民間で整備をする場合、整備期間は1年前後
- 指定管理者制度による事業運営の場合、運営期間は5年間
- 設置管理許可制度や Park-PFI の民間活用手法の場合、10～20 年間

⑤その他事業提案について

- ハード面の整備も去ることながら、ソフト面が非常に重要である。
- 定期的な事業（スクール等）とスポット的な事業（イベント等）の両面からの視点で検討ができる。
- 河川区域やその周辺の道路等の使用状況により、整備期間は前後すると考える。

2. 公募条件に関する回答一覧

①参画の意向について

- 先進的な事業となる可能性も高く、今後の事業条件や集客環境の形成に応じ、条件次第では参画可能である。
- 他事業者とのJVを組むことや、指定管理者制度等であれば参画可能である。

②費用負担やリスク分担について

- インフラ整備や河川氾濫、自然災害等に対する復旧費用は、民間事業者の負担にならない配慮が必要である。
- 人件費増、物価上昇等による費用増は、自治体負担で検討していただきたい。
- 公募条件には、河川氾濫等を含むリスク分担について明記しておく必要がある。

③その他

- 地域住民への配慮（無料開放等）や持続可能性の観点から評価が必要である。

3. その他に関する回答

- 電力、水道等のライフラインの整備が必要である。
- 集客機能の観点から、民間収益施設の設置エリアと駐車場との距離は、近いほうが望ましい。
- 河川敷までのアクセスの改善は課題であり、駐車場の整備に加え、無料のシャトルバス運行等の対応を図ることが必要である。
- 河川管理用通路以外で、各ゾーンをつなぐ「車両用の園路」が必要である。
- 今後のニーズを把握するため、トライアル・サウンディングを実施し、検証することも効果的と考える。
- 生物生態園のワンドや川を見ることができると、ロケーションを活かすことが可能となる。
- 一部コンテンツの機能を設けるだけでなく、多目的利用の視点も必要である。
- 平日利用を考慮した場合、夜間活用できる照明の有無により採算性が大きく変化する。

4 かわまちづくり事例

(1) 北区岩淵周辺地区かわまちづくり

場所：東京都北区

河川：荒川水系荒川

かわまちづくり計画登録：令和7（2025）年8月

【概要】

流域の岩淵町・志茂は、まちの歴史や文化を感じさせる地域資源が残り、河川敷はスポーツや散策、自然とのふれあいができる貴重なオープンスペースとして、多くの人々に親しまれている。

治水の歴史とともに育まれてきた地域の歴史の継承と、自然環境・地域資源を活かした河川空間のさらなる活用促進や観光拠点化を図るため、河川敷における滞在の快適化とまちからのつながり・回遊性の向上による、にぎわい溢れる憩いの交流エリアとして、整備・取組を推進していく。

【事業手法】

公民連携を基本とし、整備当初は北区が占有主体となり、社会実験を通じて利用者の潜在ニーズを把握する。その後、かわまちづくり計画の主旨と合致する民間事業者を選定し、河川のオープン化によって民間主体による対象エリアの利活用・マネジメントの実施を検討していく。

【導入コンテンツ】

親水護岸、坂路・階段、広場の基盤整備、堤防天端の拡幅、誘導サイン等の設置、休憩施設の整備、電気・水道施設、ドッグランなど

【施設等の様子】



(2) 川の駅 伊豆ゲートウェイ函南 (函南町塚本地区かわまちづくり)

場所：静岡県函南町

河川：狩野川水系狩野川

かわまちづくり計画登録：平成 28 (2016) 年 3 月

【概要】

まち側に位置する道の駅に隣接する川の駅であり、出水時における水防活動等を支援するほか、平常時には学習の場、堤防や水辺を利用したアウトドアスポーツの場、芝生広場を利用したにぎわい交流の場として地域活性化の役割を担っている。また、まちづくりと一体となる事業を展開することで、スポーツツーリズムなど伊豆半島の観光・体験の玄関口として機能しているほか、当該箇所や沼津市、伊豆の国市といった水系内の水辺整備箇所との上下流の水辺機能の連携を強化し、流域全体の活性化も推進している。

【事業手法】

平成 31(2019)年 4 月に供用開始し、「指定管理者制度」を活用して民間事業者による水辺でのカヤック・カヌー・SUP 体験、バーベキューや様々なイベント等を展開している。また、隣接する「道の駅(伊豆ゲートウェイ函南)や川の駅 (MIZUBE ステーション)」は、PFI・BTO 方式により施設整備を実施している。

【導入コンテンツ】

水防多目的センター、坂路・階段、ワンド、親水護岸、多目的芝生広場、ドッグラン、看板、休憩施設など

【施設等の様子】



出典：河川空間のオープン化活用事例集 (R7.7 国土交通省水管理・国土保全局)



川の駅 (MIZUBE ステーション)



川の駅と道の駅からなる複合施設

出典：MIZUBE ステーション活用事例集 (R5.3 国土交通省水管理・国土保全局)

5 用語・法令集

	用語	説明
あ	荒川下流防災施設運用協議会 /荒川下流防災施設活用計画	荒川下流域沿川の自治体・消防・警察・自衛隊の防災担当者が集まり、荒川下流の防災施設を有効活用するための計画を作成することを目的とした協議会であり、平成 25（2013）年 2 月に同計画を策定した。
	荒川下流地区水辺整備事業	荒川総合水系環境整備事業の一環で、荒川将来像計画に基づき下流域の水辺空間整備を行う事業。バリアフリー坂路や散策路等の整備により、誰もが安全に利用できる水辺環境の形成と利用促進を図る。
	荒川将来像計画/荒川将来像 計画地区別計画	荒川下流部をより魅力的な川とするための川づくりのあるべき姿と実現のための取組をとりまとめたもの。 全体構想書、推進計画、地区別計画から構成され、地区別計画では、各地域の特性に応じた具体的な整備方針を示しており、板橋区編も令和 7（2025）年度に改定。
	荒川総合水系環境整備事業	国土交通省所管の事業で、荒川において治水・利水と自然環境・社会環境との調和を図りながら、湿地環境やヨシ原等の保全・再生、水辺空間の整備を実施する総合的な環境整備事業。
	荒川調整池	荒川中流域に整備される洪水調節施設群。洪水時に水を一時貯留することで下流域の氾濫を防ぐ。第一調節池は平成 15（2003）年に完成し供用中、第二・第三調節池は工事中である。
い	一級河川	国土保全や国民経済上、特別に重要な水系の中で政令で区間を示し指定された河川で、国が管理するもの。
う	ウォーカブルなまちづくり	国土交通省が推進する政策で、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」づくりのこと。
え	エコロジカル・ネットワーク	地域において優れた自然条件を有する場所を、生物多様性の拠点として位置づけつつ、野生生物の移動・分散を可能とするため、拠点間を生態的回廊で相互に連結させる、生物多様性の保全を図る概念。
か	河川空間のオープン化	河川空間のオープン化とは、従来の治水・利水中心の河川管理から規制を緩和し、一定の要件を満たす市民や民間事業者がカフェやイベント開催など多様に活用できるようにする政策。
	河川空間利用実態調査	河川空間利用実態調査は、『河川水辺の国勢調査』の一環として、河川空間の利用状況の実態を把握することを目的としている。
	河川法	洪水や津波などの災害を防ぎ、川を安全に使い、環境を守ることで国土の保全と開発に寄与、公共の安全の保持、かつ、公共の福祉を増進することを目的とする法律。

用語	説明
河川水辺の国勢調査	河川水辺の国勢調査は、全国の河川の生態系や水質、動植物の分布を把握する国土交通省の基礎調査で、河川環境の保全や再生に活用されている。
かわまちづくり支援制度	地域の「かわまちづくり」の取組を河川管理者が支援する制度。支援制度に登録されると直轄事業、交付金事業の対象になるため、河川管理者は「かわまちづくり計画」に基づき河川管理施設等の整備といったハード施策の支援や、河川空間のオープン化に向けた区域指定等のソフト施策の支援を行う。
こ 高規格堤防	普通の堤防と比較して幅の広い堤防（堤防の高さの30倍程度）で、市街地再開発や区画整理などのまちづくり等と共同で実施することで、安全で快適な空間を創出するもの。
航空法	航空機の安全な運航と障害防止、利用者の便利向上、脱炭素化推進、無人機の安全飛行を定めた法律。
公募設置管理制度 (Park-PFI)	公園における飲食店や売店などの収益施設の設置・管理を公募で民間事業者に任せ、その収益を活用して園内の広場や遊具など公共施設の整備を行う仕組みであり、設置管理許可制度を発展させた制度。
コミュニティタイムライン	地域に住む住民による、地域内での水害時に取るべき行動や避難のタイミングについて「いつ・誰が・何をするか」を定めた事前防災行動計画。
さ サイクルポート	自転車利用を促進するために設置される駐輪拠点施設で、レンタサイクルの貸出や返却が可能な場所として整備されるものである。コミュニティサイクルシステムの一部として、自転車利用の利便性向上や交通課題の解決に役立つ施設である。
サンクチュアリ	荒川戸田橋緑地 生物生態園内の自然環境の保全と生物多様性の維持を目的とした自然保護区域のこと。この区域では、立ち入りや活動に制限が設けられており、特に野鳥や植物などの生息地として重要な役割を果たしている。
し 自然再生事業	自然再生推進法に基づき、過去に損なわれた生態系その他の自然環境を取り戻すための事業。多様な主体の参加により、地域の自然環境の保全、再生、創出及び維持管理を行う。
指定管理者制度	公園や体育館などの公共施設の運営管理を、自治体が指定した民間事業者や団体に委ねる制度であり、従来の直営管理に比べて多様で効率的なサービス提供を可能にしている。
JV (Joint Venture) <small>ジョイントベンチャー</small>	複数の事業者が共同で大規模事業を受注・実施するために結成する企業体。各者の技術力や資金力を結集し、リスクを分散することで、単独では対応困難な大型プロジェクトの実施を可能とする事業組織形態。
せ 設置管理許可制度	民間事業者が都市公園内に飲食店等の施設を設置・管理することについて公園管理者が許可を与える制度。事業者が整備費と使用料を負担し、最長10年間の事業運営が可能。

用語	説明
占有	河川敷や道路など公共用地を、一時的又は長期的に使用することを許可する行政上の制度。イベント開催や施設設置、工事などで公共空間を利用する際に、関係自治体の許可を受けて行う必要がある。
た 大規模土地取引行為の届出制度	板橋区都市づくり推進条例に基づく制度で、一定規模以上の土地取引や利用構想を行う際に事前に区へ届出を義務付けるもの。都市計画やまちづくりの方針との整合を図り、周辺環境や公共需要への影響を調整することを目的として、土地取引では敷地面積が2,000㎡以上の場合に契約日の6か月前まで、土地利用構想では敷地面積5,000㎡以上又は延べ床面積一万平方メートル以上の場合に契約日の三か月前までに届出が必要となる。
高台への避難（水平避難）、 早期の分散避難（縁故避難）	高台への避難（水平避難）は、津波や洪水の際に堤防や近くの高台など浸水しない場所へ移動する行動を指し、早期の分散避難（縁故避難）は、災害の危険が迫る前に親戚や知人宅など安全な場所へ分散して避難する行動をいう。いずれも大規模災害時の避難行動を安全かつ円滑に進めるために重視される考え方。
高台まちづくり	氾濫時の垂直避難先を確保するため、荒川や江戸川等周辺の海面より低いゼロメートル地帯を中心に、高規格堤防整備や住宅・公共スペース等の高台化、高台への避難経路を確保したりすることで、安全で災害に強いまちづくりを進める取組。
て <small>デザイン ビルド</small> DB(Design-Build)方式	公共施設などの設計と施工を一体的に民間事業者へ発注する方式であり、設計と施工の連携強化による効率化やコスト縮減を目的としている。
DBFO <small>デザイン ビルド ファイナンス オペレート</small> (Design Build Finance Operate)	民間事業者が設計・建設・資金調達・運営を一体的に実施する事業方式。公共は施設完成後にサービス対価を支払い、民間が建設資金を調達して長期運営を行うことで、ライフサイクル全体での効率化とリスク移転を図る官民連携手法。
DX <small>デジタル トランスフォーメーション</small> (Digital Transformation)	企業や行政がデジタル技術を活用して業務やサービスの効率化・高度化を図り、組織や社会の仕組みそのものを変革する取組。
と 都市計画法	都市の健全な発展と生活環境の保全を目的として、土地利用や開発、建築物の規制、道路・公園などの都市施設の計画・整備を総合的に定める法律。
都市・地域再生等利用区域	河川管理者が河川敷地占有許可準則に基づいて指定する特別区域。従来は公共性の高い利用に限定されていた河川敷地において、民間事業者がイベントやオープンカフェ、キャンプ場などの営利活動を長期間行うことを可能にする枠組み。市町村等の要望と地域合意により指定される。
トライアル・サウンディング	自治体や事業者が新しい事業やサービスの導入前に、対象地域や市場のニーズ、運営上の課題を把握するために行う試行的な調査・検証のこと。

	用語	説明
ひ	BTO ビルド トランスファー オペレート (Build Transfer Operate)	民間事業者が施設等を建設し、施設完成直後に公共施設等の管理者等に所有権を移転し、民間事業者が維持・管理及び運営を行う事業方式。
	パーク マネジメント オーガナイゼーション PMO (Park Management Organization) 型指定管理	通常の指定管理業務だけである施設の維持管理ではなく、施設整備やイベントの企画・立案など、ハードとソフト両面を含めた公園全体の経営を担う事業手法。
	PFI プライベート ファイナンス イニシアティブ (Private Finance Initiative)	民間事業者が資金調達、設計、建設、維持管理、運営を一体的に行い、公共施設等の社会資本整備や公共サービスを効率的に提供する事業手法。
ふ	プロムナード	都市や公園などに整備された散歩道・遊歩道で、歩行者が安全かつ快適に移動や散策を楽しめるようにデザインされた通路。
り	流域治水関連法	河川法や水防法、土砂災害防止法などを中心に、河川や流域全体での洪水・土砂災害対策を総合的に進めるための法律群であり、堤防やダム管理、土地利用規制、避難計画の整備などを規定し、被害の軽減と住民の安全確保等を目的とする。
	流域治水関連法改正に対応する水防災に着目した地区計画等	流域治水関連法の改正を踏まえ、洪水や土砂災害など水害リスクに着目して策定される地区計画である。河川や雨水排水の整備、防災施設の配置、避難経路の確保などを地域単位で計画的に定め、住民の安全確保と被害の最小化を目的とする。
わ	ワンド	河川の本流から分かれて形成される小規模な入り江や湾状の水域であり、流れが緩やかで魚類や水生植物の生息環境として重要な役割を果たす自然地形。



9つのめざす姿
(環境)のシンボル

板橋区基本構想において、区が将来像
「未来をひらく 緑と文化のかがやくまち “板橋”」の
実現に向けて掲げた「9つのめざす姿」を
視点ごとに象徴したものです

板橋区かわまちづくり基本計画

編集 板橋区かわまちづくり担当部
かわまちづくり計画担当課

〒173-8501 板橋区板橋二丁目 66 番 1 号

TEL 03-3579-2471 FAX 03-3579-2487

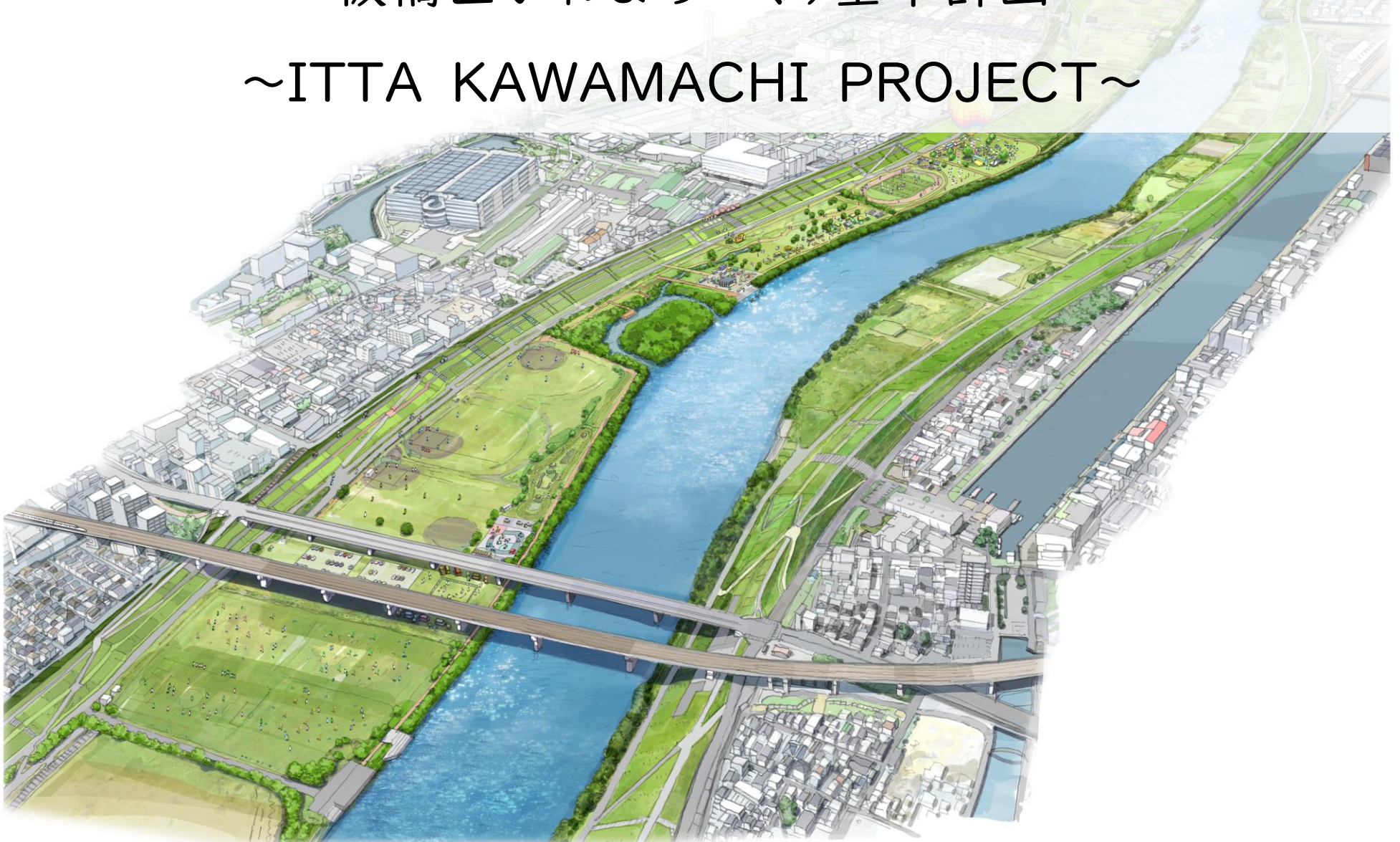
d-kmkeikaku@city.itabashi.tokyo.jp

令和8年●月発行

刊行物番号 RXX-XXX

板橋区かわまちづくり基本計画

~ITTA KAWAMACHI PROJECT~



第1章 板橋区のかわまちづくりのこれまでと河川敷の特徴	・・・1
第2章 かわまちづくりの課題と方向性	・・・5
第3章 かわまちづくりの展開	・・・9
第4章 かわまちづくりの推進	・・・21

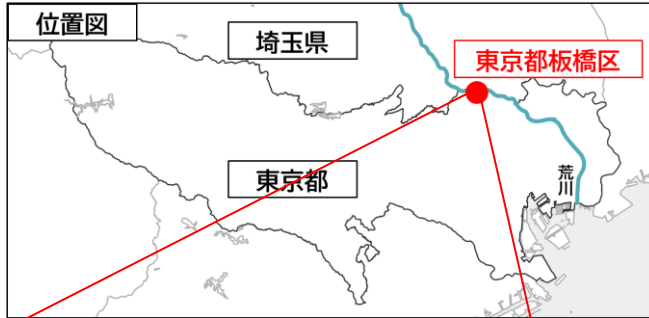
第1章 板橋区のかわまちづくりのこれまでと河川敷の特徴



区民に愛され誇りとなる、にぎわいあふれる水辺空間の形成に向けて。



かわまちづくり計画登録証

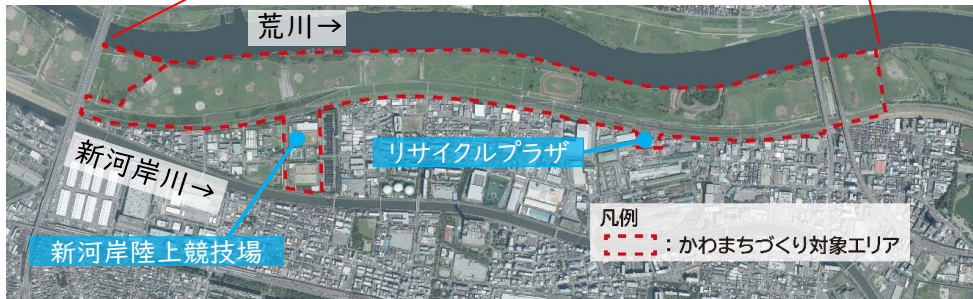


区は、舟渡・新河岸地区の水害対策を目的とした連絡通路の整備をきっかけに、かわまちづくりをスタートしました。防災の視点が特徴で、令和3(2021)年8月に国土交通省のかわまちづくり支援制度の登録を受けています。

令和6(2024)年1月29日には、にぎわい創出に向けた取組のさらなる充実をめざし、かわまちづくりの取組の基本方針を示す「板橋区かわまちづくり基本構想『ITTA KAWAMACHI PROJECT』」(以下「基本構想」)を発表しました。

基本構想の具体化等に向けて、この度「板橋区かわまちづくり基本計画」を策定し、基本的な考え方などを示していきます。

対象エリアは、荒川の板橋区区間(右岸24.8km~28.6km周辺)とし、まち側に立地する区立施設「リサイクルプラザ」及び「新河岸陸上競技場」も含めます。



かわまちづくり対象エリア

“河川空間とまち空間との連携”に向けた河川敷とその周辺エリア。



リサイクルプラザ



荒川戸田橋陸上競技場



荒川生物生態園



荒川戸田橋野球場



板橋Cityマラソン



親子たこあげ大会



ITaFES



いたばし花火大会

荒川は極度に都市化された板橋区内に残された貴重な空間であり、様々な役割を担っています。地域に根付いた荒川にて、「かまちづくり」に取り組むにあたっては、区の地域資源を活かした展開としていきます。

周辺には荒川戸田橋野球場をはじめとした体育施設や自然環境を活かした荒川生物生態園などの河川敷内の施設やリサイクルプラザや熱帯環境植物館などまち側の施設があります。

また、板橋4大イベントにもなっている「板橋Cityマラソン」や「いたばし花火大会」など、大規模なイベントが開催されています。

“河川空間とまち空間との連携”に向けた河川敷とその周辺エリア。



板橋緊急用船着場



ものづくりの板橋



高島平のまちづくり
「高島平ポットラック」



高島平のまちづくり
「#平暮らしキャラバン」



高島平緑地「りよくちであそぼう！」
みんなでファームづくり



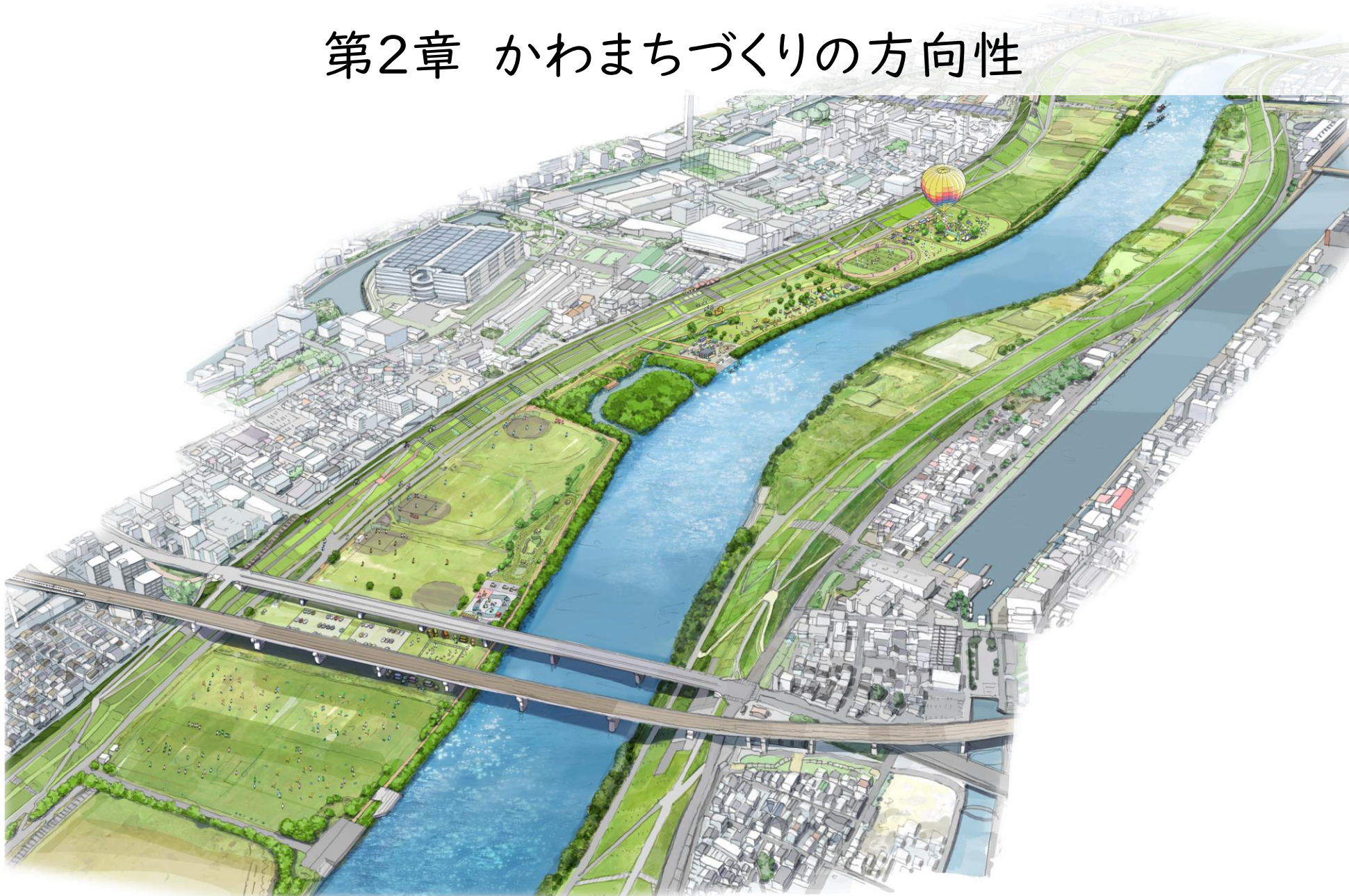
高島平緑地「りよくちであそぼう！」

河川管理施設として、「緊急用河川敷道路」、「緊急用船着場」が設置されており、大規模震災時における防災拠点として重要な役割を担っています。また、工作物を設置する際には、台風等による大量の雨による洪水時に備えて、河川の安全性等に影響を与えないよう、撤去できるようにしておく必要があります。

舟渡・新河岸エリア地区は、都内でも数少ない「工業専用地域」として指定されています。また、高島平地域では、高島平駅を中心とする交流核エリアで都市再生の第一歩をスタートしていきます。

河川の特徴、制限事項やまち側との連携を踏まえ、かわまちづくりに取り組んでいくことが大切です。

第2章 かわまちづくりの方向性



かわまちづくりの基本的な考え方

にぎわいと防災の2つを軸に、自然豊かな空間を整え、荒川河川敷の魅力及び機能向上をめざし、主要な5つの課題を解決するため、「5つの視点」を設け、整備や取組を推進します。

課題①

体育施設利用者を中心としたスポーツ利用が多くなっているため、新たな利用者層を獲得するとともに、広大なオープンスペースを活用し、河川空間を訪れる人々を増やしていく必要があります。



視点1：区のブランドとなる充実したコンテンツの創出

新たな利用者層を獲得し、河川空間を訪れる人々を増やしていくため、区のブランドとなる充実したコンテンツを創出します。

視点1の方向性

- にぎわいの核となる拠点等の整備に取り組みます。
- 荒川河川敷への新たな利用者誘致に取り組みます。



課題②

トイレ機能の改善や休憩所・日よけ等設置による暑さ対策など、既存機能の充実や、特徴であるみどりに恵まれた荒川河川敷の自然環境の維持・充実を図っていく必要があります。



視点2：既存機能の充実

体育施設等をはじめとした河川空間利用者の利便性向上、みどりに恵まれた河川環境を活かすため、既存機能の充実を図ります。

視点2の方向性

- 既存施設等の充実により、利用者の利便性向上を図ります。
- 特徴であるみどりや水辺空間の利活用を促進します。



課題③

新たな利用者獲得や既存機能の充実を図っていくには、行政の取組促進や工夫とともに民間事業者のノウハウや資金等を活用し、インパクトのある事業展開や安定した運営を進める必要があります。



視点3: 公民連携の推進

インパクトのある事業展開や安定した運営を行うため、事業手法を工夫するとともに、民間事業者のノウハウ等の活用により公民連携を推進します。

視点3の方向性

- 事業手法を工夫し、新たな民間活力の導入をめざします。
- 関係指定管理者と連携を図り、機能向上に取り組めます。



課題④

震災時における避難場所や、水害対策として高台まちづくり等の取組などが進んでいる一方で、気候変動等による激甚災害が増加していることなどから、より一層の防災機能の充実を図る必要があります。



視点4: 防災機能の充実

震災時における支援物資等の拠点としての役割や水害対策である高台まちづくりのさらなる推進に向け、防災機能の充実を図ります。

視点4の方向性

- 国との連携を強化し、防災機能活用を推進します。
- 高台まちづくりによる水防災の取組を促進します。



5つの視点の考え方

視点1から3については「にぎわいのバージョンアップ」として河川敷内やにぎわい創出に関する整備や取組の充実を図ります。

視点4、5については「防災」、「『まち』側との連携」により、波及効果を狙います。

課題⑤

河川敷までの交通アクセス改善や高島平まちづくりの展開を踏まえるなど、周辺エリアと連携し、課題解決とともに特徴を活かした将来的なまちづくりに貢献する取組を進めていく必要があります。

視点5:まちづくりとの連携

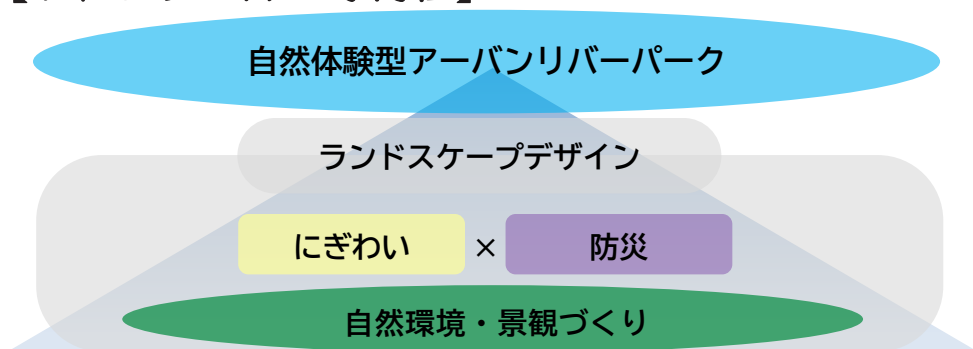
かわ側とまち側のつながりにより、相互の課題解決を図るとともに新たな価値を創出するため、まちづくりとの連携を図ります。

視点5の方向性

- かわとまちをつなぐ交通アクセスの機能充実に取り組みます。
- 高島平まちづくりと連携し、新たな価値創出に取り組みます。



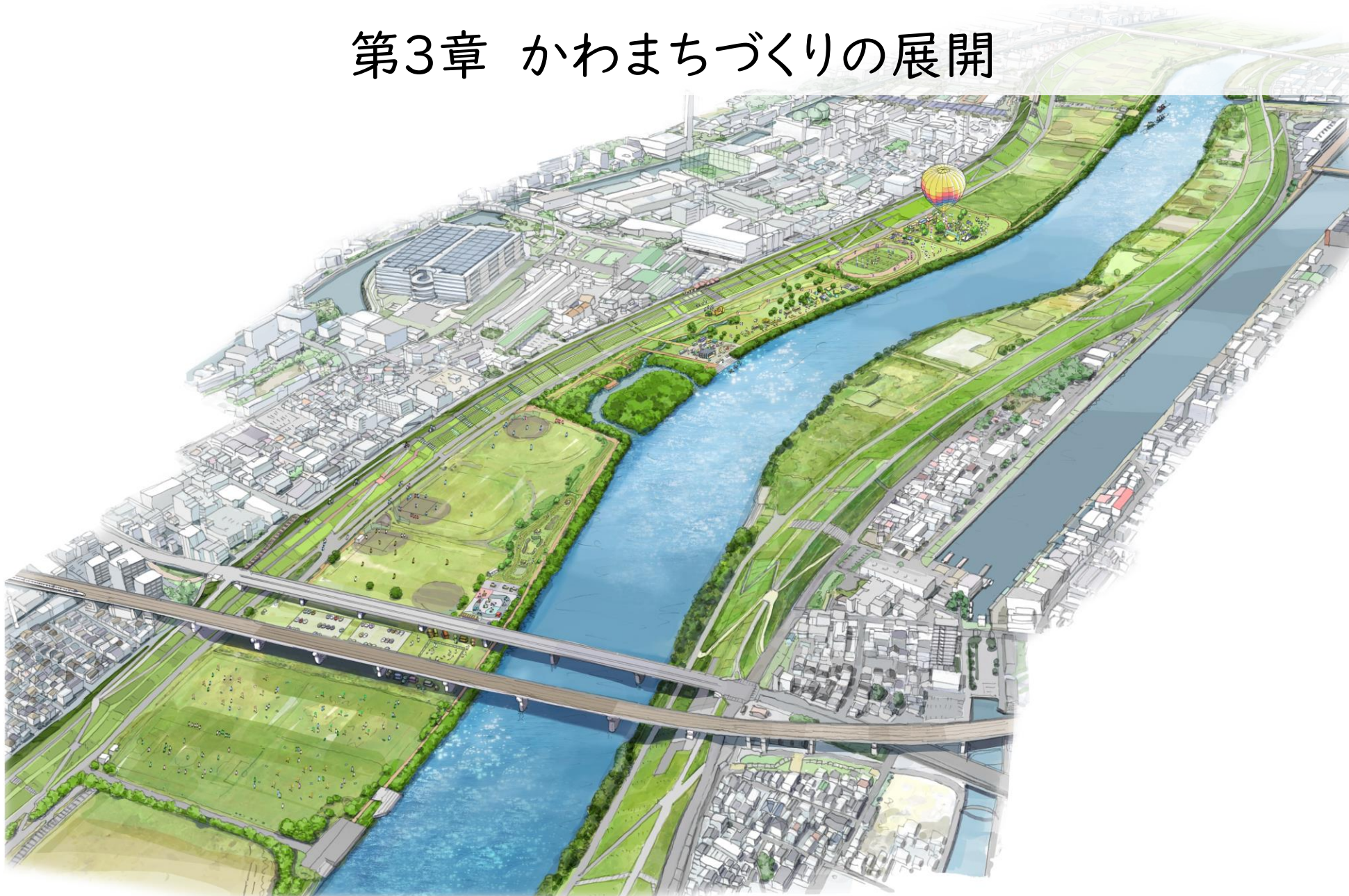
【かわまちづくりの方向性】



かわまちづくり推進の5つの視点と方向性

バー ジ ョ ン ア ッ プ	視点1 区のブランドとなる 充実したコンテンツの創出	方向性1 ○にぎわいの核となる拠点等整備 ○河川敷への新たな利用者誘致
	視点2 既存機能の充実	方向性2 ○既存施設等利用者の利便性向上 ○みどり・水辺の利活用促進
	視点3 公民連携の推進	方向性3 ○新たな民間活力の導入 ○関係指定管理者との連携促進及び機能向上
視点4 防災機能の充実	方向性4 ○国との連携による防災活用の推進 ○高台まちづくりによる水防災の取組促進	視点5 まちづくりとの連携
		方向性5 ○まちをつなぐ交通アクセスの機能充実 ○高島平まちづくりとの連携・新たな価値創出

第3章 かわまちづくりの展開





各ゾーンの現況

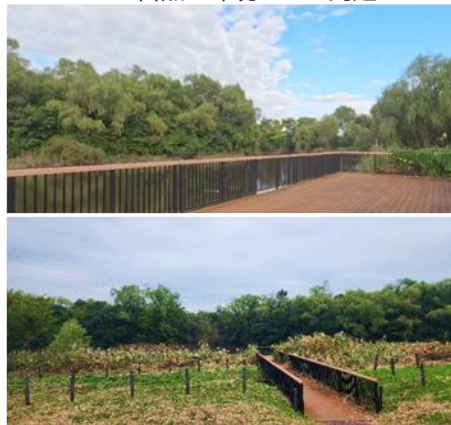
I スポーツ・カルチャー発信ゾーン周辺



II 水辺のにぎわい・アウトドアゾーン周辺



III 自然・環境ゾーン周辺



IV スポーツ・アクティビティゾーン周辺



めざすべきゾーニング像

自然豊かな空間を整え、各ゾーンの特徴を活かした取組を展開し、河川空間とまち空間の融合をめざします。

整備・取組の方向性

プロムナード等の整備やみどりの利活用を進めるとともに、モビリティ等導入により、連鎖的な水辺空間を創出します。



主な取組

- プロムナード・親水護岸の整備
- 環境、植生等と調和した景観づくり
- 災害時を想定した工作物等の導入・活用
- エリア内外アクセス改善に向けた機能導入

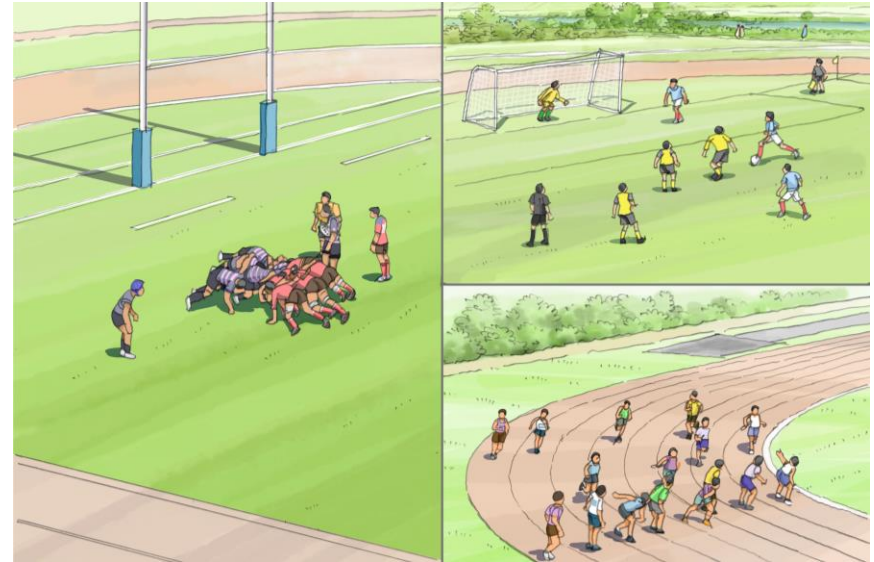
めざすべきゾーニング像

スポーツ機能の拡充や様々なイベントを開催することで、多くの人々が訪れ、活気あふれる場をめざします。



整備・取組の方向性

荒川戸田橋陸上競技場の改修や自然を活かした広大なオープンスペースを設け、大規模イベント等の拠点として活用を図ります。



主な取組

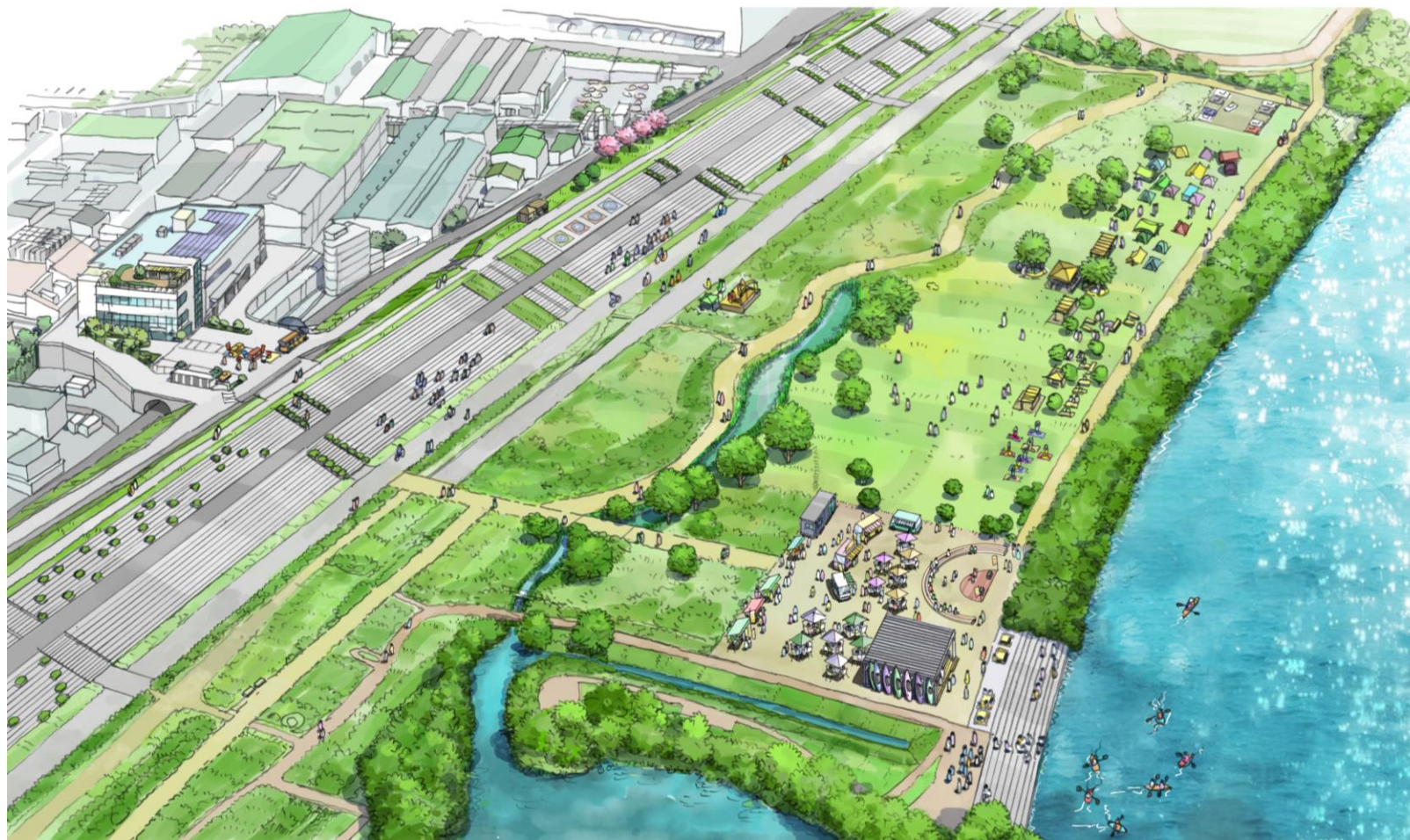
- 広大な草地広場や戸田橋陸上競技場を活用し、大小様々なイベントを実施します。
- イベントや通常時でも子どもが楽しめる空間づくりを進めます。
- 荒川戸田橋陸上競技場を改修し、陸上やサッカー利用の充実を図るとともに、新たにラグビー機能を設けます。

取組例



めざすべきゾーニング像

水辺空間の利活用や屋外体験等のレクリエーションにより、誰もが楽しめ、憩える場をめざします。



整備・取組の方向性

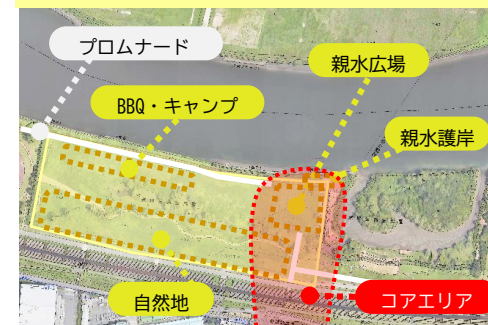
親水広場の整備やカフェ・レストラン機能を設けるとともに、リサイクルプラザや自然地の利活用を見据え、「コアエリア」としてにぎわいの拠点づくりを進めます。



主な取組

- 中規模自然地を活用し、みどりあふれる空間でのバーベキュー機能拡充やキャンプ等の屋外レクリエーションを導入します。
- 親水広場や親水護岸を整備し、水辺・水際利用を推進します。
- カフェ・レストラン等の飲食機能の他、ゾーン全体の充実に向け、電気・水道を設置するとともに、リサイクルプラザの利活用を検討します。

取組例



めざすべきゾーニング像

豊富な緑や河川環境、多様な生物の生息地である自然環境を整え、みどりあふれる場をめざします。



整備・取組の方向性

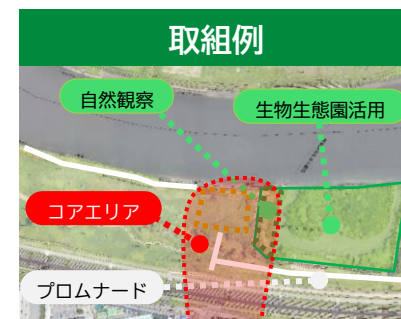
生物生態園のワンド等の地形を活かすとともに、自然環境の機能向上を図ることで、みどりの拠点となる空間づくりを進めます。



主な取組

- 生物生態園を活用し、自然に触れ合え学べる機会の充実を図ります。
- 多様な生物の保全やみどりの充実に向けて、適切な整備や維持管理を実施します。
- 河川敷の資源である水辺空間及び豊富なみどりの利活用に向けて、生物生態園のあり方を検討します。

取組例



めざすべきゾーニング像

新たなアクティビティの提供やスポーツ利用者等の利便性向上を図り、たくさんの人々でにぎわう場をめざします。



整備・取組の方向性

マウンテンバイクコース等の整備やキッチンカーの配置・トイレの充実など、かわまちづくりの玄関口となる駐車場の充実を図ります。



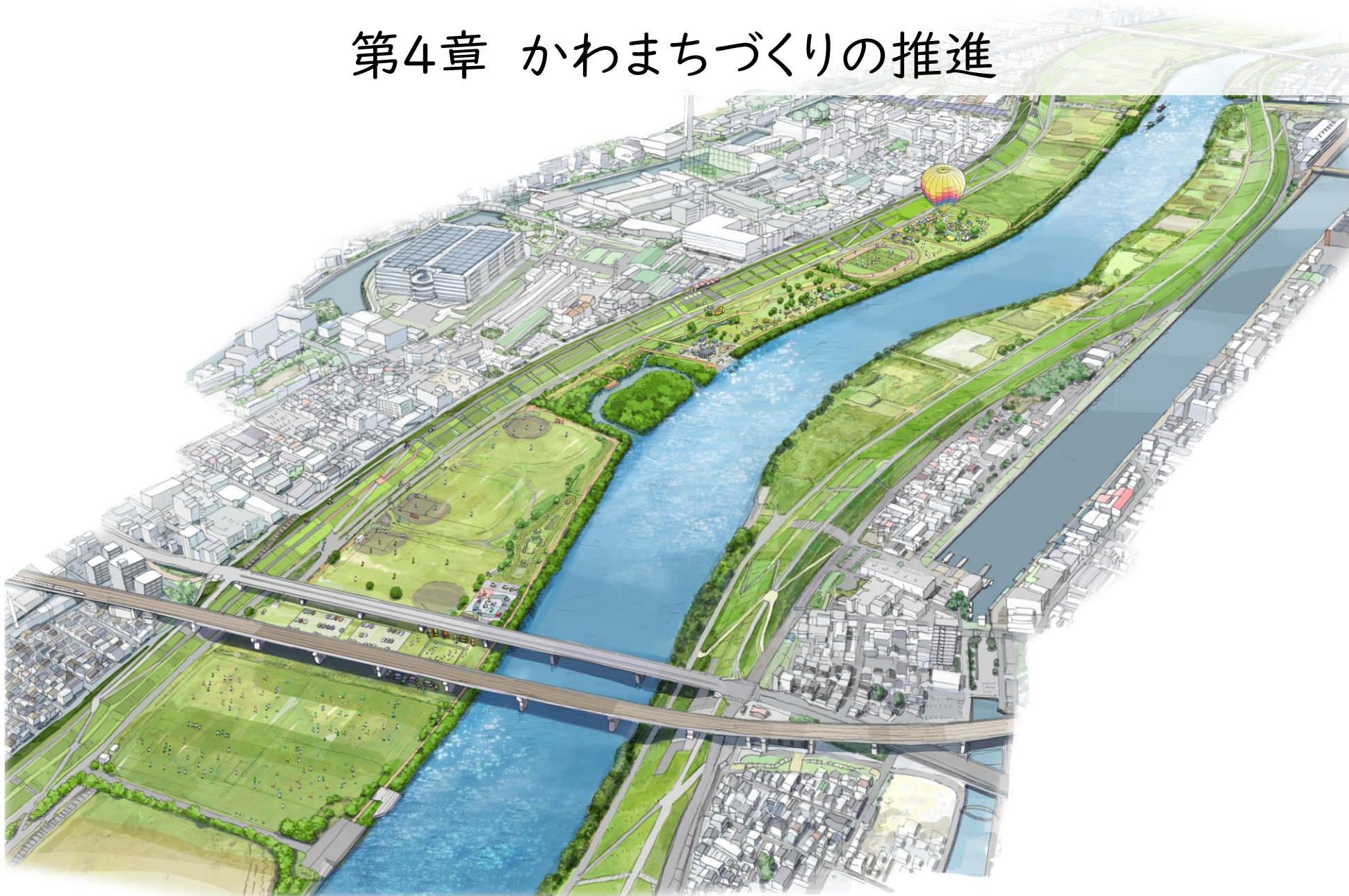
主な取組

- 来場者数確保に向けて、駐車場拡充やたくさんの人々が集える場を提供します。
- 多様なスポーツが実施できるフィールドを整備します。
- 駐車場からのアクセスを活かし、多世代が訪れることができるアクティビティ機能を設けます。

取組例



第4章 かわまちづくりの推進



かわまちづくりの公民連携のあり方

サウンディング型市場調査の結果を踏まえた課題

- ①民間整備は多額の経費を初期投資に要すことから収益還元は難しく、全体の事業規模及び区の投資可能な範囲等、早い段階での開示が求められています。
➡一定程度区の初期投資(整備)が必要
- ②民間事業者の参入は、人が来る環境が形成されるかが鍵であり、にぎわいを創出しやすい場所の集客、多目的利用の視点など、ソフト面の取組が重要となります。
➡集客に向けたデータ取得やかわまちづくりの機運醸成を図ることが必要
- ③民間の資金調達のみならず参入しやすい事業手法として、DB方式や指定管理者制度等が望ましく、関連する指定管理者施設と一体で管理することも効率的となります。
➡関連する指定管理者との連携や協議が必要

取組方針

- ①にぎわい拠点づくり
 - 事業実施及び事業者参入に向けて、親水広場周辺の「コアエリア」から整備を進めます。
 - 生物生態園等の現況や荒川将来像計画の土地利用区分を踏まえた整備内容とします。
- ②にぎわい機能の拡充
 - 利用者ニーズや事業運営の課題等の整理、かわまちづくりの機運醸成を図るため、トライアル・サウンディングを実施します。
 - トライアル・サウンディングの結果や現在の荒川河川敷の状況等も踏まえ、にぎわい創出に資する新たなイベントや既存機能の拡充に取り組みます。
- ③事業手法等検討及び事業者公募実施
 - 国と連携し、水辺の利活用に向けてプロムナード・親水護岸の整備を進めます。
 - 河川敷の関連指定管理者の現状を踏まえ、事業連携や効果的な運営をめざします。

取組方針

取組方針① にぎわい 拠点づくり

- 【主な取組】
- 親水広場・園路等コアエリアの整備・運営
 - 生物生態園等、自然の有効活用
 - 車両・トイレ等工作物の導入
- など

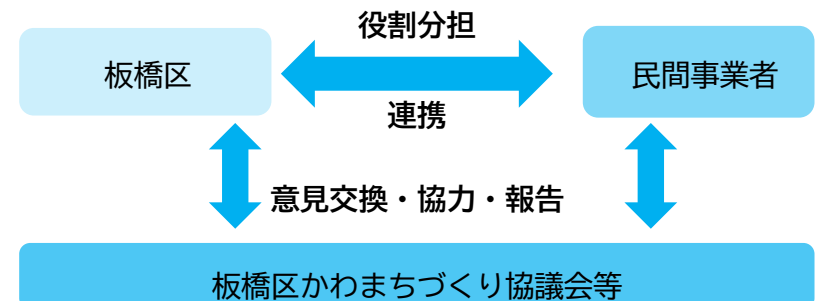
取組方針② にぎわい 機能の拡充

- 【主な取組】
- トライアル・サウンディングの実施
 - 新たなイベント・機能拡充に向けた取組
 - 荒川戸田橋陸上競技場の改修
- など

取組方針③ 関係機関 との連携

- 【主な取組】
- プロムナード・親水護岸の整備
 - 関係指定管理者との連携
- など

共創空間構築に向けた推進体制



かわまちづくりの整備・取組のスケジュール及び事業量

取組方針	整備・取組内容	R 8年度	R 9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度以降
①にぎわい拠点づくり	コアエリアの整備・運営	調査・基本設計	事業者公募	詳細設計・整備	管理・運営		
	車両・トイレ等工作物の導入	準備	製作	活用			
②にぎわい機能拡充	ソフト事業充実	トライアル・サウンディング	新イベント機能拡充				
	荒川戸田橋陸上競技場の改修	整備実施					
③関係機関との連携	プロムナード等の整備	ゾーンごとに整備実施（国）					
	関連指定管理者の指定期間	2年目	3年目	4年目	5年目再選定	再1年目	再2年目

整備・取組内容

①にぎわい拠点づくり

- 拠点となる水辺のにぎわい・アウトドアゾーンの親水広場や園路を中心としたコアエリアの整備に着手するとともに、隣接する生物生態園及び中規模自然地の有効活用を進めます。
- コアエリアの整備・運営に向けては、効果的な事業者公募を実施します。
- 整備と併せて、集客に向けて車両やトイレをはじめとした工作物を導入します。

②にぎわい機能拡充

- 令和8(2026)年度には、民間事業者主体でトライアル・サウンディングを実施します。
- トライアル・サウンディングの実施状況を踏まえ、にぎわい拠点づくりと併せて、新たなイベントの実施や既存機能の拡充に区主体で取り組みます。
- 荒川戸田橋陸上競技場を改修し、新たにラグビー機能を設けます。

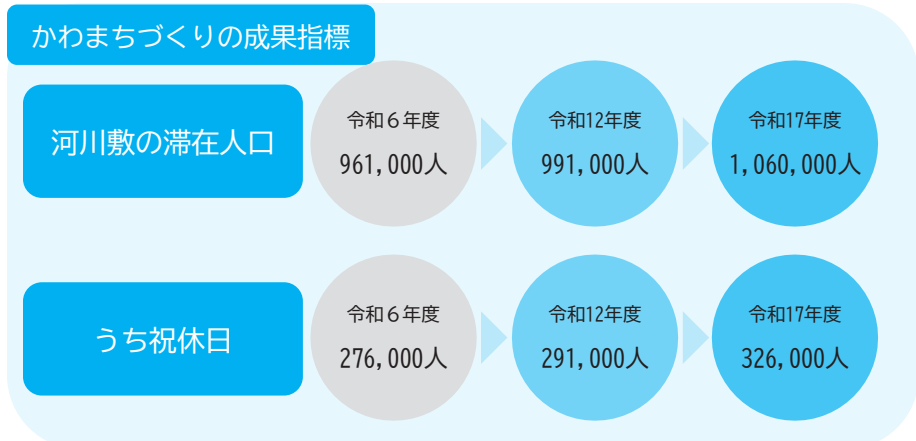
③関係機関との連携

- プロムナード等の整備について、河川管理上必要な整備は、国にて実施し、その他機能向上部分は区の負担により実施します。
- 関連指定管理者の指定期間も考慮し、効果的な事業運営に取り組みます。

かわまちづくりの目標値

かわまちづくりの目標値は、第2期整備エリアの草地広場周辺から戸田橋（荒川戸田橋緑地サッカー場含む）の区間に1時間以上留まっている人々を「河川敷の滞在人口」と定義し、最終成果指標として設定します。

目標年限については、区の総合計画である「板橋区基本計画2035」の計画期間も考慮し、令和17（2035）年度とします。また、今後の整備等の進捗や事業者公募実施も見据え、中間となる令和12（2030）年度にも目標値を定めます。



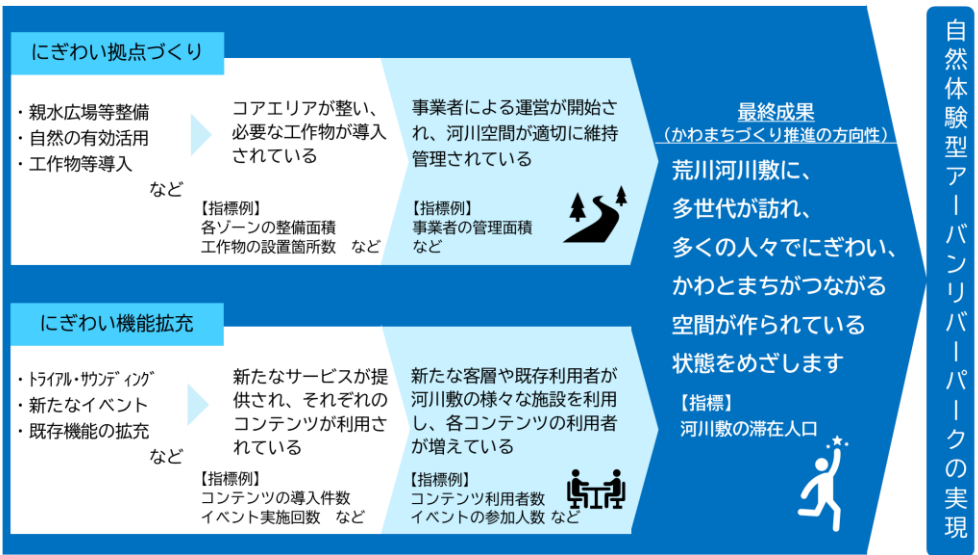
- 滞在人口の合計については、令和17（2035）年度までに令和元（2019）年度を越える約10万人（約10%）増の1,060,000人をめざします。
- 特に、休日の滞在人口については、今後のにぎわい機能の充実も踏まえ、約5万人（1週間あたり約1,000人程度）増をめざします。
- 中間年次にあたる令和12（2030）年度は、コアエリアのみ事業者による本格運営直後であることも踏まえ、合計で約3万人（1週間あたり約600人程度）、祝休日で約15,000人（1週間あたり約300人程度）の増加を目標値とします。

第2期整備エリアの滞在人口（草地広場周辺から戸田橋（サッカー場含む））区間

項目	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	平均
平日		772,000	780,000	710,000	720,000	722,000	685,000	731,500
休日		279,000	231,000	237,000	222,000	276,000	276,000	253,000
合計		1,051,000	1,011,000	947,000	942,000	998,000	961,000	985,000

データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」
 調査に用いたデータはau（KDDI）スマートフォンの位置情報ビッグデータ。
 （auスマートフォンユーザーからの同意に基づき取得し、個人が特定できない形式に加工した位置情報および属性（性別・年齢層）情報データ）
 ・データには20歳未満、およびインパウンド観光利用者のデータは含まれません。
 ・分析結果の数値は全自交推計値（サンプルを、国勢調査の市町村別・性年代別人口に基づいて拡大した値）となります。
 ・平均を除く表中の数値は1,000人未満を四捨五入にて表記しています。

【目標達成イメージ】



自然体験型アーバンリバーパークの実現

